２０２４年度発達支援まとめ＜事業報告＞

〇総括

児童発達支援では「子どもが自分で周りの動きに気付き集団行動ができるようになる」を目標に、児童発達支援ガイドラインの５領域に沿って、ひとりひとりの発達や特性に合わせながら支援をしました。

集団生活や集団活動の中で、子供が主体的に自分で気づき動ける力がついている・集中して話を聞くことができる・自分から活動に参加できる・身体全体の機能の向上、語彙が増えるなど、個別支援計画に合わせた支援をしました。

支援者との関りを通して集団生活の中で安心して過ごせるよう環境を整えたり、集団遊びの中で他者と言葉でのやり取りや、コミュニケーション力に繋げたり、集団生活や活動の中での過ごし方や取り組み方、約束事やルールなどを伝えていきました。

微細運動では、モンテッソーリの教材を提供し、子供たちが興味を持てたり、自分で選択して楽しめる内容を取り入れ、腕や指先に力が入るようにしたり、鉛筆やハサミ、お箸などを持つ力に繋げていきました。感覚遊びでは、活動内容の工夫、視覚支援、環境を整えながら、五感を刺激する活動に取り組めるようにしたり、色や形、大きさなどの認知面の向上に繋げていきました。運動遊びでは、前庭感覚・固有感覚の発達を促す遊びに取り組み、体幹を鍛えたり、バランス力や力のコントロールに繋げていきました。

基本的生活習慣では、挨拶・準備・排泄・着脱・手洗い・食事など習慣化できるよう支援をしたり、少しずつ自分でできることを増やしていきました。

また、保護者の方との面談やその他関係機関との連携をとり、相談支援員が間に入りながら支援を進めていきました。

〇主要な結果

子ども一人一人の発信に支援者が応え、二項関係から三項関係に繋げたり、信頼関係ができることで、「相手を見る・相手の話を聞く・模倣ができる」につながり、集団生活の中で一斉指示が聞けるようになったり、今するべきことに気が付いたり、自分でできることが増えてきました。ひとりひとりの成長段階や特性を理解したり、行動観察をしたり、目標を立て実行、評価、改善を繰り返すことで、本人に必要な支援や本人が納得して取り組める関わり方をすることで、自分で取り組む力につながりました。

〇学び・反省

モニタリング面談やアセスメントなど、子ども一人一人の特性の理解、発達検査など今後も総合的に考え、分析していく必要があることが分かった。子どもの行動面を事前に把握したり、予想を立て、支援者で共有し環境を整え、子どもがスムーズに動けるようにしたり、ヒヤリハットが起きないように配慮する為には、十分な準備時間とゆとりが必要であることがわかった。

〇次年度への課題

支援者ひとりひとりが子どもとの関わりに責任をもち、子どもの気持ちや動きにアンテナを立て、子どもとの関わり方のスキルを持ち、支援ができるようにする。特性や個々に合わせて教材や視覚支援の準備、環境を整え、子どもが安心して楽しく過ごしたり、自分でできることが増え、自己肯定感が高まる居場所になるように支援していきます。

事業所	対象	活動報告	実施	実施場所	担当
基本的生活習慣	午前 利用	挨拶・準備・手洗い・食事・排泄・着脱など、同じタイミングで取り組めるよう視覚支援と声掛けで促し、習慣化を目指しました。支援者との関係を築き、見る・聞く・模倣するができるような関わり方をし、１つ１つ支援者と一緒に取り組み、少しずつ自分でできるように促しました。その結果、自分から挨拶をしたり、トイレに行き排泄をしたり、手を洗った後は、タオルで拭く、畳むなど一連の流れが定着してきました。また、スプーンやフォークの持ち方を見本や写真で示すことで、自分から正しい持ち方で食事をしようとする姿が見られるようになりました。	常時	のんたん	全員
感覚あそび	午前 利用	「色々なものを見て五感を養います」という目標を設定して活動を行いました。前半は色々なものに触れてみんなで遊びました。触覚や視覚、聴覚などを通してわかる言葉が増えてきました。後半では個々の発達にあった活動と集団活動を行うことで、自分から楽しめるようになりました。繰り返し同じ活動を行うことで、自分で考えてできる事や言葉や単語が増えてきました。	毎週 火・水 曜日	のんたん １階 テラス	中道
微細運動	午前 利用	「腕や手の筋肉を使用する運動に取り組むことにより、自由に関節を動かし細かい動きができるようになります」を目標に活動に取り組みました。 指先を使った遊びが楽しめるよう、個々の発達に合わせて、本人がやってみようと思えるような題材を提供したり、自分で課題を選択して取り組めるようにした結果、卓上課題に取り組む経験が増え、集中して取り組めるようになってきました。見本や視覚支援で取り組み方をわかりやすく伝え、プットイン遊びや、シール貼り、書く遊びなどに段階的に取り組み、指先を使用した遊びが楽しめるようになりました。	隔週 金曜日	のんたん １階 ４階	宮田

運動あそび	午前 利用	「全身運動（歩く・走る・跳ぶ）・階段上り下り・大型遊具を使った運動で体幹を鍛える」ことを目標に、身体のバランスやコントロールする力を養い、体幹を鍛えることで体の軸を整える活動に取り組みました。 歩く・走る・全身運動・大型遊具など体を使った遊びが伸び伸びと楽しめるよう、４階広場でも取り組みました。子どもたちの成長に合わせた運動遊びの提供と環境設定をした結果、遊具に合わせた体の使い方を知ったり、お友だちと体遊びを楽しめるようになりました。また、階段運動や GO＆STOP 運動にも取り組むことができました。	隔週 金曜日	のんたん １階 ４階	宮田
基本的生活習慣	午後 利用	挨拶・準備・手洗い・排泄などの習慣化できるよう支援し、本人が自主的に取り組めるよう見守ったり、必要な時には本人が次にすることに気が付き考えて行動ができるような声掛けをしたり、少しでもできたり、取り組もうしたときには褒める支援をしました。その結果、自分から挨拶をしたり、準備や手洗い・排泄など、自分から行動がとれるようになりました。	常時	のんたん １階 のんたん	全員
感覚あそび	午後 利用	「色々なものを見て感じて五感を養い言語化にもつなげます」という目標を設定して活動を行いました。活動には全員参加できました。ドロドロしたものが苦手で最初はカップや道具を使っていた子供も回数を重ねることによって手で触れることが出来るようになっていきました。 「冷たい・さむい・ざらざら」など手や体で感じたことを支援者が代弁することで表現の方法が分かり言語化できるようにもなってきました。もっとやりたい気持ちを育むことで「○○下さい。」等の要求の言葉もよく出るようになりました。 色々なものを触ったり、音を感じることによって、様々な感覚を養いました。	毎週 火・水 曜日・	のんたん １階	加納

運動遊び	午後 利用	・「全身運動（歩く・走る・跳ぶ・階段上り下り）や遊びを通して、体幹を鍛え、身体がスムーズにコントロール出来る様になります ・(大型遊具を含む)「お友達との運動や遊びを通して集団でのルールや他者との関わり方、相手を思いやる気持ちを育てます。 ・「ボール遊びを楽しんだり、ジャンプ遊びを楽しんだりできるようになります」という目標を設定して行いました。 毎回、４階に上がることはでき、一人で上り下りできる子も増えました。前の人を抜かさない、走って登らないという階段のマナーも定着しました。 活動のはじめと終わりにお山すわりをしてきちんと挨拶をする。前で話をしている支援者の話を聞くことも定着しました。 遊具を使った運動（トランポリン・トンネル・平均台・はしご・滑り台）・ジャンプ遊びを中心に行い全身運動や身体のコントロールも良くなりました。 両足ジャンプやケンケンパーもできる子が増えました。 年度末にボールを投げる・受ける・後ろ歩き・両足ジャンプ、片足跳びなどができるかチェックしましたがほとんどの子ができていました。 ・集団遊びでは、鬼ごっこ・しっぽとり・氷鬼などを楽しみました。じゃんけんをして鬼を決めたり、タッチされたら座るなどもできるようになりました。鬼をするのを嫌がる子もいましたがやってみようと思えたり、勝ち負けにこだわる子もいましたが、負けても大丈夫、楽しいと思えるようになりました。 天気の良い日は、散歩に出かけ、散歩のマナー（支援者と手をつなぐ・車に気を付ける）もわかり、公園で滑り台やドングリを拾ったりシャボン玉などをして楽しむことができました。	毎週 木曜日 金曜日	のんたん ４階	柴田 植田

微細運動	午後 利用	「腕や手の筋肉を使用する運動に取り組むことにより、関節を動かし細かい動きができるようになります」を目標に取り組みました。ゴム通しや、洗濯ばさみ遊び、プットインなどの遊びを通して、お箸や鉛筆、ハサミを支える３本の指先に力が入るようにした結果、ぬりえやお絵かき、ハサミを使っての創作など、自主的に取り組めるようになりました。また、個別での取り組みを通して、ハサミで１本切りや、連続切りができるようになりました。	毎週 月曜日	のんたん １階	瀬川
土曜日	午後 利用	「支援者やお友達とコミュニケーションを図りながら、色々な活動（集団・運動・感覚・創作）を楽しみます」「子供たちの好きなことを取り入れ楽しみの幅を広げていきます」という目標を設定して活動を行いました。ゆっくりした時間の流れで、好きな遊びを楽しめていました。一人一人と向き合いコミュニケーションを図ることができました。活動は創作を中心に行いました。季節の創作やシールを貼る・色を塗る・絵を書くなど行いました。子供たちが自分で考え工夫して積極的に取り組めていました。お絵描きが苦手だった子もお絵描きが好きになったり、描いた絵を切ったりして遊ぶ事も増えました。	毎週 土曜日	のんたん １階	柴田 永澤

＜利用者状況＞

児童発達支援

利用月	利用人数（人）	利用日数（日）	一日平均（人）
令和６年４月	１４７人	２３日	６．３９人
５月	１３５人	１８日	７．５人
６月	１５０人	１８日	８．３３人
７月	１５６人	23日	６．７８人
８月	１３５人	２０日	６．７５人
９月	１７０人	２１人	８．１人
10月	１７２人	２４日	７．１７人
11月	１７６人	２１人	８．３８人
12月	１７６人	２１日	８．３８人
令和７年１月	１９１人	２１日	９．１人
２月	２０９人	２０日	１０．４５人
３月	２２５人	２３日	９．７８人

年間平均人数一日　　８．１９　人

令和６年度　発達支援年間計画報告書

（目標）　子供が自分で周りの動きに気付き集団行動ができるようになる

午前

活動	担当	ねらい	
		4月～9月	10月～3月
日常生活	全員	**基本的な生活習慣が身についてきました。自分でできることが増えてきました。** 挨拶・準備　・かたづけ・手洗・　食事　・排泄　　・替え・たたむ・支援者との関わり方	
＜運動遊び＞ 金曜日	宮田	**・全身運動（歩く・走る・跳ぶ）・階段上り下り・大型遊具を使った運動で体幹を鍛えました。** **・身体のバランスやコントロールする力を養ったり、体幹を鍛えることで体の軸を整える活動にとりくみました。**	
		・支援者と一緒に階段の上り下りができるようになりました。 **・支援者と関わりを持ち体遊びが楽しめるようになりました。** **・体を使った、模倣ができるようになってきました。**	**・歩く・走る・跳ぶはできるようになりましたが、ケンケンは難しいです。** **・体を使って楽しむことができるようになりました。**
		・階段上り下り・ふれあい遊び・ハイハイ ・走る（追いかけっこ・支援者やお友だちとグルグル走る） ・大型遊具や遊具を使った運動（丸、波型平均台・マット等） ・風船遊び・散歩等・ボール	・走る（支援者やお友だちとグルグル走る・コーンに向かって走る） ・体遊び（ジャンプ・ケンケンパー）GO&STOP ・大型遊具や遊具を使った運動（丸、波型平均台・平均台・トンネル・鉄棒）・風船遊び・散歩等
＜感覚遊び＞ 火曜日・水曜日	中道	**色々なものを見て感じて五感を養います。**	
		色々なものに触れる **触覚や視覚、聴覚などを通して、言葉や単語が増えます。**	**色々なものに自分から触れて楽しむ** **触覚や視覚、聴覚などを通して、言葉や単語が増えます。** **力のコントロールができるようになります。**
		・ボールプール　・砂遊び　・氷遊び　・片栗粉遊び　・新聞遊び　・お散歩　・しゃぼん玉　・積む　　・パラバルーン ・聴覚あそび（色々な物を叩いてみる、楽器）　・嗅覚あそび（身の回りの物、自然物等）　・触覚あそび（身の回りの物、自然物等）	
＜微細運動＞金	宮田	**腕や手の筋肉を使用する運動に取り組むことにより、関節を動かし細かい動きができるようになってきました。**	

曜日		**指先を使った遊びが楽しめるようになりました。クレヨンを使うことに抵抗があり、難しかったです。**	
		肩を動かす→肘を動かす→手首を動かす→手のひら全体でつかむ（前半）	**親指とその他の指で持つ→親指と人差し指でつまむ（後半）**
		にぎる・まるめる・やぶる・入れる・通す・刺す・貼る（積み木・型・型はめ・シール・マグネット・スタンプ・ゴム通し・棒通し）	つまむ・はさむ・移し替える・ねじる・なぐり書き（洗濯ばさみ・水遊び・くれよん・色鉛筆）

午後

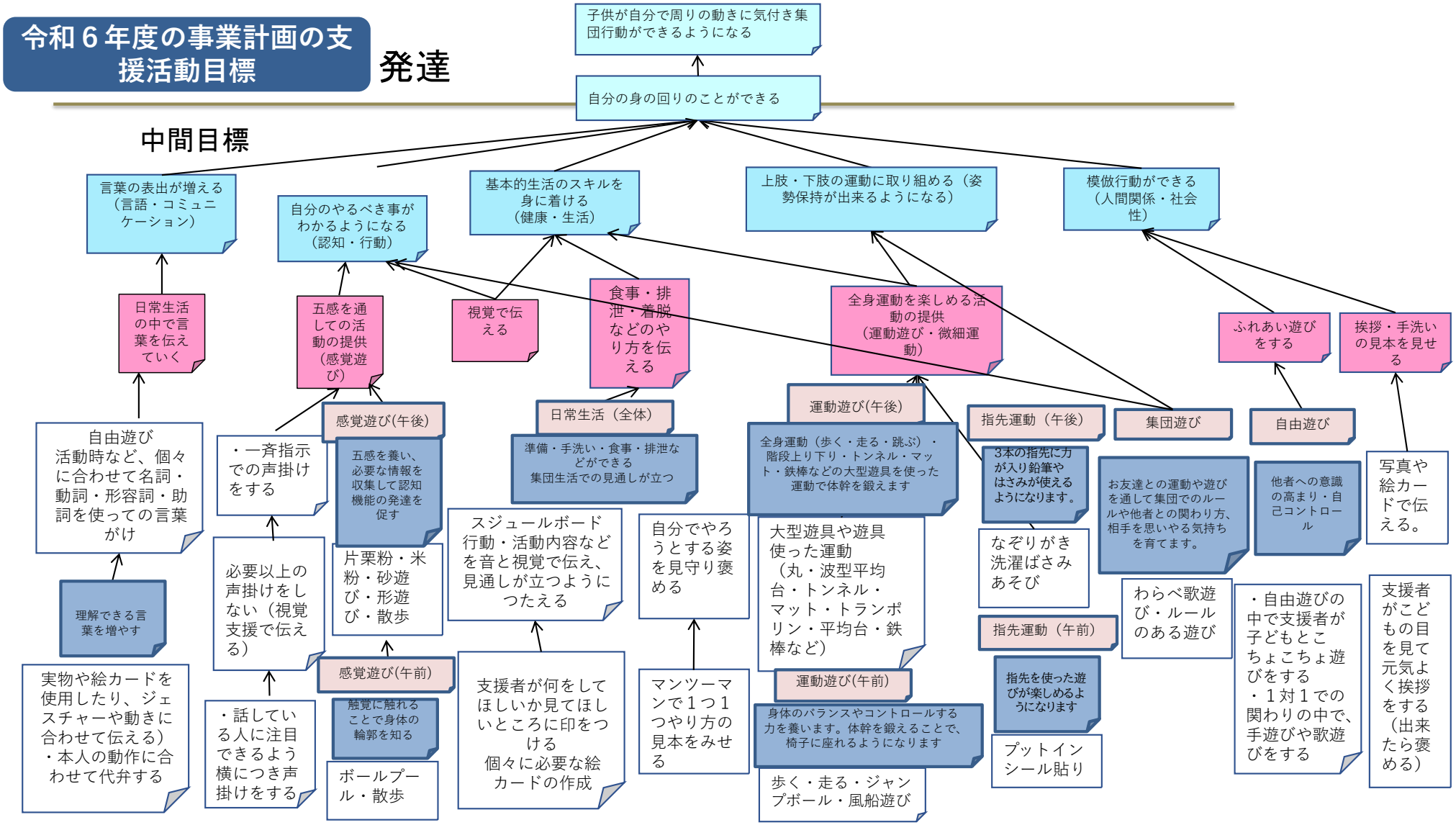
活動	担当	ねらい	
		4月～9月	**10月～3月**
日常生活		**やり方がわかり、自主的に行動ができるようにします。** 挨拶　準備　かたづけ　手洗い　着替え　たたむ　支援者との関わり方	
＜運動遊び＞ **木曜日** **金曜日**	**柴田** **植田**	**・全身運動（歩く・走る・跳ぶ）・階段上り下り・大型遊具を使った運動・遊びを通して、体幹を鍛え、身体がスムーズにコントロール出来る様になります。** **・お友達との運動や遊びを通して集団でのルールや他者との関わり方を知り、相手を思いやる気持ちを育てます。**	
		・全身を使った遊びや運動をすることによって、目、手足が協調して、身体の動きがスムーズになるようにします。 **・支援者やお友達と触れ合いながら親しみを感じ、一緒に遊ぶ楽しさを知ります。**	**・全身を使った遊びや運動をすることによって目、手足が協調して、身体のバランスや力のコントロールができるようになります。** **・ルールを守りながら、お友達と一緒に同じ遊びや運動を楽しみ、他者を思いやる気持ちを育てます。**
		・階段上り下り　・走る（コーンにむかって走る・GO&STOP 等） ・遊具を使った運動（丸・波型平均台・平均台・はしご・トランポリン・トンネル・跳び箱等） ・伝承遊び（1 羽のカラス等） ・身体表現遊び（ことりことり・ロンドン橋等） ・風船を使った遊び ・ボールを使った遊び（玉入れ・かご落とし等） ・カード遊び（絵合わせ・かるた） ・身体遊び（ジャンプ・ケンケンパー） ・魚釣り等	・階段上り下り　・走る（コーンにむかって走る・GO&STOP 等） ・遊具を使った運動（丸・波型平均台・平均台・はしご・トランポリン・トンネル・跳び箱等） ・伝承遊び（あぶくたった・むっくりくまさん等） ・身体表現遊び（ことりことり・ロンドン橋等） ・風船を使った遊び（風船バレー等） ・ボールを使った遊び（投げる・受け取る等） ・カード遊び（絵合わせ・かるた） ・キャタピラー等 ・身体遊び（ジャンプ・ケンケンパー）

<table>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>・魚釣り等</td></tr>
<tr><td rowspan="3">＜感覚遊び＞
火曜・水曜日</td><td rowspan="3">加納
鎌垣</td><td colspan="2">色々なものを見て感じて五感を養い言語化にもつなげることができました。</td></tr>
<tr><td>色々なものに触れる
触覚や視覚、聴覚などを通して、言葉や単語が増えます。</td><td>色々なものに自分から触れて楽しむ
触覚や視覚、聴覚などを通して、言葉や単語が増えます。
力のコントロールができるようになります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">・ボールプール　・砂遊び　・氷遊び　・新聞遊び　・お散歩　・しゃぼん玉
・日用品遊び（紙やすり・スポンジ等）　・積む</td></tr>
<tr><td rowspan="3">＜微細運動＞
月曜日</td><td rowspan="3">瀬川</td><td colspan="2">腕や手の筋肉を使用する運動に取り組むことにより、関節を動かし細かい動きができるようになりました。・鉛筆やはさみが使えるようになってきました。</td></tr>
<tr><td>親指とその他の指で持つ→親指と人差し指でつまむ（前半）</td><td>3本の指先を使う（後半）</td></tr>
<tr><td>つまむ・はさむ・移し替える・ねじる・なぐり書き（洗濯ばさみ・水遊び・瓶を開ける）</td><td>・鉛筆（型に合わせて書く、線描き、頭足人、胴体、ひし形、首眉毛）・ハサミ（一本切り、連続切り、曲線切り）
ファスナー・ボタン・折り紙</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">＜土曜＞</td><td rowspan="3">永澤
柴田
瀬川</td><td>支援者やお友達と創作活動（季節を取り入れた造形遊び）を楽しみます。</td></tr>
<tr><td>創作活動を楽しむ</td></tr>
<tr><td>・折り紙・季節を取り入れた造形・塗る・書く・貼る・切る等</td></tr>
</table>

令和６年度の事業計画の支援活動目標

発達



2024 年度　事業報告書

特定非営利活動法人　ザ・ホープフル

全体事業内容

放課後等デイサービス　のんたん

○総括

放課後等デイサービスでは、子どもたち個々の特性を理解し、「自分のことは自分でできるようになる」「自己肯定感を持ち、高めることができる」「場面に合った適切な行動ができる」「社会のルールを知って守ることができる」ということを目標に、共有した支援の在り方を考えた。子どもたち個々の特性を把握するために、事例検討会を研修で行い支援者同士の意見の場を設け、共通した支援ができるように取り組んだ。設定活動では、無理強いせず活動の参加の有無を自己選択自己決定してもらい、自分で考える力を身につけていくことを繰り返し行った。

　対人関係の部分では、自分の思い（考えていること・感じていること）を要求も含めて、他者に伝える力も身につける取り組みを繰り返し行い、定着してきている子もでてきている。

年に 2 回、保護者の方とモニタリングを行い、個々のニーズに合った療育をおこなった。

○主要な結果

子どもたち個々の特性に合わせた支援の方法を支援者同士で観察・分析し、話し合い・共有することで統一した支援ができ、子どもたちのしんどさも改善され、落ち着いて過ごせていた。

低学年は椅子に座って話を聞くことができるように、導入方法を工夫し、子どもたちの興味あるものを一つ取り入れることにより、子どもたちの意思決定で積極的に設定活動に参加できていた。

高学年は全体的に自分で自主的にできる子も多くなってきているが、気が付くような声かけや見守り・視覚支援ツールが必要。その子に応じた言葉がけや視覚支援ツールを活用することで、子どもの言動が落ち着く。思春期に入る時期もあり、関わり方が難しくなるので、支援者のスキルアップが今後の課題となる。

○学び・反省

支援者の「やってほしい」という思いが強いこともあり、子どもが拒否することが見られる。なぜ「やりたくない」のか、「なぜ」という部分を支援者自身が子どもの立場に立って考える（想像）ことができず、押しつけになってしまっていることが反省。

支援者のスキルアップになるような研修や、支援者自身が「学ぼう」という姿勢をもつ必要がある。

子どもたちの経験不足が、お出かけを通して実感した。切符の買い方・電車のマナー・注文の仕方など、学校休業日・長期休暇期間を利用して色々な経験をしていく必要がある。

○次年度への課題

　子どもの「今」しか見るのではなく、放課後等デイサービスを卒業した「先の未来」まで支援者は想像して、どんなスキルを身につけておくといいか、その子に応じた課題を設定していく。

児童発達支援から放課後等デイサービスへ・低学年から高学年へ・高学年から中・高校生へぶつ切れになってしまわない円滑な流れの支援となる取り組みが課題である。

子どもたちの出来る事から、少しずつ色々な経験を何度も積み重ね、身に付けていくことが大切でもある。

対象 ： 放課後等デイサービス①③　低学年（小学１年生～3 年生）

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	担当
日常生活 5 領域 【健康・生活】	来所時の手洗い・挨拶を昨年度に引き続き、自発的に出来るように取り組み強化した。支援者から元気よく挨拶をするように心がけた。部屋に戻ってきた時には、「おかえり」と声をかけ「ただいま」と言えるように意識付けをした。 お出かけから帰ってきたら、手洗い・うがいをすることを、イラスト・文字等を使って視覚化にして伝え、実践をした。 また、来所時の準備のあと個々のスケジュールを見るように支援者が声をかけ、支援者と一緒にスケジュールを確認した。 帰りの車は、同じ車に乗る子ども同士が呼び合い、お友達を誘い掛けれるように、見て分かる車の写真カードにした。 〈挨拶〉支援者から元気よく挨拶をし、「返事を返すことが出来るようになる」ことを目標に取り組んだ結果、元気よく挨拶を返してくれる子どもが増えた。一方、学校で起こった出来事を引きずって来所する子どももいた。 〈手洗い〉コロナ感染症対策の影響から、自発的に手洗いをする子どもが多かった。自分のハンカチを持ってきている子どもが少なく、ペーパーで拭いている子どもが目立っていた。冬の季節には、水が冷たい為、給湯機を使用し、洗い易い環境にすると、嫌がる子どもはいなかった。手洗いの泡石鹸は、肉球スタンプの物を活用することで、嫌がらず楽しんで石鹸を使用する子どもが増えた。 お弁当・おやつの前には手洗い・消毒・黙食の絵カードを使用し徹底をした。並んで順番をまち、実行するといった流れが定着し、マナーや感染症対策にもつながっている。 ➡次年度は、引き続き「挨拶・手洗い・個々のスケジュールの確認」を重点としていきたい。また、個々の健康・体調などの変化に気付けるよう観察を行っていきたい。また、個々の学校での困りごとにも向き合っていきたい。 〈挨拶〉支援者が元気良く挨拶をし見本をみせ、挨拶しやすい環境設定をしていきたい。その場に合った挨拶を定着していきたい。 〈手洗い〉手を洗う必要性がわかるように、目で見てわかるもの（イラスト・動画など）を取り入れていきたい。ハンカチの持っていない利用児には、ペーパーを活用していきたい。 外遊びから帰ってきた時は、うがいも定着できるように、うがいの仕方から導入していきたい。 〈身だしなみ〉鏡を使い、服・髪などの乱れに気付けるように促し、整え方を支援していきたい。 〈全体的に〉写真・イラストを使い、個々に合わせて内容などを伝え、時間に応じた行動の切り替えにつなげていきたい。 子どもたち同士が誘い合い・声を掛け合える環境設定を作っていきた	常時	のんたん 2F	全員

	い。 座って話が聞けるように、活動・帰りの会の導入の仕方に工夫をしていきたい。説明・伝える事は、「簡潔・明確に」を意識し子どもたちが、飽きない・楽しそうと思えるものにしていきたい。 常に予期せぬ出来事が起こる事を予想して「〇〇かもしれない」行動をし、トラブル等を事前に防いでいきたい。			
集団あそび 5領域 【認知・行動】 【言語･コミュニケーション】 【人間関係・社会性】	ルールがシンプルで分かりやすい活動内容を取り入れた。集団行動が苦手な利用児には、役割（タイマー係・音楽係・点数係・審判などの個々に合ったもの）をお願いすると、積極的に集団活動に参加することができ、「できた」という自信・達成感・協調性につながった。不安な利用児には、見学だけでも大丈夫な事を伝え、不安が軽減できるようにした。また、支援者がわざとダメな行動をして見本を見せ、どうしてダメなのかを、利用児に聞き考える時間を取り入れた。自分勝手な行動をしてしまった時には、周りの良い行動を褒め、自分で気付けるような環境を設定し、気付けたことを褒めた。 ➡次年度は、まずは活動に参加し、話を聞くことから始め、「楽しそう・やってみたい」と思える活動内容に工夫していきたい。 簡単なルールから取り入れ、お友達とコミュニケーションを養っていきたい。参加したくない利用児には、何がしたいのかを聞き、可能であれば役割を与え自信をつけていきたい。 子どもたちが飽きないように活動内容に変化をつけていきたい。 段階を踏み、個人競技・二人一組・チームプレーと他者との関わる人数を増やしていくような遊びを取り入れていきたい。	月曜日 木曜日	のんたん 2F・4F	寺尾
運動活動 5領域 【運動・感覚】 【認知・行動】	身体を動かす楽しさを感じるために、かけっこ・玉入れ・キャタピラレース・ドッジボールなど、簡単なものから取れ入れた。 マットを使い、座って話を聞く場所を明確にしたが、正しい座位を保持することが難しい子どもが多かった。そのため、必要な子どもには椅子を準備した。 説明は、簡潔に・分かりやすく伝え、待つ時間を短くする工夫が必要である。 ➡次年度は、ダンス・体操など、楽しく身体を動かせる内容から取り入れていき、身体の使い方（ボールの投げ方・ジャンプ・など）基本的な動作ができるようにつなげていきたい。 水曜日の運動活動と一本化を検討していきたい。そのため、バランス感覚・集中力・注意力を養えるように、巧技台などをつかった内容も加えていきたい。 ルール（順番・押さない等）を守る大切さも身につけれるようにしていきたい。	火曜日	のんたん 4F	寒竹
運動活動 （大型遊具） 5領域 【運動・感覚】	平均台・はしごに高低差をつけ、子どもたち個々が考えて渡ることができた。毎週同じ巧技台を配置することで、できなかったことが、できるようになっていた子どもがいた半面、飽きる・物足りないという子どもも出てきた。ダウン症の子どもがいたため、トランポリンの使い方にも配慮をした。巧技台の種類が限られているため、子どもたち	水曜日	のんたん 4F	寒竹

【認知・行動】	が飽きないようにな工夫が必要である。 ➡次年度は、火曜日の運動活動と一本化を検討していきたい。			
創作活動 5領域 【運動・感覚】 【認知・行動】 【言語･コミュニケーション】	季節の移り変わりを感じながら手先の器用さを養い、お友達と一緒に作る体験をした。個々の発達段階に応じた物（バネはさみ･〇シール･曲線・直線パーツなど）を準備したため、無理なく活動をすることができた。作品の実物や写真付きの工程表を提示し、イメージがつきやすいように工夫をした。また、使ったものの片づけ方も手順書の中にいれ、視覚化した。 興味ある素材を取り入れたことで、積極的に参加し、個々の感性・想像力を養うことができた。また、季節に合った大きな壁面をみんなで仕上げることで、達成感が視覚を通して実感できた。 ➡次年度は、興味ある素材を取り入れながら、基本的な手法（切る・ちぎる・丸める・握る・折る・紐を通すなど）が身につくような内容にしていきたい。作品を通して個々の感性や想像力を引き出し、壁面を仕上げる「できた」という達成感につなげていきたい。季節・四季を感じる内容をと入りいれていきたい。また、使ったものの片づけ方を写真で伝え、習慣化できるようにしていきたい。	金曜日	のんたん 2F	豊永
お出かけ 5領域 【健康・生活】 【認知・行動】 【人間関係・社会性】	時計を使い、お出かけへ行く時間を伝え、子ども達同士で声を掛け合い、集合できるように誘い掛けをすると、お友だちへの意識付けもでき関わりへもつながった。 プロジェクターを使い、子ども向けの横断歩道・信号の渡り方・電車のマナー・店のマナーの動画を見てから、近隣の散歩・公園・スーパー等へ行った。分かりやすく真剣に見ている子どもが多かった。お買い物の手順書の中に「お願いします・ありがとうございます・持って帰ります」等の伝える言葉を付け加えることで、スムーズに買い物ができた。店内でのマナー・自動精算機の使い方など何度も経験することで、自信を持って買い物が出来る子どもが増えた。しかい、お店での注文は、練習では出来ていても、実際なかなか言えない子どもが多かったため、経験を積み重ねる必要がある。電車を利用し、切符の買い方・電車でのマナーも実践したが、カードが普及しているせいか、切符の買い方がわからない・初めてという子どもが多かった。 雨の日は、傘のさし方・たたみ方を実践を通して行ったところ、たたみ方がわからない子どももいた。そのため、雨の日も安全性を踏まえつつ、出来る限り経験を積み重ねていく必要がある。 帰ってきたら、手洗い・うがいをする事を取り入れると、うがいの仕方がわからない子どもがいた。 地域の交流参加として、あやめ池フェス（あやめ池公民館）へ行き、地域の方との交流を行なった。 ➡次年度は、歩く時のルール・店内でのマナー・電車内でのマナー・切符の買い方などを取り入れていきたい。手順書を細かく提示し､「できた」という経験を積み重ね、マナーなど身につけていきたい。学校休業日や長期休暇期間を通して、経験を積み重ねていきたい。雨の日（小雨）の時も、傘をさす時のマナー・たたみ方を内容に取り入れて	第1・5 土曜日		住友

	いきたい。 帰ってきたら、手洗い・うがいをする事を習慣化し、感染予防につなげていきたい。			
クッキング 5領域 【健康・生活】 【認知・行動】	手洗い・消毒・マスクの着用をし、感染症対策をしながら施した。 子どもたちが好む簡単な、家でも作れるような内容を取り入れた。切る・混ぜる・ホットプレートの扱い方などの簡単な作業の経験を積み重ねた。その為、後半は包丁の扱い方が上手になっていた。少人数のグループ分けをし、全員が全ての工程をできるように順番・交代に配慮したため、満足感・達成感につながった。手順表を写真を使い細分化したため、「できた」経験を実感し自信へつなげることができた。 材料は未開封のものを準備し、袋の開け方・容器の開封の仕方をグループで相談しながらすることを取り入れた。中には、袋の開封の仕方がわからない子どももいたので、細かい経験を積み重ねていく必要がある。 ➡次年度は、第2週目が言語療法と重なるため、第3土曜日のみのクッキングを実施予定している。他、長期休暇期間を通して、経験を積み重ねていきたい。 簡単なことから取り入れていき、基本的な作業を身につけていきたい。少人数のグループ分けをし、全員が一通りの工程をできるように配慮していきたい。材料は未開封のものを準備し、袋の開け方・容器の開封の仕方など経験できるようにしていきたい。	第2・3 土曜日	のんたん 2F	田口 住友

対象 ： 全 体

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	担当
絵本広場	今年度は実施しなかった。			
学習支援	(低学年) (高学年) 自分の思いを伝えて学習担当の支援者と内容や時間の相談をしつつ進めることで自分に合った環境を作り楽しく取り組むことが出来ている。	月・火・水・木・金 1回/週	のんたん3F	ポケット担当スタッフ
言語療法	(低学年) (高学年)	火・土	のんたん3F	住村 松江
長期休暇プログラム	夏休み：子どもたちが普段できない活動を取り入れた。内容によっては募集人数が多かったため、別日を設け選択制にし、希望者全員が参加できるように配慮した。　高学年では事前にアンケートを取ることで子どもたちの行きたい場所を可能な範囲で取り入れることができ参加し易い、楽しみ易い環境を作った。 (低学年)　スーパーボール作り・パズル作り・風鈴の絵付け・駄菓子屋あそび・西部生涯スポーツセンター室内プール・九条公園プール・柳生野外活動センター（流しそうめん）・山城町森林公園（川あそび）・クッキング（スパゲッティ）のんたん映画鑑賞 (高学年) 山城森林公園・小動物カフェ・お弁当を買いに行こう・風鈴作り・郡山、登美ヶ丘イオン、ミナーラお買い物・BBQ・カラオケ（室内・ジャンカラ）・クッキング（パフェ・焼きそば）・ザリガニ・福祉センター体育館・ピザ作り）・忍者パーク・西部プール	7/19 ～ 8/26	のんたん各フロア	担当スタッフ
クリスマス会	(低学年)　3日間に分けて実施。1階～4階の各部屋にミッションを提示し、クリアしてスタンプを集め、例年と違う形で子どもたちが楽しめるように工夫をした。 (高学年) ビンゴ、カラオケ、おやつパーティ（ケーキ・ジュース）をメインに開催。ポケットの部屋をカラオケの部屋にして好きなタイミングで行ける様にして自分たちで選択して好きに過ごせる環境を作った。おやつ、ビンゴは全体で行い。景品は並べておいて上がった子から選べる形にした。	12/24 12/25 12/26	のんたん	担当スタッフ
初もうで	年明けには、御嶽山大和本宮へ行き、お詣り・おみくじをし、初詣の経験ができた。 (高学年) 初詣後にお昼ごはんとおやつを買いに行く流れを設定。後に買い物が控えていることで切り替えができ初詣から買い物までスムーズに	1/6	のんたん各フロア	担当スタッフ

	取り組むことが出来た。			
長期休暇 プログラム	春休み：子どもたちが普段できない活動を取り入れた。内容によっては募集人数が多かったため、別日を設け選択制にし、希望者全員が参加できるように配慮した。高学年では事前にアンケートを取ることで子どもたちの行きたい場所を可能な範囲で取り入れることができ参加し易い、楽しみ易い環境を作った。 （低学年）のんたん映画＆ポップコーン・ボーリング・ビンゴ大会・いちご狩り・福祉センター体育館・お弁当買い物・クッキング（焼きそば）・ガスト・ポーチ作り （高学年） カラオケ（のんたん・ジャンカラ）、高の原イオン（お買い物）、ミナーラ（スポッチャ・忍者パーク）、小動物カフェ、若草山、お弁当を買いに行こう、たこ焼き、6 年生を送る会	3/24 ～ 4/12	のんたん 各フロア	担当スタッフ
イベント はっぴースマイルデー	今年度もコロナ感染症の影響で、外部の方の出入りはせず、飲食は感染症対策をした上で提供し、事業所のみで 2 日間にわけ、はっぴースマイルデーを実施した。4 階ステージ・1 階ワークショップ・2 階ゲームコーナーにし、スタンプラリー・景品をもらい楽しむ姿が見られた。抽選会も行った。	7/26 7/27	のんたん	担当スタッフ
避難訓練	3 回実施（6 月地震・11 月火災・2 月防犯）	6/10 11/20 2/13	のんたん	全員
職員研修	内部研修・外部研修			放デイスタッフ
家族支援	個別支援計画書の見直し・モニタリング （2 回/年） 必要に応じて、都度対応			放デイスタッフ保護者
関係機関の 連携	相談支援センター・こども園・幼稚園・保育園・学校 奈良市健康増進課との連携・担当者会議への参加	随時	のんたん 外部	大東玉置放デイスタッフ

＜利用者状況＞

放課後等デイサービス①③　（小学１年～小学３年）

利用月	利用人数（人）	利用日数（日）	一日平均（人）
令和６年４月	330	24	13.75
５月	325	24	13.54
６月	342	24	14.25
７月	355	26	13.65
８月	314	25	12.56
９月	215 / 130	22 / 22	9.77 / 5.9
10月	232 / 134	25 / 25	9.28 /5.36
11月	215 / 133	24 / 24	8.95 / 5.54
12月	216 / 128	23 / 23	9.39 / 5.56
令和７年１月	213 / 123	22 / 22	9.68 / 5.59
２月	206 / 132	22 / 22	9.36 / 6
３月	204 / 131	24 / 24	8.5 / 5.45

放デイ低学年(小学１年～小学３年は２クラスの平均)

年間平均人数一日　　7.7　　人

令和６年度の事業計画の支援活動目標

放デイ①（小学1～3年生）

個々の障害の特性に合った支援ができている

利用者の障害の特性に合った支援ができている。

支援者が階ごとの発達段階にあった必要な支援スキルを習得している

支援者は階ごとの発達段階にあった必要な支援が明確になっている

小学1～3年生の目標

自分で、のんたんでのスケジュールを見て確認し、行動できる

できる事が増える

のんたんでのルールや集団活動のルールを知り、守ることができる

健康・生活

挨拶・手洗いができる

アクション

認知・行動

視覚を使ってスケジュールを伝える（写真・時計・実物）

興味をもつ内容の活動を取り入れる

自分勝手な行動をしたときは個別対応をして正しい行動を伝える

人間関係・社会性

座って話を聞くことができるように工夫する

声掛けをして挨拶・手洗いが100％できるようになる

具体的に

・スケジュール表に写真・イラスト・時計・ポケットの時間などを貼る
・受け入れ時 別に対応して確認す
するのかを気付け
かける。

・簡単な内容から取り入れていき、出来たことは褒める。
・個々が選んで想像力・感性が生み出せるような素材・題材に工夫する。
・その日の来るメンバーを見て、興味ある内容を考える。

・行動をする前に、危険な行動を見せ（大型遊具・運動）どうして危険なのか理解出るような導入方法を考える
・自分勝手な行動をした時には、なぜしたのかを本人に聞き、個別に対応し勝手な行動をした理由を聞く。（すぐに否定するのではなく、一旦受け入れ、正しい行動を本人と一緒に考えていく）
・常に予期せぬ出来事が起こる事を予想して支援者は行動する。

・子どもたちが 興味をもち、楽しいと思える内容を取り入れる
・活動の話をする時は、全体が落ち着いて話を聞ける態勢になってから説明をする。
・簡潔に伝える

・支援者が元気良く挨拶をして見本を見せる。
・ブラック ライトや動画 て7,
手 を
す

言語・コミュニケーション

学校との連携は出来なかった

外出の回数を増やすことは難しい

運動・感覚

具体的に

集団あそび

★4階で遊べる内容（ドッチボールなど）と2階でする内容を曜日で分ける。
★簡単な内容から取り入れて、参加しやすいようにしていく。

・友だちと遊ぶ楽しさを経験する
・コミュニケーションを養う
・ルールを守って遊ぶ

・ドッジボール
・鬼ごっこ
・新聞あそび
・風船あそび
・綱引き
・椅子とりゲーム
・SST（今までしたもの参考）

運　動

★学校でするもの（縄跳び・跳び箱・鉄棒など）

★前日に準備する
★子どもたちが、あきない内容に工夫する。
★ダウン症の 子供がいるときは、 トランポリンの使い方や関わり方に配慮して取り入れる。
★スタッフの人数を考えて、配置する（安全面考える）

・運動活動の楽しさを知る。
・体の使い方（ボールの投げ方・ジャンプ・跳ぶタイミング）など）を知る。
・縄跳び・跳び箱・鉄棒などが出来るようになる。

・バランス感覚・集中力・注意力を養う。
・ルール（順番・押さないなど）を守る大切さを身につける。

・縄跳び
・跳び箱
・鉄棒
・ドッジボール
・運動会に向けて

・巧技台
・トランポリン
・鉄棒
・脚立

創　作

★階段の壁面を作っていく。できる時は、他のフロアと連携していく。
★作品の実物や写真・工程表をホワイトボードに貼 る。
★選択肢から自由に選べるように、素材の色や形などを準備 する
★季節感を感じる内容を取り入れる。
★道具の使い方を取り入れる

・想像力や豊かな感性 、集中力や動作（はさみで切る、ちぎる、握る、紙を折る 、紐を通す ）が身につく
・作品を通して、季節の移り変わりがわかる
・みんなとともに作ることでコミュニケーション能力を養う

・ハサミの使い方（1回切りから）・渡し方・片付け方
・のり
・はけ
・季節の応じた作品

クッキング

★簡単な工程から取り入れる（混ぜるなど）
★「切る」経験を何回か取り入れた。
★来所時の子どもたちの様子を見てから、グループ分けをした

・作る事に興味を持ち、楽しく活動に参加をする
・調理器具の正しい使い方を知り、基本的な作業（切る・混ぜるなど）出来るようになる

・包丁の使い方
・ホットプレートの使い方
・カセットコンロの使い方

お出かけ

★外出の回数を増やす。
★経験を積み重ねていく。
★子ども向けのマナーの動画を使う

・交通ルールやマナーを守り、集団行動ができるようになる
・お金の使い方がわかる
・自分の荷物の管理ができる

・近隣の公園（横断歩道の渡り方）
・近隣のスーパー
・電車の乗り方

造　形

長期休暇の時にイベントとしてする

令和6年度（2024年度）放課後等デイサービス①③ 小学１～3年生　活動報告

活　動	＜集団あそび＞　　月・木曜日			
期　間	４月～６月	７月～９月	１０月～１２月	１月～３月
認知・行動 言語・コミュニケーション 人間関係・社会性	お友達と遊ぶ楽しさを経験する・コミュニケーションを養う・ルールを守って遊ぶ			
	座って話をきく・ルールを守る		座って話を聞く・ルールを守る。お友達の話を聞く	
（活動内容）	４月　スリッパとばし 自己紹介・新聞あそび ５月　風船あそび 釣りゲーム ６月　おにごっこ オセロ	７・８月 はっぴースマイルデー製作 ドン・じゃんけん ９月　ボールで遊ぼう ボール爆弾ゲーム	10月　ダブルドッジボール いすとりゲーム 11月　しっぽとりゲーム フルーツバスケット 12月　シーツ運びリレー バケツリレー	１月　けいどろ 福笑い・カルタ・すごろく ２月　大縄とび・お菓子まき 旗揚げゲーム 全身あっちむいてホイ ３月　みんなで決めよう 箱の中は何かな

活　動	＜運　動＞　火曜日			
期　間	４月～６月	７月～９月	１０月～１２月	１月～３月
運動・感覚　　認知・行動	運動の活動の楽しさを知る・体の使い方を知る			
	体の使い方を知る・簡単な運動活動ができるようになる			
（活動内容）	４月　かけっこ（壁タッチ） ５月　キャッチボール 玉入れ ６月　ドッジボール	７月　かけっこ 柄そろえ ８月　両足・片足ジャンプ ９月　ジャンプ	10月　キャタピラレース 動物まねっこ 障害物リレー 11月　鬼ごっこ 12月　ドッジボール	１月　とぶ？とばねい？ゲーム ２月　跳び箱(踏み台の使い方) ３月　跳び箱

活　動	＜運　動＞　水曜日			
期　間	４月～６月	７月～９月	１０月～１２月	１月～３月
運動・感覚 認知・行動	バランス感覚・集中力・注意力を養う・ルール(順番・押さない)などを守る大切を身につける			
	まっすぐに保とうとする平衡感覚・集中力・注意力を養う		バランス感覚・集中力・注意力を養う	
（活動内容）	4 月 丸型・波型・平均台 （カニさん歩き・直線渡り） 5 月 平均台・トンネル 6 月 平均台・トンネル・はしご	7 月 はしご・平均台・すべり台 8 月 はしご・平均台・すべり台 9 月 はしご・平均台・すべり台	10 月 はしご・平均台・飛び石 11 月 はしご・平均台・飛び石 12 月 はしご・平均台・とび石 トランポリン	1 月 サーキット遊び・トランポリン 2 月 サーキット遊び・鉄棒 3 月 サーキット遊び・跳び箱

活　動	＜創作＞　金曜日			
期　間	４月～６月	７月～９月	１０月～１２月	１月～３月
運動・感覚 認知・行動 言語・コミュニケーション	・想像力や豊かな感性、集中力や動作が身につく　・作品を通して季節の移り変わりがわかる ・みんなと共に作ることで、コミュニケーション能力を養う			
	・道具の扱い方を知る　・話を聞いてルールを守る		・友達と一緒に楽しむ　・話を聞いてルールを守る	
（活動内容）	4 月　こいのぼり 5 月　新緑、鳥、虫 6 月　梅雨の風景・七夕飾り	7 月 はっぴースマイルデー 装飾作り 8 月　夏休みイベント 9 月　田んぼの風景	10 月　さつまいも ハロウィン 11 月　秋の風景（紅葉など） 12 月　クリスマス 大そうじ	1 月　お正月、節分 2 月　雪景色 ひな祭り 3 月　春の風景、お花見

活　動	＜クッキング＞　第２・３土曜日			
期　間	４月～６月	７月～９月	１０月～１２月	１月～３月
健康・生活 認知・行動	・作ることに興味を持ち、楽しく活動に参加をする ・調理器具の正しい使い方を知り、基本的な作業（切る・混ぜるなど）ができるようになる			
	・作ることに興味を持つ	・作る楽しさを経験する	・調理器具・用具の扱い方を知り、慣れる	
（活動内容）	４月　フルーチェ ５月　オープンサンド （ジャム・チョコ） ６月　玉子えびせん	７月　コロッケパン ８月 ナポリタン・スパゲッティ ９月　きな粉だんご	10月　ホットケーキ 11月　ベーコンエッグマフィン 12月　フルーツケーキ	１月　フレンチ・トースト ２月　ホット・ドッグ ３月　焼きそば チョコバナナパフェ

活　動	＜お出かけ＞　第１・５土曜日			
期　間	４月～６月	７月～９月	１０月～１２月	１月～３月
認知・行動 人間関係・社会性	・交通ルールやマナーを守り、集団行動が出来るようになる			
	交通ルールを知り、守ることができる。		お金の使い方がわかる・自分の荷物の管理ができる	
（活動内容）	４月　春休みプログラム ５月　道路の歩き方 （近隣公園） ６月　道路の歩き方 自販機で購入の仕方 （近隣の自動販売機）	７月　横断歩道の渡り方 （サンドラッグ） ８月　夏休みプログラム ９月　横断歩道の渡り方 レジでの支払い方 （サンドラッグ）	10月　のどか村（いもほり） 11月　横断歩道の渡り方 傘のさし方・片づけ方 お店のマナー あやめ池フェス（あやめ池公民館） （学園前ミスタードーナツ） 12月　お店のマナー （学園前　バラエティ 101）	１月　初詣のマナー（御嶽山神社） お店のマナー （ハーベスで昼食を購入） ２月　電車のマナー 注文の仕方 （学園前駅　マクドナルド） ３月　道路の歩き方 電車のマナー 注文の仕方 （大和西大寺駅　たいやき） （西大寺近隣公園）

2024年度　事業報告書

特定非営利活動法人　ザ・ホープフル

全体事業内容

放課後等デイサービスのんたん濵田直人

〇総括

部屋の構造は大きな変更はなく、新しい玩具・本などを追加した。来所時の導線、個別スケジュール、目標でのトークンの導入などは引き続き環境設定をした。部屋のスペースも、運動、玩具、宿題、PC、クールダウン部屋と小分けにした。（マットの導入などで少し部屋の広さの調整を行っている。）玩具については昨年子どもたちの楽しめるものが用意出来ているか不明瞭な部分があったという課題に対しては子どもに直接意見を聞くことで改善した。新4年生が3Fの流れを理解して取り組み易いように見本や選択肢の提示。5.6年生から教えてもらう機会を作った。5.6 年生に関してはできる様になっていたことが4年生が上がってきたことで流されてしまう子が多く適切な言動やルールに関して一緒に振り返る時間、メモを用意して一緒に考えている。

〇主要な結果

個別スケジュールにより、自分で今日の一日の流れを書き出すことで見通しを持つ、時間に対する意識を持つ事ができる様になった子が多い。３Ｆの流れを早く定着させることに繋がった。
目標に対しても最初は選択制、後半は自分で考えてみることによって自分のできる事、苦手な事をそれぞれ気付くきっかけを作ることができ、できる様になるためにはどうするのか考えることもできた。トークンを用いることで目標に対して前向きに取り組もうとする子も多い。トークンがある為に最後の振り返りまでしっかり取り組むことができ、振り返りの中で自分でできたことを考えてみる、支援者から伝えることで今日一日頑張った事、できたことが明確になり自信に繋がっている子も増えた。5.6年生で個別スケジュールや、目標に対して意識が薄れている子がいたので4年生が来る事をきっかけに再度「なぜやるのか」を確認する事ができ意識を高める事ができた。
部屋を小分けにすることでここは何をするところか考えて遊んでいる子も少しいた。分かれる事で子どもが分散して遊ぶことができ、室内を幅広く使う事にも繋がっていた。また、同じ遊びをする子が分かりやすいこともあり、同じ興味を持っている子と一緒に遊ぶ、誘うきっかけにもなり子どもの交友関係を広げる事にも繋がっていた。
部屋の使い方や玩具や設備など雑に扱ってしまう子がいたが振り返りを行うことで適切な言動が見られるようになっている。（人数、気持ちの部分などでタイミングによっては難しい子はいる）

〇学び・反省

スケジュールに対して声かけが不十分で適当にやってしまう事があった、どこまで補助するのかに差異があり子どもが困惑する場面があった。支援者によって取り組み方を変える子も多く、特定の支援者には、我を通して適当に済ましてしまう子がいて対応が不十分だった。
目標に対しては、帰りの会の振り返りだけでは時間が少し足りない、ご褒美のチケットにしか目がいっていない子がいたのでその部分に対する確認の時間を作る、声かけ、ルールの見直しが必要と感じた。
部屋の使い方でその都度状況にあったルールを取り入れているが、支援者によってルールの差が少しあり、子どもの中で戸惑いになる部分もあった。状況によって対応が変わることが多く判断が難しい為、トラブルなど緊急に対応が必要な場合はすぐに主任に投げることを意識する。主任は自分ですぐ動くこと、支援者が投げやすい雰囲気を作る。

○次年度への課題

昨年あげていた課題に関して利用の人数が増えた、支援者が変わったこともある為まだ不十分な部分が見られるために引き続き行っていく。支援者同士の情報の共有、ルールについての対応の仕方など共有が足りていない。子どもの「○○していい？したい！」ことでの対応が違うこと多いので、そこについてその都度振り返りで対応を考える。個別スケジュールに対しても同じように対応をする。目標については子どもの目標について記録をして、同じものが続いている、達成出来ていると感じる子については達成を褒めて変更を促す声かけをする。振り返りの時間が短いので、利用の人数が多い日などは様子を見て帰りの会の少し前に先に振り返りを何人かするなどタイミングを速めることで対応する。

その都度という決め方でなく、月に１度（２．３か月）など予め決めておいて普段の子どもの様子から玩具の変更や追加を検討する。子どもの要望については可能な限り聞き入れる方針。（なんでも聞いてもらえるかわからないことは予め伝えておく）新しい物などが入った時には使い方だけでなく、使う際の注意点ルールも明確に伝える。

上記の事に加えてひとりでやろうと思う支援者が多いので全員でやる、迷惑などは考えないことを徹底する部分も踏まえてこまめに情報共有する場を設けて個々が抱えている課題についても対策を考えていく。（可能な限り参加人数の多いタイミングで）

対象 ： 高学年（小学 4 年生～小学 6 年生）

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	担当
日常生活 【認知･行動】 【健康･生活】	・個別スケジュールを用いて自分で書き出すことで一日の流れの把握、時間の意識を高める事に繋げた。部屋の入口付近に棚を置くことで中の様子が見えないようにすることで来所時にお友達の様子が気にならずに準備に取り掛かりやすい環境を作った。 ↪流れが定着して自分でやろうと思える子が増えているが、慣れて雑に仕上げてしまう子も見られた為、その様子が見られる子に関しては再度なぜやるのか、メリットデメリットを確認する。支援者を見て言動を変えている子に関しては対応する支援者を変える。（後から出来たものを確認して声かけ）スケジュールを確認せず時間の意識が低い子にはそれぞれに合った方法を取り入れる（事前予告、スケジュールの確認の促し、時計メモ・タイマーの提示等）来所時にすり抜けて中を見に行く子に関しては後からできる事何をしているのかを簡潔に伝えて切り替えやすい声かけをしたのちの準備を促す。 挨拶、手洗いに関しては自発的な行動を促すために見守りをメインにして出来ていない子に関しては考えて行動に移すことが出来る声かけを取り入れている。 ↪目を盗んで適当にやる子が見られるので見守っている事が分かるようにする。（目線、声かけ）それでも改善が見られない子はしない場合の起こりうる制限を伝える。 荷物の管理に関しては、自分で準備をした後に支援者が確認して不十分な子には見てもらう声かけをして自分で気付き整理するように促している。（玩具についても同じように声をかけている）。 ↪声かけだけで気付くは増えているが、そもそもの管理に対する意識は低い子がまだ多いので余裕がある時に整理をしていないとどうなるのかを伝えて意識を高める。 部屋の使い方（ルール）や過ごし方に関しては、1 人 1 人に合った声かけを取り入れていてその場で伝える（その都度、個室、振り返りも込等） ↪できるようになってはいるものの状況に応じてまだ難しい子は多いので、個々に合った声のかけ方や環境の設定をその都度考えて取り入れていく。	随時	のんたん 内・外	全員

テーブルゲーム 【認知･行動】 【言語・コミュニケーション】 【人間関係・社会性】	前半は支援者が進行をしてゲーム内容や回数ルールなどを決めていたが、後半には子ども達で相談をして決める機会を設けた。 ↪新しいゲームや遊びの種類を知る中で興味の幅が広がる子が増えた。(昨年とは違う物も準備する) 相談時には意見を言うのが難しい子がいたがその都度伝えても良い事や伝えやすい方法（支援者伝え方考える、一緒に、代弁、メモ等）を取り入れることで伝える経験を積むことが出来た。また聞く側に関しても聞く時のルールを再確認、その都度声をかけることで意識が高まった。(デメリットを認識した事が一番影響あった) ↪何度も取り組むことで、意見を伝える事のステップアップが出来た、相手の気持ちを否定せずに受け入れてみても良いかもという気持ちが芽生えて受け入れがスムーズにできる様になっている。	毎週水曜	のんたん 3F	濵田
運　動 【運動･感覚】 【認知･行動】 【言語・コミュニケーション】 【人間関係・社会性】	前半は慣れ親しんだ運動活動（ドッヂ、鬼ごっこ）を取り入れることで不安の払拭をして参加しやすい環境を作った。また、グループに関しても気になる子は事前に相談をして移動するなどして参加しやすい環境を作った。 ↪ほとんどの子が参加でき、運動活動に対する－イメージの払拭が出来た。参加することで運動の楽しさも知ることが出来た。 後半の個別の運動に関しては、レベルを変えたもの用意することで自分にあった物を選択でき積極的に取り組める、成功体験を積める環境を作った。また出来る様になった、成長した部分に加えて取り組む姿勢も褒めることで自身に繋がるきっかけを作った。 ↪個別に関してはやってみたい気持ちを元々持っているが自信がない失敗が怖い子が多かったが自分で選択できることがわかり不安や怖い気持ちなく挑戦する事ができた。その中で自分の取り組んでいるレベルや失敗を周りに見られても気にする様子もなくなった。具体的に褒められることで少しずつではあるものの自信に繋がった様子が見られる子も多かった。 飽きが来てしまうことが多かったので子どもの様子を見て自由時間も取り入れた。 ↪自由時間がることでより一層積極的に取り組め、飽きたという子もあまり見られなかった。程よい塩梅で自由時間を取り入れることで自由時間の為に仕方なくやるといった子はいなかった。	毎週火金曜日 第２土曜日	のんたん 4F	濵田 松本

集団活動 【認知･行動】 【言語・コミュニケーション】 【人間関係・社会性】 【運動･感覚】	簡単なルールや約束のゲームから取り組むことで参加し易い環境を作り集団活動に対しての不安を減らし、楽しいイメージを持つきっかけを持ちやすくした。 ↪ 同じ活動の 2.3 回目以降は自分たちでルールや内容を少し変更する事を取り入れることで気持ちの伝え方、聞き方を学ぶ機会を設けた。（相談） また、初めて取り組むメンバーがいる時には説明をしてもらうのを促して簡単な説明や見本を見してもらう機会も設けた。 新しい活動に関しては、最初は自由時間も設定することで取り組み易くするかつ活動に対して飽きがこないようにもした。	毎週木曜日	のんたん ３F	濵田
創作活動 【認知･行動】	・内容を見て、分かりやすい物や手順だと興味を持つ為、子供によって興味のある物・工程を提供した。また、活動時間が長いと集中力が切れる子がいる為、簡潔な内容にした。（工程を細かく分けることで簡潔かつ終わりもはっきりしている内容が作れる） ↪分かる事でやってみようと思えて取り組んでくれる子がほとんどだった。簡潔な内容にすることで最後まで集中する事ができた。また選択することで選んでも良いという事が経験できた。 ・今までと違う内容の物を多く取り入れることで珍しい物見たさで興味をもち、自由参加する子が増えるようにした。 ↪「これ何？」と気になる子が多く、取り組んでくれる子が多かった事に加えて自分の知っている事を話したり、それを交えて作ることでオリジナルの表現をする練習にもなった。（支援者やお友達に相談をする） ・説明する時に道具を先渡ししてしまうと道具に興味がいき話が入らない為、説明後に渡した。 ↪気になる要素が減り、説明に集中できるが、長々と話すとしんどい子が多いので簡潔に伝える事は必要。 ・人数とメンバーによって活動の場所を考慮する。 ↪周りが気になって集中できない子に関しえては見えないところで取り組み、基本的には部屋の真ん中の机で取り組むことで自由参加組の子も巻き込んで取り組めた。	毎週月曜日	のんたん 3F	濵田

外出活動 【認知･行動】 【言語・コミュニケーション】 【人間関係・社会性】	・前半は行き慣れた場所にすることで不安なく向かうことが出来る環境を作った。 ↪行きたくないはなく、おでかけ、買い物に対する不安もなく取り組めた。新しい環境でのおでかけの流れも実感して、慣れることが出来た。 ・後半には新しい場所、内容、移動手段を取り入れることで新しい物にも取り組んで経験を積める内容にした。 ↪慣れてきたこともあり、新しい場所にも事前にこまめに説明することで不安なく取り組むことが出来た。お金についても電卓の使用を今まで以上に促すことで自分で計算する、お昼、自由のお金と分けることでお金に対する意識が高まった。また行きたい場所買いたい物などグループで相談することで自分の気持ちを伝える、相手の話を聞き受け入れる練習にも繋がった。 ・買い物などは個々の差が大きい為マンツーで対応できるように人数調整グループを決めた。 ↪マンツー対応することで大きなトラブルも無く、自由に行動することもできしんどくなることなく楽しめた。お金や時間、集団に対する意識を持つのは難しい。	第１土曜日	屋外	濵田
クッキング 【認知･行動】 【人間関係・社会性】	慣れた物を作る中で新しく取り組む工程や器具を入れることで取り組み易くステップアップできる環境を作った。 ↪自然な流れで取り組み易く新しい事にも比較的スムーズに取り組むことが出来た。苦手な物に関しての克服の機会が少し少なかった。 役割分担は子どもも交えて相談をすることで話し合いをする際に気を付ける事や受け入れがスムーズにできる練習に繋げた。 ↪支援者が間に入ることで事前に気を付けることを再確認することができ大きなトラブルはなかった。必要に応じて声をかけることで進行もスムーズにできた。自分の思いを伝える、受け入れる練習になった。被った場合の決め方などの選択肢も広がった。 ２回以降に自分のアレンジした作り方を了承することで自分なりの楽しみ方をしやすい環境を作った。 ↪支援者やお友達に自分の考えを伝える、誘う、楽しさを共有する経験に繋がった。	第２土曜日 第３土曜日	のんたん ３Ｆ	濵田

＜利用者状況＞

放課後等デイサービス②　　（小学４年～小学６年）

利用月	利用人数（人）	利用日数（日）	一日平均（人）
令和６年４月	272	24	11.33
５月	258	24	10.75
６月	270	24	11.25
７月	299	25	11.96
８月	251	23	10.91
９月	242	22	11
10月	252	25	10.08
11月	246	24	10.25
12月	243	23	10.57
令和７年１月	232	22	10.55
２月	236	22	10.73
３月	230	24	9.58

年間平均人数一日　　10.74　　人

令和6年度の事業計画の支援活動目標

放デイ②（小学4～6年生）

個々の障害の特性に合った支援ができている

利用者の障害の特性に合った支援ができている。

支援者は階ごとの発達段階にあった必要な支援が明確になっている

支援者が階ごとの発達段階にあった必要な支援スキルを習得している

目標

アクション

自分のことは自分でできる

選択肢を増やし、自分で選択してもよいということに気が付く

・スケジュールを個別化する。
・自分で選べるような声掛けで選択を促す。
・選択肢を提示する。
・参加しない時は、子供と一緒に担当にを伝える。

認知・行動

健康・生活

LST～日常～
身辺自立に向けた活動を行い一人で出来る力を身に付ける。

・個別スケジュールの導入。（目標設定）
・物の配置で来所から自由遊びに入るまでの導入を作る。
・視覚支援を用いて何をするのか、いつするのか自分で気付いて意識できるように促す。
・自分からヘルプを出せるように、ヘルプを出し方、出しても良いと気付く経験を出来るように環境を整える。

自己肯定感を持ち高めることができる

自分を知って認めることができる

・できたことを認め、褒める。
・トークンを使用する際は達成条件（目標）を作る。
・目標を子どもが設定できるように選択肢を提示する。
・子供ができたを実感できる場面を作る（お手伝い等）

創　作

作る楽しさを知り、興味を持って自分から取り組める。
・得意な部分をよりできるようになる。
・苦手な事は簡単な物から少しずつ挑戦する。

・好きな事・できる事を見つける。（興味を持てるものを用意し、取り組むきっかけを作る）
・それぞれに合ったレベルの内容を用意し、活動前のモチベーションを上げる。
・季節の作品を作る中で、手先の器用さと集中力を養う。
・道具の扱い方を知る。
※小学1～3年生との共同作品が仕上げるように連携をとる
・個々が選んで想像力・感性が生み出せるような素材・題材に工夫する（子ども自身が考えた選択肢も可能な限り取り入れる）

運動・感覚

運　動

運動を通してコミュニケーション能力を高める。（ルールを守る、相談して決める機会を提供）
運動活動に触れて興味を持つ。
好き・得意・を見つける
苦手意識の払拭
体幹・筋力を鍛え、体の使い方も知る
（必須項目だが、優先度は低め ）

・集団の運動活動で、コミュニケーション能力、ルールの理解守る力を養う。
・高い目標や難しい工程は入れずに、まずは触れてみることでその運動を知るきっかけをつくる。
・スモールステップで目標を設定することで、
出来たを実感する回数を増やす。
・ドッヂ・鬼ごっこ
・竹馬・鉄棒・縄跳び・大縄・跳び箱

（社会のルールを知って守ることができる

のんたんでのルールを知る機会を増やして守る。

・視覚化する。
・してはいけないことを伝えるのではなく、してほしいことを伝える

言語・コミュニケーション

テーブルゲーム

テーブルゲームを通して小集団での活動に参加する
・社会で必要なスキル・知識を身に付ける。
・集団活動に慣れる
・興味の幅を広げる。

・集団活動に参加して慣れる経験をする。
・やったことのない物に取り組んで興味の幅を広げるきっかけを作る。
・相談をして内容、ルールをみんなで決める。
・感情のコントロールを理解してできるよう促す。
・トランプ・UNO・すごろく・カルタ・ウボンゴ

人間関係・社会性

個別SST

ソーシャルスキルを知り、日常生活で使用する。
・聞く・伝える
・表情・きもちを考える
・きもちの対処法を知る

・ワーク
・クイズ
・ロールプレイ
・トーキングゲーム
・アンガーマネジメント
・コミュニケーションの基礎練習
・見る→聴く→待つ
・力を合わせる等

場面に合った適切な行動ができる

自分と相手の思いや気持ちを知り適切な行動が増える

・ト書き発言や場面、相手の気持ちを視覚化する。
・不適切行動が予測される場面をあらかじめロールプレイなどで子供に伝える。
・（部分的でも）適切な行動をとれた時には認めて褒める。
・振り返る場面を作る

クッキング

・作る事に興味を持ち、楽しく活動に参加をする
・調理器具の正しい使い方を知り、基本的な作業（切る・混ぜるなど）出来るようになる

作ることに興味をもつ。作る楽しさを経験する

調理器具・用具の扱い方を知り、慣れる。

お出かけ

外出時のルールやマナーを知り、外出の経験を積んでいく
様々な場所で自分からヘルプが出せるようになる

・おでかけ先によって気に掛けるルールを伝え、知り守る力養う。
・公共交通機関の使い方を知り、実践をする。
・買い物時に意識をすること（値段の見方、注文の仕方、レジ後の動き等）をデモンストレーションを通して学び実践する。
・公園・買い物・おつかい

）　放課後等デイサービス　小学 4～6 年生　　活動　年間計画

活　動	ね　ら　い			
期　間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
＜創　作＞ 濵田 月曜日	表現力（自分らしさ）、集中力（椅子に座る、話を聞く）、手先の器用さ（切る、折る）が身につく。 ・作品を通して、季節の移り変わりを感じて製作をより楽しむ。 ・みんな（1 年生～6年生）と協力して作ることで、好きな事、できる事を見つけていく。			
	はさみで切る・絵の具、筆の使い方を知る・折り紙を折る		好きな形を自由に描いて、はさみで切る 絵の具、筆の使い方を知る・折り紙を折る	
（活動内容）	4 月 こいのぼり 5 月 潮干狩り 6 月 虫歯予防デイ壁面	7 月 はっぴースマイルデイ装飾 8 月 夏休みイベント 9 月 洋菓子の壁面作り	10 月 さんま 11 月 回転寿司 12 月 クリスマス	1 月 新年イラスト 2 月、3月 一年の振り返り

活　動	ね　ら　い			
期　間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
＜運　動＞ 松本 火・金曜日	運動活動に触れて、運動活動に興味を持つ。（活動のはじめ時点でのハードルを下げて最初の取り掛かりが入りやすいように） 集団での運動活動を取り入れることで社会性・コミュニケーション能力を身につける。・成功体験をするために自分で目標を立てる。 また、成功体験をすることで、自己肯定感を高め自信を持つ。・（筋力・体幹を鍛えつつ、体の使い方も学んでいく。）必須項目ではあるが、優先してしまうと他のねらいの達成に影響がでるので優先度は低め。）			
	慣れ親しんだ運動を通してコミュニケーションを取る	新しい運動活動に触れて、知る興味を持つ。・個別に目標を持って取り組み。成功体験をする。・自信をつけて学校でも取り組めるようになる。		
（活動内容）	4 月 5 月 6 月7月 ドッヂボール （通常・アメリカ・王様等） 鬼ごっこ （代わり鬼・氷鬼・色鬼等）	8 月 夏休みプログラム、跳び箱 9 月 跳び箱	10 月 跳び箱 11 月 縄跳び（大縄） 12 月 縄跳び（大縄）	1 月 竹馬 2 月 鉄棒 3 月 これまでの活動で子どもたちと相談して決める（隔週）

活　動	ね　ら　い			
期　間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
＜テーブルゲーム＞ 田村 水曜	・テーブルゲームを通して小集団での活動に参加する。・社会で必要なスキル・知識を身に付ける。・興味の幅を広げる。 ・感情のコントロールができるようになる。 ・こだわりがあっても自分の中で整理をして切り替えができるようになる。			
	ルールを知る・守る	ルールを知る・守る 集中力を高める	ルールを知る・守る　　順番を守る　感情のコントロール	
（活動内容）	4 月・5 月・6 月 トランプ UNO	7 月　8 月　9 月 すごろく 夏休みイベント カルタ	10 月　11 月　12 月 UNO ポケモンカード トランプ(ババ抜き・神経衰弱・7 並べ) きもちの絵カード	1 月　2 月 3 月 UNO 気持ちの絵カード ウボンゴ

活　動	ね　ら　い			
期　間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
＜集団＞ 森山 木曜	お友達と一緒に活動をすることで社会性・コミュニケーション能力を身につける。 順番・ルールを守りながら活動に参加する・言葉の理解力を身につける。			
	自己認知・簡単な遊びでコミュニケーションを取る	簡単な遊びでコミュニケーションを取る	複数のルールの理解　　協力して取り組む力を付ける 季節に合った遊びを知り、楽しさを共有する。	
（活動内容）	4月 自己紹介カード作り 紙飛行機飛ばし 4F で遊ぼう(みんなで相談して決める) 5月 なんでもバスケット	6 月 フットホッケー 7 月、8 月 夏休みイベント 付箋はがしゲーム 9 月、10 月 大型遊具	11 月 陣地玉入れ 12 月 ポートボール 1 月 書初め、福笑い	2 月 ボッチャ 3 月 これまでの活動で子どもたちと相談して決める(隔週)

活　動	ね　ら　い			
期　間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
＜おでかけ＞ 田村 第 1.5 土曜日	外出時のルールやマナーを知り、社会性を身につける・外出の経験を積んでいく お金の使い方、買い物の仕方を知り、一人で買えるようになる おつかいの経験をして、メモの使い方、見方を知る。・様々な場所でヘルプが出せるようになる。			
	公共の場でのマナーやルールを知り、守る・買い物の仕方を知る		公共交通機関を使って色んな経験を積む 買い物の経験を積む、目的のある買い物に行く	
（活動内容）	4 月 近隣の公園 5 月 いろどり公園 5/25 6 月 ハーベス買い物　（好きな物購入）	7 月 ハーベスお弁当買い物 8 月 夏休みイベント 9 月 万代スーパーお弁当買い物	10 月 奈良ファミリー(電車) 11 月 ミナーラ展示会&フードコートでお昼ごはん 12 月 マクドお買い物（電車）	1 月 初詣(御嶽山神社)・くら寿司(バス) 2 月 サンドラック 3 月 スギ薬局&サーティワンアイス

活　動	ね　ら　い			
期　間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
＜クッキング＞ 田村・濵田 第 2.3 土曜日	・作る事に興味を持ち、楽しく活動に参加をする ・調理器具の正しい使い方を知り、基本的な作業（切る・混ぜるなど）出来るようになる			
	作る事に興味を持つ　　作る楽しさを経験する		調理器具・用具の扱い方を知り、慣れる	
（活動内容）	4 月 おにぎり（昼食） 5 月 コロッケパン 6 月 ホットケーキ	7 月 たません 8 月 夏のイベント 9 月 ハンバーガー	10 月 お好み焼き 11 月 たこ焼き 12 月 松ぼっくりデザート作り	1 月 ホットドック 2 月 フレンチトースト 3 月 カレー

2024 年度　事業報告書

特定非営利活動法人　ザ・ホープフル

全体事業内容

放課後等デイサービス　のんたん　分室（中学・高校生）

○総括

放課後等デイサービスでは、子どもたちの個々の特性を理解し、「自分のことは自分でできるようになる」「自己肯定感を持ち、高めることができる」「場面にあった適切な行動ができる」「社会のルールやマナーを知って守ることができる」ということを全体目標とし、小学生低学年、中学年、中学高校生と三つに分け各階ごとに繋がっていく目標を設定し支援した。分室での目標は、社会に出ていく為の前段階の時期でもあり、「自己選択・自己決定・自己責任」「自己有能感を感じられる」「自分で感情のコントロールと適切な行動ができる」「一般的な社会のルールが分かって守れる」とし、共有した支援の在り方を考えた。事例検討会の研修を行う中で、個々の特性を把握し、問題を解決する為に支援者同士の意見の場を設け、共通した支援ができるように取り組みをした。

自己有能感（自分で自分に私はできる、すごいと思うこと）を感じてもらえるよう、活動のハードルは下げるが楽しめる活動内容を行い、楽しみながらルールやマナー、人とのかかわり方等を身につけていきながら、成功体験を増やしていった。余暇を大事にし、思春期で何かとストレスが溜まる成長段階でもあるため「休息も大事」な事を伝えていった。活動の他に、図書館で借りた本を見ることや何もしない時間、またスタッフや子ども達との会話などを通して小集団の交流も見られた。個々のリフレッシュ方法を見つけていけるように楽しめる活動内容を考えた。

来所から帰るまでの中で、生活スキル、ソーシャルスキルをその子に合った方法で支援を行った。

年に 2 回、保護者の方とモニタリングを行い、個々のニーズに合った療育や支援をおこなった。また相談があれば随時電話や面談（担当者会議等）も設け保護者と一緒にどうすべきかを話し合った。

○主要な結果

新しく入ってくる中学一年生は夏休み頃までは、信頼関係作りの強化に重きを置いた。また支援者同士で利用者さんの観察や情報を共有し、支援の方向を確認するよう努めた。
事例検討会の研修等を通して、対策と振り返りを支援者同士共有し、支援の大切さと信頼関係の強化に努めた結果、自分の気持ち言葉にするのが難しい子が、少しずつ心を開いて

話しや気持ちを伝えてくれる場面が増えた。小集団で輪になり会話をする事も増えてきた。クッキング時には、お友だち同士協力しあい「ボウルを支える・材料等をどうぞと渡す」、帰りの会では自らみんなの椅子を並べる姿も見られ、その都度気持ち良い行動である事を伝え続けた。

　また、子ども同士で「今は静かにね」等、柔らかい注意喚起の言葉も出る場面も見られるようになった。

思春期に入り、親子の会話が減る時期もあるので、事業所で「話す（気持ちを伝える）」「聞いてもらえる」「ゆっくり自分時間を過ごす」ことで家とは違う居場所の一つとして、安心して楽しく余暇を過ごせる環境づくりが必要である事も強く感じた。

また、活動や余暇（日常）を通して社会のルールやマナー、会話（人との関わり方）、生活スキルを高まるように努めた。

○次年度への課題

社会のルールやマナーを身につける、自分のことは自分でできるようになる（できることを増やす）事に重きにおいて、言葉がけや環境作りを支援者同士の共有していきながら、その子にあった方法でスキルアップを努めていきたい。

一人一人の興味の幅が広げられるよう様々な活動や余暇を提案しながら、楽しみ方も自分で選択して決定していける環境作りの必要性がある。

余暇の過ごし方については集団で楽しむ事だけでなく、一人で過ごす時間も大事であることも伝え、一人でいる事に罪悪を感じることなく自分を肯定的に受け止めていけるよう伝えていきたい。

放課後等デイサービスを卒業した後のその子その子に必要な課題を小刻みに設定し、支援者同士で話し合い共有しながら支援に活かしていく。

＜利用者状況＞

のんたん分室　　（中学・高校生）

利用月	利用人数（人）	利用日数（日）	一日平均（人）
令和６年４月	137	20	6.85
５月	119	20	5.95
６月	114	19	6
７月	136	22	6.18
８月	131	20	6.55
９月	126	18	7
10 月	136	20	6.8
11 月	116	20	5.8
12 月	131	20	6.55
令和７年１月	115	19	6.05
２月	119	19	6.26
３月	136	21	6.48

年間平均人数一日　　6.9　人

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	担当
ソーシャルスキルトレーニング（SST）	社会面のコグトレ１，２の段階式感情トレーニング、対人マナートレーニング、段階式問題解決トレーニングを行った。感情面に関しては段階式トレーニングだけでは感情の語彙不足や理解不足が見られたため The CAT-Kit の一部を用いて意味の理解や表情理解を足した。 →次年度も同様に感情トレーニング・対人マナートレーニング、問題解決トレーニングを用いて自己理解、対人理解、問題解決に対してのアプローチを引き続き取り組む。	月２−３回	のんたん分室	松江
ライフスキルトレーニング（LST）	身辺自立に向けた内容（身だしなみ、マナー（共有部分の使用・会話や距離感）をロールプレイングで行った。座学と実際やってみることで経験の一つとなり、日常生活の中で繰り返しトレーニングすることで、身についていく事が分かった。 自己理解と他者理解についてはワークシートを中心に一緒に考えていった。 花を買いに行って植えたり、世話をしたりした。 →次年度は、引き続き、身辺自立や生活スキルアップ中心に行い、少しでも（必要最低限）一人でできること（その子にあった内容で行う）を増やしていき、社会に出た時に少しでも困らないような内容を取り組んでいく。（身だしなみ、健康管理、住まい、金銭感覚、進路選択、対人関係、余暇・地域参加等）また、繋がりある場所（西大寺ボブズカフェ）での活動を行う（販売経験など）		のんたん分室	中嶋
LST（日常）	挨拶、手洗いは昨年度に引き続き、自発的に出来るように取り組みを行った。また４か月に一度、チェックシートを活用し、利用児の評価を行った。 **＜挨拶＞** ほとんどの利用児がドアを開けた時に挨拶ができるようになってきた。また、「〇〇さんこんにちは」と先に来所している子からの挨拶もある。「ひさしぶりだね」などプラスな会話をあり、交流のきっかけとなっている。	毎日	のんたん分室	中嶋 倉田 松江 山岸

	発語が難しい子どもについては、ハイタッチなど挨拶に代わるコミュニケーションをとっていった。 ・来所時の他にスケジュール確認時にもまず「こんにちは」を言う事で、挨拶の大切さを伝えながら、その日の体調面を確認した。 ＜手洗い＞ 　ルーティン化されほとんどの利用児は行えているが、特性上、手洗いを嫌がる利用者には支援者が付き添いカウントをして行う事に定着してきた。ハンカチを持っていない子に関しては「ペーパーください」と言ってもらってから渡すことを徹底した。 →次年度は、引き続き、支援者が見本となり元気に挨拶をするモデリングを継続し、「手洗いと挨拶」の大切さを伝えていく **＜日常＞** 　スケジュールに関しては、来所してすぐホワイトボードを見る子が増え、スケジュールへの意識は高くなってきている。また、個別に必要な利用者さんには個別にスケジュールを準備し（自分で選択する子もいる）見通しを持って過ごすことが増えた。 視覚ツール（おめめどう）を使用や促しの声かけをし、時計や活動等の時間への意識も向くようになってきている。 　ごみの分別や汚れたら拭く、お弁当時では食べ終わったら自分の机を自分で拭く事を徹底した。 ・余暇の一人時間をどう過ごしていいかわからない子どもが多い。 ・簡易的なパーソナルスペースを作ることで、一人で何かに取り組みたいや、ゆっくり休みたい時に使用できるように環境を整えた ・来所持から帰るまでの間で、言葉使い・こんな時どうする？（SST）、生活スキル（LST）を、個々にその都度支援していった。 →次年度は引き続き個別スケジュールを必要な利用者には作成し、自分で何をするか等を選択し決定していく力をつけ余暇の過ごし方を身につけていく。 マナーやルールの中で、次の人が気持ちよく使えるように部屋の物は片づけたり綺麗にしたりすることを伝えていく。			

	余暇の過ごし方（暇を持て余すのではなく、一人時間も楽しめるように）自分の好きなことややりたい事に出会える環境作りを提供していく。又みんなで何かに取り組む企画を作り、人との関わり方や楽しみ方も経験できるようにしていく。 その子の中に元々持っているものを認めて伸ばしていく。			
エンジョイプログラム ＜創作＞	持ち帰り作品については、ある程度の約束のみ伝え、自分で考えた物を選択し、自由に表現（作って）いけるように、材料や道具等を用意して作成した。 失敗はなく全て成功となるアート作りを行った（アルコールインクアート・フラワーアレンジメント、重曹アート等） フォークやスポンジ、ビー玉など、筆以外を使用し、形にとらわれない、自己表現、自己有能感アップにつなげた。これらを壁面の一部に使用し、季節の作品作りを行った。 →次年度は引き続き、季節の壁面作りと、持ち帰り作品は長期休みに行う。また、作品作りは、販売するモノづくりを行い、作る、作業（ラッピング）、売る、を経験できるようにし、余暇や興味の幅を広げていく。また作業等の練習をし地域参加をしていきたい。	月 3 ～4回	のんたん分室	中嶋 倉田
エンジョイプログラム ＜レクレーション＞	みんなが楽しめる、簡単な内容のレクレーションを用意した。（ボトルフリップゲーム・ジェスチャーゲーム、ラベンダーステック、ラダーゲッター巨大カルタ等） 季節のイベントでは、ハロウィンパーティやクリスマス会を行い、普段経験できない事を楽しんだ。 お菓子を用意し、お題に沿って話をする「茶話会」を行った。イメージしやすい内容の質問にすることで、話す（答える）事ができた。みんなの前では中々言えない子もいた。 →次年度は、引き続き簡単で楽しめるレクレーシと茶話会を中心に行う中で、会話のルールやマナー、自分の意見や思いを言う経験をたくさん作っていく。	月 3 ～4回	のんたん分室	中嶋 倉田
エンジョイプログラム ＜運動＞	友だちと一緒に活動することで社会性・コミュニケーション能力を身に付ける・体を動かす楽しさを知り、成功体験を増やしていくことを目標に、月毎に種目を変えながら利用者が興味を持ち参加できるよう配慮して行った。 ボッチャなど慣れた内容は参加者が多い傾向にありスムーズな活動参加が行えたが、活動の時間が学習支援と重なることや通所時間が遅いことから活動に参加できない利用者もいた。ボールを使う内容は場所的に思いっきりできない部分がある。	月 3 ～4回	のんたん４F	倉田

	→次年度は引き続き、簡単でイメージしやすい内容や体を少し動かしてリフレッシュできるようなの活動を提案していく。			
おでかけ	前半は近隣のお店（スーパーや商業施設等）へ翌日の朝食やおやつを買いに行った。（自分で選んで決め、支払いができる、注文ができる） 長期休みや後半は車、電車を使い、お小遣いを使いすぎないよう買い物をする事や、未来のお金の意識をもつことを中心に活動を行った。中々お金を残すというイメージはつきにくい。あれば予算ギリギリまで使う子が多かった。 図書館で本を借りにいく、お店でご飯を食べるなど生活に密着した内容のおでかけを行った。公共施設でのマナーやルール、時間を意識する為、腕時計を用意し、時計係を任命して時間への意識づけも行った。 平日のお出かけは帰宅時間が遅い事から、いく事ができる場所が限定される、通所時に学校や日々の疲れで参加しない利用者もいた。 土曜日のお出かけは利用者が固定されているが、内容によっては大幅に利用者が増加することもあった。 次年度は、お金について学び、お金の大事さ、使い道（誰のために使うか)、未来のために貯めるなど、絵本等を使用し、実際に経験を積みながら身に着けていけるようにする	第２・４水曜日 第２土曜	近隣スーパー、商業施設パン屋、福祉センター、図書館、飲食店等	中嶋 倉田
クッキング	一人でもお湯を沸かすこと・レンジ等の使い方がわかる、簡単な工程のメニューを考え作れるものを活動に取り入れた。 長期休みは子ども達のリクエストに応じてメニューを決める事が多くなっていった。自分たちが作って食べてみたいメニューを組み込むことで、取り組み方への向上につながった。 こちら側が「できるだろう」と思っていた事（例えば生クリームを絞る等）が全くできない子が多くいることが分かった。「卵を割る」も経験した事がない子が多い。生活力につながる一つ一つのことの経験値が向上できるよう、些細な事と支援者側が決める事、思い込む事なく着実な力になる様、経験を積んで自信につなげていきたい。 失敗することを心配してしまう子もいた。失敗してもやり直せばいいことを伝えながら、失敗からできたにつながる経験、言葉かけを今後もしていきたい。	第３土曜日、 第２・４水曜日	のんたん分室	山岸

	調理器具の使い方は回数を重ねるごとに向上してきた。 支援者が見本を見せて伝える事も継続するが、見守りのスタンスはとりつつ進めていくことで、子ども同士で助け合う場面が増えてきた。 平日は疲れて来る子が多いこと、夕食への影響を心配する子もいる為、シンプルな工程で作れる内容を考えていく。 →次年度は、片付けまでがクッキングであることを今後も継続していく。片づける、洗う、拭くなど生活力アップを目指す。 長期休みや土曜日では軽食作りをしていく。みんなで作った料理をみんなで話しながら、楽しく食べる事を大事にしていきたい。			
ヨガ	秋以降、ヨガ講師、宮本先生に毎月１回土曜日１４時からレッスンを行った。 ・事前に参加者の特性を先生にお伝えし、特性等を考慮したうえで、先生がレッスンの流れを汲んでくれたが、その日の子どもの参加様子を見て臨機応変に内容を変更してくださった。身体を上手に動かせない子が多い事を知り、ハンディキャップヨガの講習も受講され、子どもたちの身体的特性を考慮した、指先や足先の神経を鍛える動きも取り入れていった。ハードな動きを求める子に対しては、タオルを使ったりし興味を惹くメニューを組み入れてくれた。 ・最初は見るだけの子も回を重ねる毎に参加する頻度が高くなり、最初から最後までヨガマットの上でできる子もいた。 ・体を動かしたあとのリラックスすることで、休むこと、心地よさの大切さを実感できている子もいた。 →次年度は、引き続き同じ内容を重ねていき、自分の身体を知る、身体を休ませる（気持ちよい感覚）等を感じてもらいながら、体感を鍛えていく。身体がうまく動かせない子に対しては、無理のない範囲で支援者がサポートをし、できたという達成感を味わってもらう事を継続していきたい。	第１土曜日	のんたん分室、本館４階	山岸

令和6年度の事業計画の支援活動目標

放デイ③（中学生～高校性）

個々の障害の特性に合った支援ができている

利用者の障害の特性に合った支援ができている。

支援者が階ごとの発達段階にあった必要な支援スキルを習得している

・支援者が見本を見せる（モデリング） ➡言って聞かせる（教示）➡させてみる（リハーサル） ➡うまくいかない時でもその過程を褒める（プラスのフィードバック）
・視覚優位/言語優位/聴覚優位の特性を活かす ➡子どもが理解できない、受け入れることが厳しい時はもう一度支援者側の伝え方を検証する
・友だちと一緒に活動することで社会性・コミュニケーション能力を身に付ける
・本人のできないことは、本人と考えながら、代替えや本人だけのやり方を見つけてやってみる

支援者は階ごとの発達段階にあった必要な支援が明確になっている

放デイ全体の目標

自分のことは自分でできるようになる

放デイ③の目標：自己選択・自己決定・自己責任

アクション：本人の苦手な事は、代替え方法を一緒に考える

具体的に：
・おめめどうメモを活用する
・本人が選びやすい問いかけをする
・全体スケジュール・個別スケジュールを使う

言語・コミュニケーション

SST（個別）

具体的に：
・その子にあった内容を行う
・ワークシートやチェックシートを使い話す

・社会生活を送るために必要なスキルと使い方を学ぶ

・ワークシート
・聖徳太子するゲーム
・いい所探しゲーム等

自己肯定感を持ち、高めることができる

放デイ③の目標：自己有能感を感じられる

アクション：
・成功体験を増やす
・ルールが明確な遊びを通し、やってみたいと思えるようなレクリエーションを行う。

具体的に：
・やってみたいと思える楽しい物を考える
・振り返りを行いながら、スキルが上がるようにする
・自己認知スキル

運動・感覚

エンジョイプログラム レクリエーション

・簡単や、やってみたいと思えるような作品や活動内容を考える
・正確がない物作り（アルコールインク等）
・グループ分けして、会話しながら楽しめるようにする
・できない時は代替え方法を提案
・できる所だけやってみるよう促す

・人との関係を作り円滑な社会生活を送れるようになる
・遊びや余暇を通してできることを増やす

・茶話会
・壁面飾り作り
・黒ひげ
・人生ゲーム
・ドッチビー
・絵本ひろば
・ラダーゲッター
・手形アート
・野菜や花を植える
・季節に応じたイベント

エンジョイプログラム 創作

・作ることに興味を持ち、楽しくオリジナル作品を作る
・自己表現ができるようになる

・アルコールインクアート
・メッセージカード
・陶芸
・フラワーアレンジメント

エンジョイプログラム 運動

・体を動かす楽しさを知り、成功体験を増やしていく

・大きい羽根のバトミントン
・ソフトバレー
・大縄
・フライングディスク
・ドッチビー
・ホバーサッカー
・フリースロー
・縄跳び
・ピクルボール
・ラダー

場面に合った適切な行動ができる

放デイ③の目標：自分で感情のコントロールと適切な行動ができる

アクション：
・ルールが明確な遊びを行う

具体的に：
・特性に配慮したルール設定をしておこなう
・ゲーム等の遊びを通して（怒りのコントロール、折り合いをつける、コミュニケーションの練習、聴く集中する、相手の気持ちをわかって働きかける、状況を見極めて考えて決める、相談する）等をやってみる

人間関係・社会性

ヨガ

講師の先生を招き、身体を動かす

心身を整える呼吸や姿勢を知る

クッキング

おやつを中心にし、長期休みは、お昼ご飯などのメニューを作る
・作業や使う道具を増やしていく
・準備・後片付けまでをする

・調理器具の使い方をや工程作業の向上
・成功体験を積む
・作ること、食べることを楽しむ

利用者さんに合わせたプログラム

・フレンチトースト
・ピザトースト
・パンケーキ
・パフェ
・クッキー
・ホットプレート・ガスコンロの使い方
・ホイップの絞り方

社会のルールを知って守ることができる

放デイ③の目標：一般的な社会のルールが分かって守れる

アクション：
・日常的な事を細かく（その子に合った内容）を取り上げ、説明し教える

具体的に：
・来た時から、帰るまでの中で、身辺的に必要な事を視覚的に伝える
・社会において大切な技能、人とのやりとりや人間関係を身につけるために、練習を行い経験を重ねていく

認知・行動

おでかけ

・公共交通機関を使う
・行く所を子どもたちと一緒に考える
・お金の大切さを教える（衝動買いについて）

・社会のマナーやルールを知る。
・必要に応じたお金の使い方・買い物ができるようになる。

・パラディ
・奈良ファミリー
・高の原イオン
・図書館
・チロル堂
・ボブスカフェ
・近隣公園等

健康・生活

LST（活動）

身辺自立にむけた内容を取り上げ、みんなで学習する

・社会生活を送るために必要なスキルと使い方を学ぶ
・人との関係を作り円滑な社会生活を送れるようになる
・特性に合ったライフスキルを知り、身につける

・金銭管理
・健康管理
・身だしなみ
・外出について（衣食住）等

LST（日常）

・その都度、その子に合った方法で伝え続ける

・挨拶
・手洗い
・机ふき
・身だしなみ
・エチケットマナー

挨拶・手洗いができる

・ハンカチを持ってくる/忘れた場合は「ペーパーを下さい」と言うスキルを教える
・自発的に挨拶できるように促す

支援者から挨拶をするのではなく、自分で考えるような声かけをする

令和６年度　　放課後等デイサービス（中学生～高校生）　　年間活動計画

<table>
<tr><td>活動</td><td colspan="4">ね　ら　い</td></tr>
<tr><td>期間</td><td>４月～６月</td><td>７月～９月</td><td>１０月～１２月</td><td>１月～３月</td></tr>
<tr><td rowspan="2">＜SST＞
月２～３回

松江・中嶋</td><td colspan="4">・社会生活を送るために必要なスキルを知る＋スキルの使い方を学ぶ
・人との関係を作り円滑な社会生活を送れるようになる</td></tr>
<tr><td colspan="2">人間関係をつくる為の基本のスキルをみにつける

・あいさつ・自己紹介・距離感・</td><td colspan="2">新たな人間関係の形成や広がりを図る

・助けの求め方・助けと協力・上手な聴き方（質問）
・上手な断り方・優しい頼み方・自分を大切にする</td></tr>
<tr><td>活動内容</td><td>自己紹介ゲーム

ワーク
・あいさつについて
・いろいろな言葉</td><td>ワーク
・表情絵から気持ちを知る
・話しかける時のマナーを知る
・相手の気持ちを考える</td><td>ワーク
気持ちについて
気持ちを変える（コントロール）</td><td>ワーク
助けの求め方
助けと協力について</td></tr>
<tr><td rowspan="2">〈LST〉
月２～３回

中嶋・松江</td><td colspan="4">・身辺自立に向けた活動を行い、一人で出来る力を身につける</td></tr>
<tr><td>・マナーや身だしなみを知る、身に付ける
・余暇・時間管理の仕方を知る</td><td>・整理整頓ができる
・金銭管理や外出のマナーを知る</td><td>・健康管理や生活習慣について知り、理解する</td><td>・自己を知り、なりたい自分像を考える（自己理解・進路選択）</td></tr>
<tr><td>活動内容</td><td>４月　自分を知る
部屋の使い方
５月　身だしなみ
部屋の使い方
６月　余暇・時間管理
避難訓練（地震）</td><td>７月　計画の立て方

８月　夏休みプログラム
金銭管理

９月　整理整頓</td><td>10月　健康管理

11月　危機管理
避難訓練(火災)

12月　掃除の仕方</td><td>１月　自分の得意不得意を知る

２月　得意な事を活かすとは

３月　なりたい自分像を描く
防犯訓練</td></tr>
<tr><td>＜LST＞
日常</td><td colspan="4">その都度、その子にあった方法で伝えていき、一人で出来る力を身につける
（来た時から帰るまでの中で身辺的に必要なスキルを身につける）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>内容</td><td colspan="4">・身だしなみ　・机ふき　・整理整頓　・生活習慣　・手洗い　・計画の立て方
・挨拶　・エチケットやマナー　・ごみの分別捨て方　・花植え　等</td></tr>
<tr><td rowspan="2">エンジョイプログラム
＜運動＞
月２～３回

倉田</td><td colspan="4">・友だちと一緒に活動することで社会性・コミュニケーション能力を身につける
・体を動かす楽しさを知り、成功体験を増やしていく</td></tr>
<tr><td>簡単な遊びを通して、コミュニケーションを取り、体を動かす</td><td>順番・ルールを守りながら活動に参加する
基本的な体の動きを練習する</td><td>順番・ルールを守りながら活動に参加する
基本的な体の動きを練習する</td><td>目標を共有して、協力して取り組む</td></tr>
<tr><td>活動内容</td><td>４月　ソフトバレー

５月　ラダー

６月　ホバーサッカー</td><td>７月　卓球・フライングディスク
８月　～夏休みプログラム～
ドッチビー
９月　ソフトバレー
（ピンポンバレー）</td><td>10月　フリスビー

11月　移動フリースロー

12月　風船バレー</td><td>１月　シッティングバレー

２月　９マス鬼ごっこ

３月　もう一度したい運動を子どもたちに聞き行う</td></tr>
<tr><td rowspan="2">エンジョイプログラム
＜創作＞
月２～３回
中嶋・倉田</td><td colspan="4">・作ることに興味を持ち、オリジナリティな作品作りを楽しむ。
・自己表現ができるようになる</td></tr>
<tr><td colspan="2">作ることに興味を持つ</td><td>自己表現ができるようになる</td><td></td></tr>
<tr><td>活動内容</td><td>４月・壁面かざり（大きな木）
５月・フラワーアレンジメント
・陶芸

６月・はっぴースマイルデーの飾り作り
・足形でスイミー
・バブルアート</td><td>７月　・スワイプアート
８月　～夏休みプログラム～
・ウィンドウチャイム
・レジン・時計
９月　・壁面かざり（秋）
・パズル
・ビー玉アート</td><td>10月
11月　・合わせ絵
（メキシカンスカル・カボチャ）
・粘土でストラップ
12月　・壁面かざり(冬)
・門松作り
・クリスマスオーナメント</td><td>１月　貼り絵（干支）

２月　・モコモコアート
・画用紙で花
３月　・壁面かざり（春）
・重曹アート</td></tr>
<tr><td rowspan="2">エンジョイプログラム
＜レクレーション＞

中嶋・倉田</td><td colspan="4">・遊びを通してできることを増やす・いろいろな事を経験して、楽しみを増やす</td></tr>
<tr><td colspan="4">簡単な遊びを通して、コミュニケーションを取り、相手を知る
簡単な遊びを通して、余暇を楽しむ</td></tr>
</table>

活動内容	４月～６月 ・伝言ゲーム ・茶話会 ・ラベンダースティック	７月～９月 ・絵本広場 ・ピンポンカップインゲーム ・茶話会 ・スイカ割	10月～12月 ・ボトルフリップゲーム ・ハロウィンパーティ ・スリーヒントクイズ ・ジェスチャーゲーム ・クリスマスパーティー	１月～３月 ・あいうえおポーズかるた ・巨大カルタ ・ジェスチャーゲーム ・書初め ・福笑い
＜ヨガ＞ 第１　土曜 講師　宮本さん 担当　山岸さん	・正しい姿勢と呼吸を習得し心身ともに健康になる ・楽しく体を動かし、くつろげる時間を持てるようになる			
	想像力・運動能力・感覚への意識を養う 自尊心・自己へのいたわり、自己受容を芽生えさせ、ストレス軽減方を知る 成功体験を積むことができる			
活動内容	参加される利用者さんの特性等に合わせて、先生が内容を考えていく。			
＜クッキング＞ 第２・４水曜 第３土曜 山岸	・調理器具の使い方を知り、使えるようになる・向上する ・料理を作ること・食べることを楽しむ			
	お湯をわかす・混ぜる・絞るができる	切る・焼く・卵を割る等ができ簡単な軽食を作る事ができる	ホットプレートやガスコンロを使用した、簡単な軽食や、季節に合わせたお菓子作り	
活動内容	４月・フルーチェパフェ ５月・カップ麺 ・インスタントスープ ６月・簡単ショートケーキ	７月・フルーツポンチ ８月　～夏休みプログラム～ ・パフェ作り ９月・お月見団子	10月・ハロウィンドーナッツ 11月・フレンチトースト 12月・クリスマスケーキ(マドレーヌ	１月・ピザトースト ・ ２月・ガトーショコラ ３月・ホットケーキ　・
＜おでかけ＞ 第２土曜 第１・３水曜 倉田・中嶋	外出時のマナーや社会のルールを知り、外出の経験を積んでいく。 お金の使い方、買い物の仕方を知り、考えて買えるようになる。			
	お出かけのルールやマナーを知る 金銭管理について知る 支払い方法を経験する	公共交通機関（電車・バス）の乗り方・マナーを知る 金銭管理について理解する おでかけの準備物がわかる	公共交通機関（電車・バス）の乗り方・マナーの理解と正しい行動ができるようになる 金銭管理について理解した上で、買いものをする経験値をあげる	
活動内容	４月～６月 ・北部図書館 ・すずらん館	７月～９月 ・北部図書館 ・すずらん館	１０月～１２月 ・北部図書館 ・すずらん館	１月～３月 ・北部図書館 ・すずらん館

	・学園前パラディ ・ボブスカフェ（駄菓子屋） ・パン屋 ・いろどりの森公園	・学園前パラディ ・福祉センター体育館 ・映画館 ・シャトレーゼ	・学園前パラディ ・ミナーラ（作品展） ・ロイヤルホームセンター ・生駒山麓公園	・学園前パラディ ・生駒駅前ドーナッツ ・びっくりドンキー ・ベビーフェイス ・奈良の神社

令和６年度事業報告書

＜言語療法＞

発達午前	親子で言語療法に向き合っていただくことで、親子間での伝え方、関わり方に共通理解を得られた。見本を見せるタイミングや声の掛け方等親子で取り組むことで、より発声、発語、発話が増えた。
発達午後	自身の気持ちの伝え方を中心に、就学に向けての着席しての課題を行った。また、児童によっては構音訓練なども行った。
小学生	＜火＞構音訓練・視覚を使い理解と伝達方法の拡大を行った。また、児童によっては構音訓練も行った。 ＜土＞SST を中心に対児童でのやり取りの練習を行った。また、児童によっては構音訓練なども行った。

＜利用状況＞

R6.5	発達午前：６名 発達午後：9 名 小学生：16 名
R7..3	発達午前：４名 発達午後：9 名 小学生：１５名

R6 年度　事業報告書「子育て広場　マザーリーフ」

＜概要＞

　今年度から市内に 3 カ所の子育て広場が新規開所となり、オープン前から利用者親子の間では楽しみに待つ声が多く聞かれた。そのうちの２拠点はマザーリーフ近隣ということもあり、 0 ～ 3 歳の子育て家庭が多い地域としては、居場所が増えたことで選択の自由も生まれ、より子育てに優しい地域へと変化していると感じている。利用者親子から上がっていた「広場が休みの時はどう過ごせば良いかわからない」といった声を聞くことはほぼなくなり、いろいろな拠点を利用しながら子育てを楽しんでいる様子が見られた。オープンな場所で誰もが自由に利用でき、楽しみながらも親子がそれぞれ色々なことを吸収し成長していける場所を提供する、という本事業の役割が、拠点数が増えたことで叶えられているのではないだろうか。

今年度のマザーリーフ利用者数は、年間の利用者数はのべ 9,646 人(R5 年度は 10,204 人)、その内新規利用者数は 1793 人だった。昨年度は広場定員数をオーバーする来所もあったが、今年度は交代での利用を周知し、順番待ちや講座時の定員減を発信するなど、丁寧な対応心がけると共に近隣拠点を紹介するという対応も新規利用者を中心に行うことで利用者が分散し利用しやすい広場を提供することができた。

また地域に出向く活動の一つとして、昨年度に引き続きふしみ祭りに参加し、小さな子どもがいる家庭でも祭りを楽しめると喜ばれた。またヘリコプターの会で交流していた各団体の方々と対面で会えたことも地域のつながりを深める良い機会になった。

　広場内で行った講座では、昨年度も開催した「先輩ママに聞いてみよう」という、マザーリーフを利用しているお母さんをボランティア講師として、保育園幼稚園の話や、仕事復帰までにしておくといいことなど話してもらう座談会を行った。縦のつながりを形成するきっかけとして、また双方のエンパワメントを高める講座として開催したが、座談会終了後も話が終わらないほど、お母さんたちの関心の強さがうかがえた。また、春と秋に西大寺近隣公園へ遊びに行くというイベントを対象年齢を設定して実施した。「同じくらいの年齢の子どもと交流したい」「公園に行っても誰もいない」というお母さんの声から開催したイベントだったが、広場とはちがう子どもたちの楽しそうな姿を見ることができ、スタッフ間でも嬉しい発見だったと共有したイベントになった。また例年のとおり「ベビーのひろば（生後 6 ヶ月までが対象）」を毎月開催した。子育て広場へ初めて来所するきっかけ作りとお母さん同士の交流の機会、またお母さんのリフレッシュを目的としたものだが、今年度はさらにお父さん向けのベビーの広場を開催した。家で赤ちゃんとのふれ合う時間をどのように関わってあげると赤ちゃんは嬉しいか、いないいないばあや絵本を通してパパ育ちを促す目的で実施した。来年度も定期開催していき、子育て親子に浸透させたいと思っている。

　利用者支援事業では、ゴールデンウィークにらくだ広場でイベントを開催した。奈良女子高等学校の絵本のリサイクルボランティア活動と一緒に開催したイベントで、本来休所日である日に「マザーリーフのおはなしなあに？」を地域ボランティアの方と一緒に行い、また先輩ママとして手形足形アートのワークショップをしている利用者と手作り缶バッジのワークショップを行った。広場も休日開所したため、多くの利用者が訪れた一日になった。また広場の先輩ママが子育てを支援する目的で活動を始めたということで連携をスタート。今年度は「抱っこ紐調節＆ストレッチ」というタイトルで、抱っこ紐を正しく付けることで身体への負荷を軽減しつつ、母子のフィジカル、メンタルの安定を目的として講座を開催。来年度は回数を増やして開催し、正しい抱っこ紐の付け方の習得と、子育て支援活動の後押しができればと考えている。

<利用状況>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数（日）	21	19	21	21	22	19	21	20	20	19	18	21	242
利用者数（人）	748	664	825	852	930	880	917	783	728	726	781	812	9646
一日平均（人）	35.6	34.9	39.2	40.5	42.3	46.3	43.7	39.1	36.4	38.2	43.4	38.7	39.9

<活動内容>

	講座イベント	**会議研修**
4月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「手作りおもちゃ講習会」 ・親子であそぼう(1 歳前半)「おはなしなあに？」 ・親子であそぼう(1 歳後半)「おはなしなあに？」	・マザーリーフ会議 ・ヘリコプターの会
5月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「ふれあい遊びを楽しもう」 ・親子であそぼう(7～11 ヶ月)「おはなしなあに」 ・親子であそぼう(2～3 歳)「公園へいこう」雨天中止 ・栄養士さんによる個別栄養相談	・マザーリーフ会議 ・ヘリコプターの会 ・(法人)　主任研修
6月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「ベビーマッサージ」 ・親子であそぼう(1 歳前半)「おはなし広場」 ・親子であそぼう(1 歳後半)「公園へ行こう」 ・先輩ママに聞いてみよう(幼稚園編) ・七夕工作	・マザーリーフ会議 ・ヘリコプターの会 ・M’ｓねっと協議会 ・(法人)　主任研修
7月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「親子でふれあいリフレッシュ」 ・親子であそぼう(7～11 ヶ月)「くりちゃんとわらべ歌」 ・親子であそぼう(2～3 歳)「くりちゃんとわらべ歌」 ・保育コンシェルジュさんのおはなし ・七夕工作	・マザーリーフ会議 ・ヘリコプターの会 ・(法人)　主任研修 ・コーディネーター連絡会 ・(法人)はっぴースマイルデー
8月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「パパの土曜日」 ・親子であそぼう(1 歳前半)「リトミック広場」 ・親子であそぼう(1 歳後半)「リトミック広場」 ・栄養士さんによる個別栄養相談	・マザーリーフ会議 ・ヘリコプターの会
9月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「ベビーマッサージ」 ・親子であそぼう(7～11 ヶ月)「ベビーヨガ」 ・親子であそぼう(2～3 歳)「おはなし広場」 ・乳幼児向け応急手当講習会 in ふしみ公民館 ・先輩ママに聞いてみよう(保育園編)	・マザーリーフ会議 ・ヘリコプターの会 ・子育て支援従事者交流会
１０月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「パパの土曜日」 ・親子であそぼう(1 歳)「くりちゃんとわらべ歌」 ・ハロウィン「カラフルお化けを作ろう」 ・のびのび講座（母子保健課）	・マザーリーフ会議 ・ヘリコプターの会 ・(法人)主任研修

１１月	・おもちゃ病院 ・親子であそぼう(7～11 ヶ月)「おはなし広場」 ・親子であそぼう(2～3 歳)「公園へいこう」 ・栄養士さんによる個別栄養相談 ・出張広場（ふしみふれあい祭り） 「おはなしなあに？」「オリジナルエコバッグ作り」「プラレール広場」	・マザーリーフ会議 ・ヘリコプターの会 ・臨床心理士さんとの合同研修会 ・(市)子どもの権利の視点をもった子育て ・子どものみらいフォーラムおおさか
１２月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「手作りおもちゃ講習会」 ・親子であそぼう(1 歳)「風船であそぼう」 ・クリスマスミニ音楽会「ヘルマンハープ」 ・抱っこ紐調整＆ママストレッチ ・はぴか教室手遊び	・マザーリーフ会議 ・パパママサロン見学
1月	・おもちゃ病院 ・親子であそぼう(7～11 ヶ月)「親子でリトミック」 ・親子であそぼう(2～3 歳)「親子でリトミック」 ・節分ウィーク「ボールで鬼は外」	・マザーリーフ会議 ・ヘリコプターの会 ・ひろば全協「地域子育て相談機関のあり方について考える」 ・育成課振り返り ・年間計画会議
2月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「親子でふれあいリフレッシュ」 ・親子であそぼう(1 歳)「絵本ライブ」(絵本の森) ・栄養士さんによる個別栄養相談 ・はぴか教室手遊び	・マザーリーフ会議 ・(要対協)虐待研修 ・(市)交流会 ・(市)コーディネーター研修
3月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「ベビーマッサージ」 ・親子であそぼう(7～11 ヶ月)「くりちゃんとわらべ歌」 ・親子であそぼう(2～3 歳)「英語であそぼ！」	・マザーリーフ会議 ・子育てコーディネーター連絡会 ・伏見都跡京西　地域交流会

その他地域連携

・M's ねっと連絡協議会

・子育て広場 PEACE

・子育て広場とみお

・子育てスポット　子育てサロン天使の広場

・子育てスポット　いちご組

・子育てスポット　子育て広場１，２，３

・子育てスポット　ミルクハートミルク

・あやめ池子ども文庫

・奈良市社会福祉協議会

・伏見地域ふれあい会館

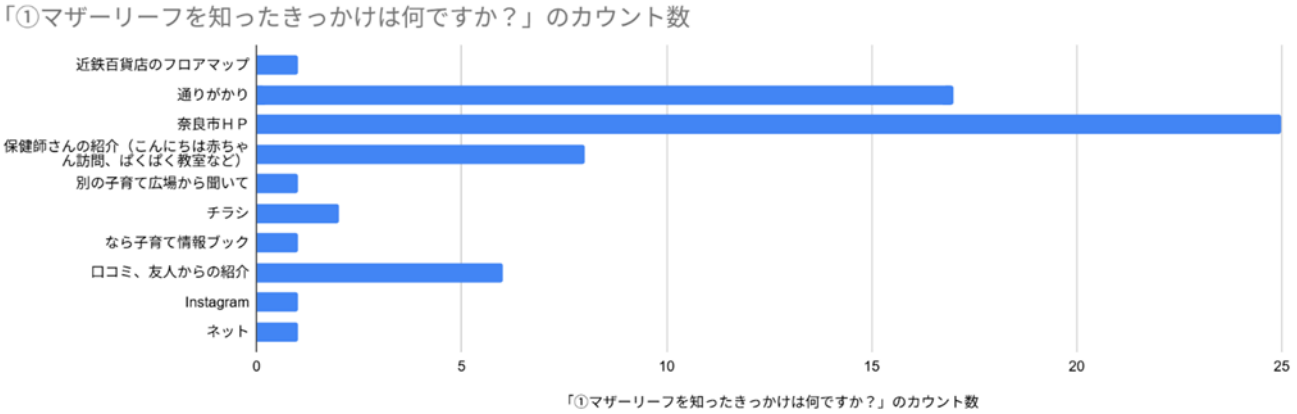
・平城公民館

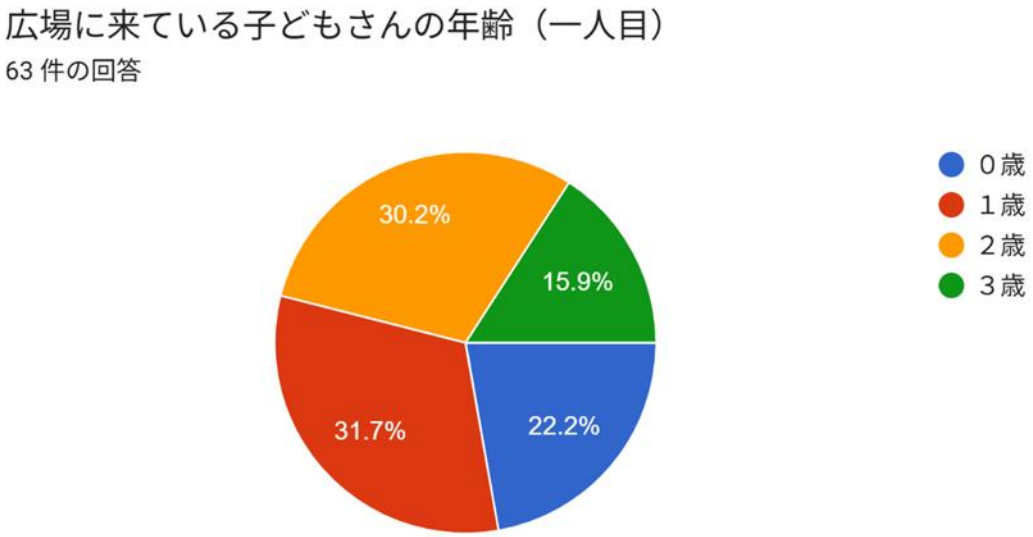
・ふしみ公民館

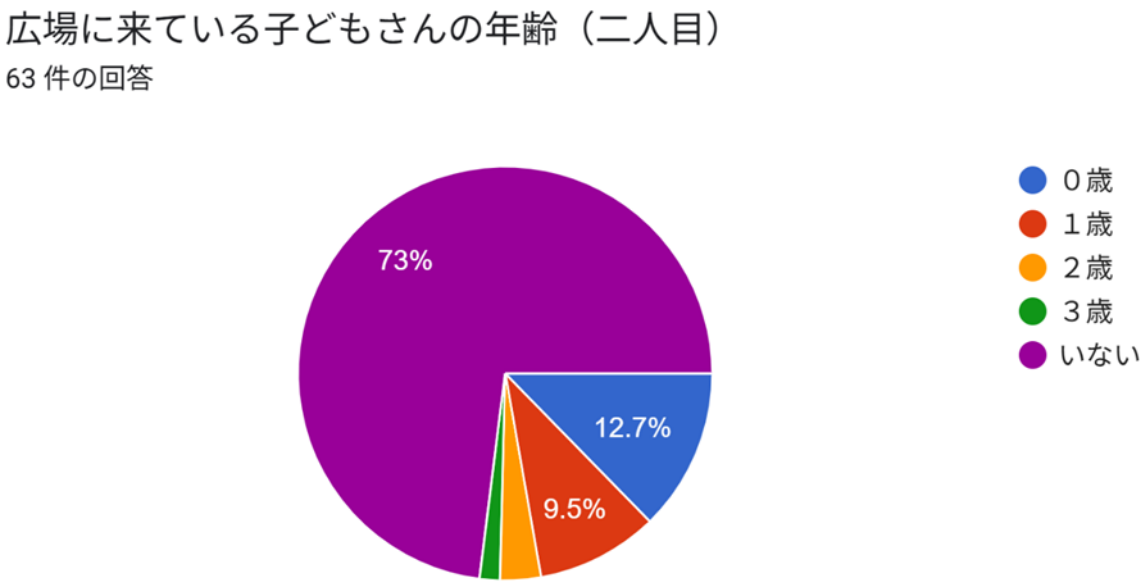
・フードドライブ（第一学院、奈良市フードバンク）

・おもちゃ病院

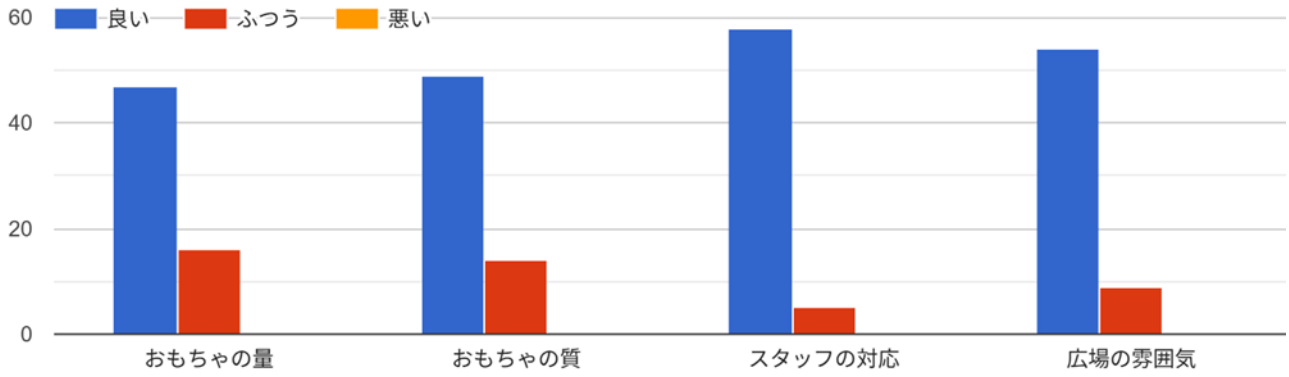
〈アンケート結果から〉


「①マザーリーフを知ったきっかけは何ですか？」のカウント数
近鉄百貨店のフロアマップ
通りがかり
奈良市ＨＰ
保健師さんの紹介（こんにちは赤ちゃん訪問、ぱくぱく教室など）
別の子育て広場から聞いて
チラシ
なら子育て情報ブック
口コミ、友人からの紹介
Instagram
ネット
0
5
10
15
20
25
「①マザーリーフを知ったきっかけは何ですか？」のカウント数


広場に来ている子どもさんの年齢（一人目）
63 件の回答
30.2%
15.9%
31.7%
22.2%
0歳
1歳
2歳
3歳

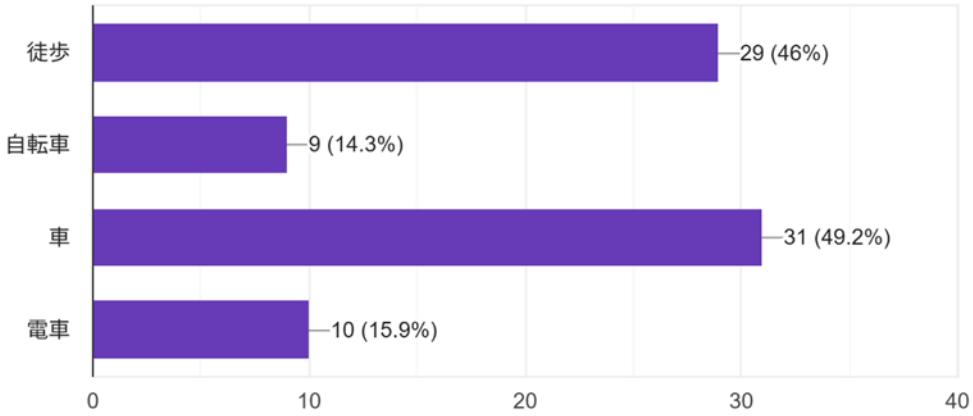

広場に来ている子どもさんの年齢（二人目）
63 件の回答
73%
12.7%
9.5%
0歳
1歳
2歳
3歳
いない

⑦マザーリーフについて感じること



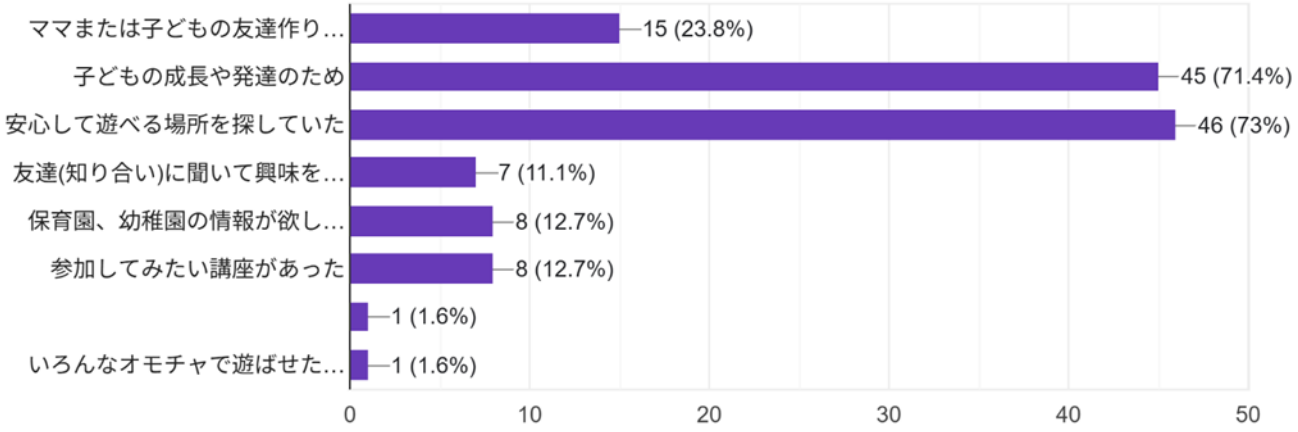
⑤マザーリーフまでの交通手段は？（複数回答可）

63 件の回答



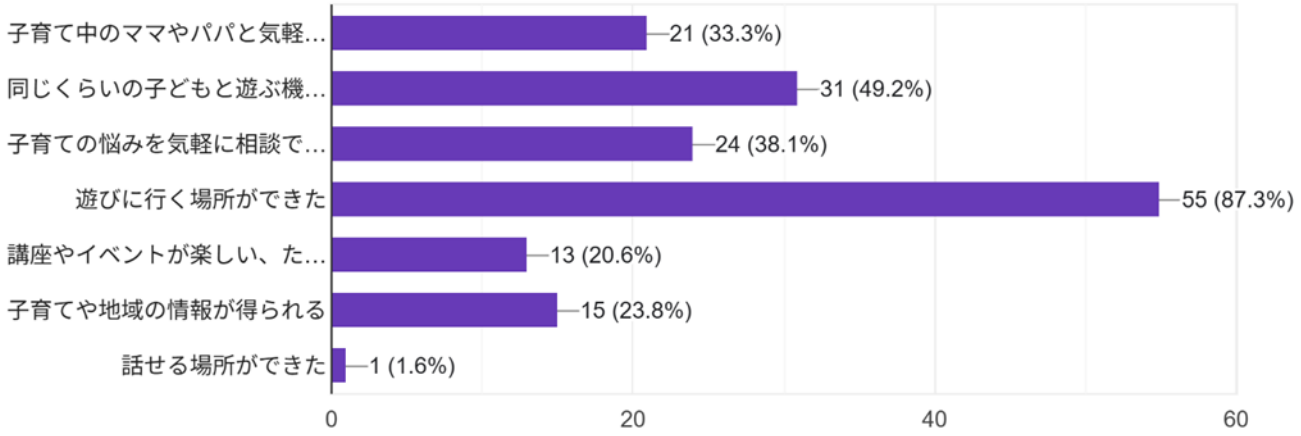
②マザーリーフを利用しようと思ったきっかけは何ですか？(複数回答可)

63 件の回答



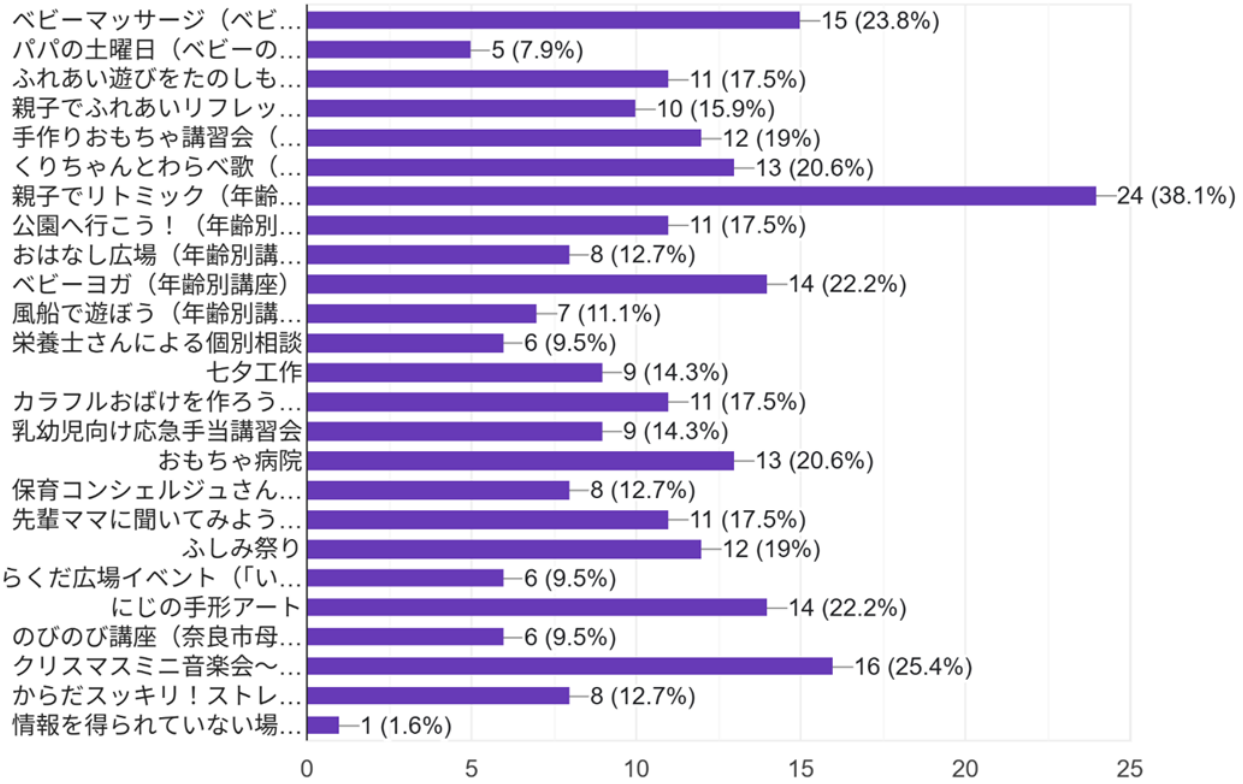
⑥マザーリーフを利用するようになってよかったと思うことは何ですか？(複数回答可)

63 件の回答



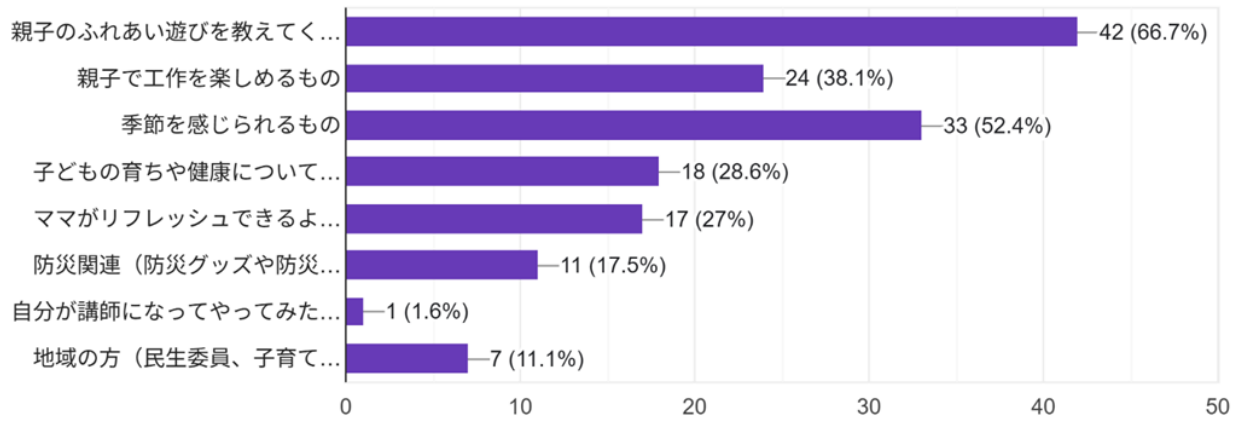
①今年度に実施した講座、イベントで参加してよか…なと思ったものはありますか？（複数回答　可）

63 件の回答



①内容はどのようなものが良いですか？(複数回答可)

63 件の回答



マザーリーフや地域の事、子育てに関すること、お気づきの点やご要望があればお書きください。
・いつも安心して楽しく遊ばせてもらっています！
・とてもいいです
・買い物ついでに、休憩に、利用できる広場でとても助かっています！！
・いつも楽しく利用させていただいています
・楽しく過ごせて良い場所です
・寒くて外で遊べない時に、室内で遊べるのでとても助かります。スタッフさんと育児の話ができるので嬉しいです。インフルエンザなど流行っているので感染症対策が気になります。
・上の子５歳と下の子１歳が同時に遊べる、集いの広場があれば助かります。子育て広場は３歳までという年齢制限があるため。 土日祝日も開所されている施設があると助かります。
・スタッフの方が気さくに話しかけてくださり、ありがたいです。
・いつも過ごしやすくご配慮いただけています。
・イベントが多いとありがたいです
・子どもが小さい時から大変お世話になっています。もうすぐ入園なのでそれまでよろしくお願いします。
・いつもとてもお世話になっております。あたたかく迎えてくださって、いつもありがとうございます。
・いまで満足しています
・パパ、ママ、子供が一緒に遊ぶイベントがあると嬉しい
・積み木がほしい
・エンゼルサポートは利用上限時間があるので産後もう少し利用したいが難しい。
・17～18時まで開所して欲しい。
・いつもありがとうございます。
・いつも楽しく過ごしています
・自転車になかなか乗ってくれなくなってしまいまして、車がないとなかなか行けないのが最近は辛かったりします、、、
・いつもありがとうございます。とても助かっています。
・奈良市民以外も利用できる点が非常にありがたく大変助かっています。
・室内で遊べる場所がとても有難いです。お気に入りのおもちゃもありつつ、定期的におもちゃが入れ替わっているのも子どもが飽きずに遊べて良いです。スタッフの方々とも話しやすく、母の息抜きにもなり親子共々楽しい時間を過ごさせて貰っています。
・いつも安心して利用させていただき感謝しております
・いつも子どもが楽しそうに遊んでいます。ありがとうございます
・寝不足のときどこかで大人も昼寝したい
・アンパンマンのおもちゃが沢山あって、子供が喜んでいます。 授乳もランチも出来るのですごく助かっています。 いつも一緒に優しく遊んで下さりありがとうございます！
・いつも楽しく過ごさせて頂いてます。ありがとうございます！
・先生方の対応がよく感謝しています！いろんな人が来るので空気清浄機などがあれば嬉しいです
・あたたかく迎えてくださりありがとうございます！
・いつも助かっています。
・奈良ファミリーの中にあるので買い物ついでに利用しやすくありがたいです。
・不要な服やベビーフードなどのリサイクルボックスがあるとエコだと思います
・いつも親子とも楽しく遊んでリフレッシュさせてもらってます。いつまでも素敵な場所が続きますように奈良市には頑張って欲しいです
・いつも利用してます。これからもお世話になります。
・いつもスタッフさんが優しく話しかけてくれて本当にありがたいです。
・今は東京での生活がメインだが、奈良に移住することも検討しているので、サポート体制が知れるとありがたい
・まだ引っ越してきたばかりであまりわからない
・奈良市は支援センターが多くて助かっています。 マザーリーフは土曜日も空いているので助かります。
・特になし。いつもありがとうございます。

令和６年度事業報告書

特定非営利活動法人ザ・ホープフル
ぱれっと

全体報告内容

本年度は、前年度どうように工賃をしっかり少しでも上げていく事に取り組みました。新規の企業さんとも連携をとることができ、新たな作業に取り組みる事ができました。最初の内は、スタッフがメンバーにどのようにしたら出来るようになるのかを一緒に試行錯誤しながら治具を作ります。少しずつ、本人達に使いやすいのかを聞きながら工夫していきました。新しい作業になると、どうしても不安が勝ってしまい、うまい事できない自分にネガティブになってしまいがちですが、このプロセスの段階を丁寧に寄り添う事で不安を軽減し、出来た時の自信に繋がる事を大切にしました。今年度はこのプロセス段階をもう一度見直し、みんなの出来る事を増やす事を目標とスタッフ一同ベクトルを揃えて寄り添うようにしました。成果として、いつもやっている作業工程でスタッフが賄っていた工程もみんなが出来るようになりました。忙しくてできないという言い訳をやめ、しっかり時間を取り、一人一人が理解できるまでしっかり一緒にするのが大事だと再認識することができました。このことでメンバー自身も出来る事がふえ、さらに『できたよ』という“報告”も自然と出来るようになりました。このような事がエンパワーメントとして

① モチベーション向上
② パフォーマンス向上
③ 能力発揮
④ 意思決定の迅速化

に繋がったと考える。細かい所の寄り添いが大きな変化に繋がる事に気づけた事も支援員として大きな成果だったと実感できる。作業以外では多くの実習体験を受け入れる事や、誰でも見学をする事で、外部の人間が入ってくることで、緊張感と見られているという意識がもてて、スタッフもメンバーも時折、緊張感を持って仕事に取り組めたことはすごくいい事であった。今後も外部の見学や体験実習は受け入れを積極的に受け入れていきたいと思う。

余暇に関しては毎月１回イベントを行う事で、日々とは違う雰囲気で過ごす事ができる。また、コロナもあけたので外出イベントも行い、経験値を積み重ねる事ができた。いつもと同じ場所での活動は安心感があるので不安が強い子にはいいが、お出かけも入れる事で、いつも一緒に働いている仲間という安心感のもと初めての体験が出来るのは、仲間の存在が大きいと感じる。また、同年代の子等が多いのも特徴になっているので今後も色んな事に挑戦はしていきたいと考える。

今年度は全体を通して、比較的落ち着いており、ゆっくり時間を取りながら作業に取り組めたのがすごく良かった部分である。これからも一人ひとりに細かく時間を取りながら出来る経験を増やし、達成感・充実感・自信とつながるように提供していけたらと思う。

・見学者・体験者　11 組
・定着支援　毎月 1 回、企業へ連絡（訪問はなし、本人との連絡）
・医療連携　4 月から継続　（ジョイ訪問看護ステーション堺）
・土曜日プログラム
4 月 6 日　長居植物園へ桜を見に行こう
5 月 11 日　肉！肉！肉！BBQ の季節だぁ！
6 月 1 日　バーガー！シャカシャカポテト！ジャンクにいこーぜ(^^)/
7 月 6 日　リクエストに応えて、ジャンカラへ GO！
8 月 3 日　流して流して麺スルー！揚げ物は揚げてアツー！
9 月 7 日　大阪名物たこ焼き＆鉄板焼きパーティー
10 月 5 日　公園で体を動かしてリフレッシュ！
11 月 2 日　この季節は BBQ で決まり！肉、サツマイモ食べるぞぉ
12 月 7 日　キューズモールあべの 4 階『フォールームス』
1 月 11 日　２度漬け禁止！熱々、串カツ・豚汁！
1 月 25 日　今回のカラオケは北巽駅近くのサウンドキューブに行こう！
2 月 1 日　手巻き寿司を自分の好みで巻いて、鬼もやってくる！
3 月 1 日　ひなまつり！自分でチラシ寿司をデコレーション！

・大阪府立生野支援学校　実習生受け入れ　8 月 5 日～9 日　4 名（3 年生）
8 月 19 日～23 日　1 名（3 年生）
10 月 28 日～11 月 1 日　1 名（3 年生）
1 月 14 日～16 日　2 名（1 年生）
1 月 21 日～23 日　2 名（1 年生）
体験実習　10 月 17 日・19 日　ぱれっと内（2 年生）
合同説明会　7 月 19 日　学校内
・四恩学園合同説明会　9 月 28 日
・大阪府立住之江支援学校　実習生受け入れ　6 月 17 日～6 月 21 日　1 名
・のんたん（放ディに通っている子等）　7 月 29 日　8 月 19 日　各 6 名ほど
・大阪市東部地域就労移行支援事業所連絡会 E-Cheers
マナー講座　（生野支援学校　7 月 10.11 日　10 月 12.13 日　3 月 4 日）
※他事業所への体験見学同行
東朋高等専修学校合同説明会　6 月 15 日
大教大付属高校合同体験会　10 月 18 日
マナー講座　10 月 16 日
・大阪就労・生活支援センター　体験実習　7 月 22 日　2 名
・地域共生ケア生野推進委員会（毎月 1 回）
・生野区 NPO 連絡会（毎月 1 回）
・生野区花と緑のまちづくり推進　緑化友の会　（4 月、10 月種まき・水やり・寄せ植え講座・花らんまん）
・介護予防ポイント事業委託（NPO 法人フェリスモンテ）毎月 4 回とプラスα（家の掃除など）
・オープンぱれっととして開放イベント（誰でも見学できる取り組み）
・新規企業連携

2023年度発達支援まとめ＜事業報告＞

○総括

児童発達支援では「子どもが自分で周りの動きに気付き集団行動ができるようになる」を目標にたて、スモールステップで目標達成に近づくため、ひとりひとりの発達や特性に合わせながら支援しました。

子供が自分で気づき動ける力がついている・集中して話を聞くことができる・自分から活動に参加できる・身体全体の機能を促し、語彙が増えるなど、個別支援計画に合わせた支援をしました。

支援者との関りを通して集団生活の中で安心して過ごせるようにしたり、遊びの中で他者と言葉でのやり取りや、コミュニケーション力に繋げたり、生活や活動の中での取り組み方や、ルールなどを伝えていきました。

活動では、子供たちが興味を持てたり、楽しめる内容を取り入れ、活動内容の工夫、視覚支援、環境を整えながら、五感を刺激する感覚あそびや、前庭感覚・固有感覚の発達を促す運動遊び、指先を使う微細運動に取り組みました。生活の中で、挨拶・準備・排泄・着脱・手洗い・食事など習慣化できるよう支援をしたり、少しずつ自分でできることを増やしていきました。

また、保護者の方との面談やその他関係機関との連携をとり、相談支援員が間に入りながら支援を進めていきました。

○主要な結果

支援者との信頼関係ができることで、相手を見る・相手の話を聞く・模倣ができるにつながり、少しずつ他者へ意識が高まり、集団生活の中で一斉指示が聞けるようになり、自分でできることが増えてきた。ひとりひとりの成長段階や特性を理解したり、行動の観察をしたり、目標を立て実行、評価、改善を繰り返すことで、本人に必要な支援や本人が納得して取り組める関わり方をすることで、「楽しい・やってみたい・できた」が増えた。

○学び・反省

児童発達支援ガイドラインに沿っての支援、アセスメント力、特性の理解、発達検査など今後も総合的に考えていく必要があることが分かった。活動面では、個別対応や個別支援が必要な場面が多く、支援者をひとり増やすことで全体での動きや、個々での活動の動きがスムーズになるので支援者の人数配慮が必要である。

○次年度への課題

支援者ひとりひとりが子どもとの関わりに責任をもち、子どもの気持ちや動きにアンテナを立て、子どもとの関わり方のスキルを持ち、ゆとりを持って支援ができるようにする。子どもの人数かつ、必要な支援員の人数を考慮することが必要である。日々の支援が充実できるよう支援者で協力し、支援に必要な物の準備が十分に整えられ、環境設定ができるようにしていくことが必要である。

事業所	対象	活動報告	実施	実施場所	担当
基本的生活習慣	午前 利用	挨拶・準備・手洗い・食事・排泄・着脱など、同じタイミングで取り組めるよう視覚支援と声掛けで促し、習慣化を目指しました。支援者との関係を築き、見る・聞く・模倣するができるような関わり方をし、個々に寄り添いながら見本を見せ、支援者と一緒に取り組み、少しずつ自分でできるように促しました。その結果、挨拶時に目を合わせジェスチャーや言語で返事をしたり、準備・手洗い・食事・排泄・着脱など自分でやってみようとする姿が増えました。	常時	のんたん	全員
感覚あそび	午前 利用	「色々なものを見て五感を養います」という目標を設定して活動を行いました。前半は色々なものに触れて遊びました。触覚や視覚、聴覚などを通してわかる言葉が増えてきました。後半では繰り返し活動を行うことで、自分から触れて楽しめるようになりました。活動を通じて「おもしろい・楽しい・冷たい」など言える言葉や単語が増えてきました。	毎週 火・水 曜日	のんたん １階 テラス	中道
微細運動	午前 利用	「腕や手の筋肉を使用する運動に取り組むことにより、自由に関節を動かし細かい動きができるようになります」を目標に活動に取り組みました。 指先を使った遊びが楽しめるよう、個々の発達に合わせて、本人がやってみようと思えるような題材を提供しました。卓上課題に集中して取り組めるよう、見本や視覚支援でやり方をわかりやすく伝え、プットイン遊びや、シール貼り、書く遊びなどに段階的に、繰り返し取り組んだ結果、わかる、できることが増え、指先を使用した遊びに取り組めるようになってきました。	毎週 月曜日	のんたん １階	宮田

運動あそび	午前 利用	「全身運動（歩く・走る・跳ぶ）・階段上り下り・大型遊具を使った運動で体幹を鍛える」ことを目標に、身体のバランスやコントロールする力を養い、体幹を鍛えることで体の軸を整え椅子に座れるように支援しました。 歩く・走る・全身運動・大型遊具など体を使った遊びが楽しめるよう、４階広場で取り組みました。体を自由に動かし、自分で好きな遊びが選び遊べるよう環境設定をした結果、のびのびと体遊びに取り組めました。階段運動は、あまりできませんでした。	毎週 火曜日 金曜日	のんたん ４階	宮田
基本的生活習慣	午後 利用	挨拶・準備・手洗い・排泄などの習慣化できるよう支援し、本人が自主的に取り組めるよう見守ったり、必要な時には本人が次にすることに気が付き考えて行動ができるような声掛けをしたり、少しでもできたり、取り組もうしたときには褒める支援をしました。その結果、自分から挨拶をしたり、準備や手洗い・排泄など、自分から行動がとれるようになりました。	常時	のんたん １階 のんたん	全員
感覚あそび	午後 利用	「色々なものを見て感じて五感を養い言語化にもつなげます」という目標を設定して活動を行いました。活動には全員参加できました。ドロドロしたものが苦手で最初はカップや道具を使っていた子供も回数を重ねることによって手で触れることが出来るようになっていきました。 「冷たい・さむい・ざらざら」など手や体で感じたことを支援者が代弁することで表現の方法が分かり言語化できるようにもなってきました。もっとやりたい気持ちを育むことで「○○下さい。」等の要求の言葉もよく出るようになりました。 色々なものを触ったり、音を感じることによって、様々な感覚を養いました。	毎週 火・水 曜日・	のんたん １階	加納

運動遊び	午後 利用	・「全身運動（歩く・走る・跳ぶ・階段上り下り）や遊びを通して、体幹を鍛え、身体がスムーズにコントロール出来る様になります」 ・(大型遊具を含む)「お友達との運動や遊びを通して集団でのルールや他者との関わり方、相手を思いやる気持ちを育てます。 ・「ボール遊びを楽しんだり、ジャンプ遊びを楽しんだりできるようになります」という目標を設定して行いました。 毎回、４階に上がることはでき、一人で上り下りできる子も増えました。前の人を抜かさない、走って登らないという階段のマナーも定着しました。 活動のはじめと終わりにお山すわりをしてきちんと挨拶をする。前で話をしている支援者の話を聞くことも定着しました。 遊具を使った運動（トランポリン・トンネル・平均台・はしご・滑り台）・ジャンプ遊びを中心に行い全身運動や身体のコントロールも良くなりました。 両足ジャンプやケンケンパーもできる子が増えました。 大縄跳びや小縄跳びにもつながりました。 天気の良い日は、散歩に出かけ、散歩のマナー（支援者と手をつなぐ・車に気を付ける）もわかり、公園で滑り台やドングリを拾ったりシャボン玉などをして楽しむことができました。	毎週 月曜日 木曜日	のんたん ４階	柴田 植田
微細運動	午後 利用	「腕や手の筋肉を使用する運動に取り組むことにより、関節を動かし細かい動きができるようになります」を目標に取り組みました。ゴム通しや、洗濯ばさみ遊び、プットインなどの遊びを通して、お箸や鉛筆、ハサミを支える３本の指先に力が入るようにした結果、ペンを持ち、線が描けるようになりました。ハサミの活動では、個々に合わせて安全に取り組めるよう、個別での取り組みを通して、１本切りや、連続切りができるようになりました。	毎週 月曜日	のんたん １階	瀬川

土曜日	午後 利用	「支援者やお友達とコミュニケーションを図りながら、色々な活動（集団・運動・感覚・創作）を楽しみます」「子供たちの好きなことを取り入れ楽しみの幅を広げていきます」という目標を設定して活動を行いました。ゆっくりした時間の流れで、好きな遊びを楽しめていました。一人一人と向き合いコミュニケーションを図ることができました。活動は創作を中心に行いました。季節の創作やシールを貼る・色を塗る・絵を書くなど行いました。子供たちが自分で考え工夫して積極的に取り組めていました。	毎週 土曜日	のんたん １階	柴田 永澤

令和５年度発達支援

＜利用者状況＞

利用月	利用人数	利用月	利用人数
令和５年４月	165 人	10 月	266 人
5 月	192 人	11 月	262 人
6 月	178 人	12 月	298 人
7 月	197 人	令和６年１月	276 人
8 月	202 人	2 月	277 人
9 月	247 人	3 月	300 人

年間平均１カ月　10.8　人

利用月	利用日数	一日平均	利用月	利用日数	一日平均
令和５年４月	22	7.5	10月	23	11.57
5月	23	8.35	11月	22	11.91
6月	23	7.7	12月	23	12.96
7月	23	8.57	令和６年１月	21	13.14
8月	22	9.18	2月	21	13.19
9月	23	10.74	3月	23	12.87

令和5年度　　発達支援年間報告書

（目標）　子供が自分で周りの動きに気付き集団行動ができるようになる

午前

活動	担当	ねらい	
		4月～9月	10月～3月
日常生活	全員	**基本的な生活習慣が身につく** 挨拶・準備　・かたづけ・手洗・　食事　・排泄　　・替え・たたむ・支援者との関わり方	
＜運動遊び＞ 火曜日　・金曜日	宮田	**・全身運動（歩く・走る・跳ぶ）を楽しむ** **・身体のバランスやコントロールする力を養います。・体幹を鍛えることで体の軸を整え椅子に座れるようになります。**	
		・支援者と関わりを持ち体遊びが楽しめるようになりました。 **・体を使って、模倣ができるようになりました。**	**・しっかり歩く・走る・跳ぶ・ジャンプ・片足立ちができる子も出てきました。** **・好きな遊びを体を使って楽しむことができるようになりました。**
		ふれあい遊び・風船遊び　　・散歩等 ・走る（追いかけっこ・支援者やお友だちとグルグル走る） ・大型遊具や遊具を使った運動（丸、波型平均台・トランポリン等）	・体遊び（ジャンプ・片足立ち） ・風船遊び（うつ） ・ボール遊び（転がす・投げる・受け取る）・散歩等
＜感覚遊び＞ 水曜	中道	**色々なものを見て感じて五感を養います。**	
		色々なものに触れて遊びました。 **触覚や視覚、聴覚などを通して、わかる言葉が増えました。**	**色々なものに自分から触れて楽しめました。** **触覚や視覚、聴覚などを通して、言葉や単語が増えてきました。**
		・ボールプール　・砂遊び　・氷遊び　・片栗粉遊び　・新聞遊び　・お散歩　・しゃぼん玉　・積む　　・パラバルーン ・聴覚あそび（色々な物を叩いてみる、楽器）　・嗅覚あそび（身の回りの物、自然物等）　・触覚あそび（身の回りの物、自然物等）	
＜微細運動＞ 月曜日	宮田	**腕や手の筋肉を使用する運動に取り組むことにより、関節を動かし細かい動きができるようになります。** **指先を使った遊びが楽しめるようになります。なぐり書きやぐるぐる丸が書けるようになります。**	
		肩を動かす→肘を動かす→手首を動かす→手のひら全体でつかむ（前半）	**親指とその他の指で持つ→親指と人差し指でつまむ（後半）**
		にぎる・まるめる・やぶる・入れる・貼る（・ゴム通し・棒通し）	プットイン・なぐり書き・シール貼り

午後

<table>
<tr><th>活動</th><th>担当</th><th colspan="2">ねらい</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td>4月～9月</td><td>10月～3月</td></tr>
<tr><td>日常生活</td><td></td><td colspan="2">やり方がわかり、自主的に行動ができるようにします。
挨拶　　準備　　かたづけ　　手洗い　　着替え　　たたむ　　支援者との関わり方</td></tr>
<tr><td rowspan="3">＜運動遊び＞
木曜日
金曜日</td><td rowspan="3">柴田
植田</td><td colspan="2">・全身運動（歩く・走る・跳ぶ）・階段上り下り・大型遊具を使った運動・遊びを通して、体幹を鍛え、身体がスムーズにコントロール出来る様になります。
・お友達との運動や遊びを通して集団でのルールや他者との関わり方を知り、相手を思いやる気持ちを育てます。</td></tr>
<tr><td>・全身を使った遊びや運動をすることによって、目、手足が協調して、身体の動きがスムーズになるようにします。
・支援者やお友達と触れ合いながら親しみを感じ、一緒に遊ぶ楽しさを知ります。</td><td>・全身を使った遊びや運動をすることによって目、手足が協調して、身体のバランスや力のコントロールができるようになります。
・ルールを守りながら、お友達と一緒に同じ遊びや運動を楽しみ、他者を思いやる気持ちを育てます。</td></tr>
<tr><td>・階段上り下り　・走る（コーンにむかって走る・GO&STOP 等）
・遊具を使った運動（丸・波型平均台・平均台・はしご・トランポリン・トンネル・跳び箱等）
・伝承遊び（1 羽のカラス・むっくりくまさん等）
・身体表現遊び（ことりことり・ロンドン橋・手遊び・指遊び等）
・風船を使った遊び（風船入れ・風船バレー等）
・ボールを使った遊び（玉入れ・かご落とし等）
・カード遊び（絵合わせ・物品合わせ等）
・身体遊び（ジャンプ・ケンケンパー・ゴム跳び）
・魚釣り等
・散歩等</td><td>・階段上り下り　・走る（コーンにむかって走る・GO&STOP 等）
・遊具を使った運動（丸・波型平均台・平均台・はしご・トランポリン・トンネル・跳び箱等）
・伝承遊び（むっくりくまさん等）
・身体表現遊び（手遊び指遊び・ロンドン橋等）
・風船を使った遊び（風船入れ・風船バレー等）
・ボールを使った遊び（くす玉割り・投げる・受け取る等）
・カード遊び（絵合わせ・オセロ等）
・身体遊び（ジャンプ・ケンケンパー・片足立ち・後ろ歩き）
・勝敗のある遊び（輪取りゲーム・しっぽとりゲーム等）
・魚釣り等
・散歩等</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">＜感覚遊び＞
火曜･水曜日</td><td rowspan="3">加納</td><td colspan="2">色々なものを見て感じて五感を養い言語化にもつなげます。</td></tr>
<tr><td>色々なものに触れる
触覚や視覚、聴覚などを通して、言葉や単語が増えます。</td><td>色々なものに自分から触れて楽しむ
触覚や視覚、聴覚などを通して、言葉や単語が増えます。
力のコントロールができるようになります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">・ボールプール　・砂遊び　・氷遊び　・新聞遊び　・お散歩
・日用品遊び（プチプチシート・スポンジ等）　・積む　・音遊び（段ボール・楽器）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">＜微細運動＞
月曜日</td><td rowspan="3">瀬川</td><td colspan="2">腕や手の筋肉を使用する運動に取り組むことにより、関節を動かし細かい動きができるようになります。･鉛筆やはさみが使えるようになります。</td></tr>
<tr><td>指先を使う活動に楽しんで参加できました。</td><td>3本の指先を使うことができるようになってきました。</td></tr>
<tr><td>つまむ・はさむ・なぐり書き</td><td>・鉛筆（型に合わせて書く、線描き、頭足人、胴体、ひし形、首眉毛）
・洗濯ばさみ
・ハサミ（一本切り、連続切り、曲線切り）
・折り紙・シール貼り</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">＜土曜＞</td><td>永澤</td><td>支援者やお友達と創作活動（季節を取り入れた造形遊び）を楽しみます。</td></tr>
<tr><td>柴田</td><td>創作活動を楽しむ</td></tr>
<tr><td>瀬川</td><td>・折り紙・季節を取り入れた造形・塗る・書く・貼る・切る等</td></tr>
</table>

2023 年度　事業報告書

特定非営利活動法人　ザ・ホープフル

全体事業内容

放課後等デイサービス　のんたん

〇総括

放課後等デイサービスでは、子どもたち個々の特性を理解し、「自分で全体スケジュールを見て行動できる」「集団活動のルールが守れて活動に積極的に参加でき、一つでも出来ることが増える」「社会生活を送るために必要なスキルを知る＋スキルの使い方を学ぶ」「人との関係を作り円滑な社会生活を送れるようになる」ということを目標に、共有した支援の在り方を考えた。子どもたち個々の特性を把握するために、事例検討会を研修で行い支援者同士の意見の場を設け、共通した支援ができるように取り組んだ。設定活動では、無理強いせず活動の参加の有無を自己選択自己決定してもらい、自分で考える力を身につけていくことを繰り返し行った。

　対人関係の部分では、自分の思い（考えていること・感じていること）を要求も含めて、他者に伝える力も身につける取り組みを繰り返し行い、定着してきている子もでてきている。

年に 2 回、保護者の方とモニタリングを行い、個々のニーズに合った療育をおこなった。

〇主要な結果

子どもたち個々の特性に合わせた支援の方法を支援者同士で観察・分析し、話し合い・共有することで統一した支援ができ、子どもたちのしんどさも改善され、落ち着いて過ごせていた。子どもたちの興味あるものを一つ取り入れることにより、積極的に設定活動に参加できていた。クッキングに関しては、コロナ感染症対策の為、前年度に引き続き見合わせた。

高学年は全体的に自分で自主的にできる子も多くなってきているが、気が付くような声かけや見守り・視覚支援ツールが必要。その子に応じた言葉がけや視覚支援ツールを活用することで、子どもの言動が落ち着く。思春期に入る時期もあり、関わり方が難しくなるので、支援者のスキルアップが今後の課題となる。

〇学び・反省

支援者の「やってほしい」という思いが強いこともあり、子どもが拒否することが見られる。なぜ「やりたくない」のか、「なぜ」という部分を支援者自身が子どもの立場に立って考える（想像）ことができず、押しつけになってしまっていることが反省。

支援者のスキルアップになるような研修や、支援者自身が「学ぼう」という姿勢をもつ必要がある。

〇次年度への課題

　子どもの「今」しか見るのではなく、放課後等デイサービスを卒業した「先の未来」まで支援者は想像して、どんなスキルを身につけておくといいか、その子に応じた課題を設定していく。

児童発達支援から放課後等デイサービスへ・低学年から高学年へ・高学年から中・高校生へぶつ切れになってしまわ

ない円滑な流れの支援となる取り組みが課題である。

対象：低学年（小学１年生～3 年生）

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	担当
日常生活 5 領域 【健康・生活】	来所時の手洗い・挨拶を昨年度に引き続き、自発的に出来るように取り組み強化した。支援者も意識が向くように、利用児の手洗い・挨拶の評価チェックシートを活用し、支援者から元気よく挨拶をするように心がけた。 また、準備のあと個々のスケジュールを見るように支援者が声をかけ、支援者と一緒にスケジュールを確認した。後半、個々の意思を尊重したスケジュールの組み換えを実施した。 〈挨拶〉支援者から元気よく挨拶をし、「返事を返すことが出来るようになる」ことを目標に取り組んだ結果、元気よく挨拶を返してくれる子どもが増えたが、3 年生になるほど、自発的に挨拶をする子どもは少なくなっていた。 〈手洗い〉コロナ感染症対策の影響から、自発的に手洗いをする子どもが多かった。自分のハンカチを持ってきている子どもが少なく、ペーパーで拭いている子どもが目立っていた。冬の季節には、水が冷たい為、給湯機を使用し、洗い易い環境にすると、嫌がる子どもはいなかった。 お弁当・おやつの前には手洗い・消毒・黙色を絵カードを使用し徹底をした。並んで順番をまち、実行するといった流れが定着し、マナーやコロナ対策にもつながっている。 ➡次年度は、引き続き「挨拶・手洗い・個々のスケジュールの確認」を重点としていきたい。また、個々の健康・体調の変化に気付けるよう観察を行っていきたい。 〈挨拶〉支援者が元気良く挨拶をし見本をみせ、挨拶しやすい環境設定をしていきたい。 〈手洗い〉手を洗う必要性がわかりように、目に見てわかるもの（イラスト・動画など）を取り入れていきたい。ハンカチの持っていない利用児には、ペーパーを活用していきたい。 〈身だしなみ〉鏡を使い、服・髪などの乱れに気付けるようにして促し、整え方を支援していきたい。 〈スケジュール〉写真・イラストを使い、個々に合わせて内容などを伝え、時間に応じた行動の切り替えにつなげていきたい。	常時	のんたん 2F	全員
創作活動	季節の移り変わりを感じながら手先の器用さを養い、お友達と一緒に作る体験をした。個々の特性に合わせた道具を準備（バネはさみ・極細筆など）した。作品の実物や写真付きの工程表を提示し、イメージがつきやすいように工夫をした。興味ある素材を取り入れたことで、積極的に参加し、個々の感性・想像力を養うことができた。 また、季節に合った大きな壁面をみんなで仕上げることで、達成感	金曜日	のんたん 2F	豊永

5領域 【運動・感覚】 【認知・行動】 【言語･コミュニケーション】	が視覚を通して実感できた。 ➡次年度は、興味ある素材を取り入れながら、基本的な手法（切る・ちぎる・丸める・握る・折る・紐を通すなど）が身につくような内容にしていきたい。作品を通して個々の感性や想像力を引き出し、壁面を仕上げる「できた」という達成感につなげていきたい。季節・四季を感じる内容をと入りいれていきたい。また、高学年と連携をとりながら、階段の壁面を仕上げていきます。			
運動活動 5領域 【運動・感覚】 【認知・行動】	身体を動かす楽しさを感じるために、ドッヂボール・鬼ごっこ・縄跳び・跳び箱などを取り入れた。毎週同じ内容にならないように、集団でのドッヂボール・鬼ごっこ、個別での跳び箱・縄跳びなどを隔週で行ったため、自発的に「やりたい」という利用児が多かった。利用児に、事前に、やりたい運動を聞き取り入れたことにより、ルールを守ること・座って話を聞くことにもつながった。興味のない活動には、参加したくないという利用児が多いため、内容に工夫が必要だった。 ➡次年度は、学校でするもの（縄跳び・ボール遊び・跳び箱・鉄棒など）をメインに、簡単な内容から取り入れ「できた」という達成感･自己肯定感を高めていきたい。身体の使い方（ボールの投げ方・ジャンプ・など）基本的な動作から取り入れていきたい。	火曜日	のんたん 4F	濵田 田村
大型遊具 5領域 【運動・感覚】 【認知・行動】	前日に巧技台を配置し、写真をとり当日提示した。そのため、活動の内容が視覚でわかり見通しを持って切り替えができた。毎週同じ巧技台を配置することで、できなかったことが、できるようになっていた利用児がいた半面、飽きる・物足りないという利用児も出てきた。ダウン症の利用児がいたため、トランポリン・マットを活用していなかった。大型遊具のあとに時間をとり、子どもたちの好きなドッチボールや鬼ごっこを行った。そのため、「やりたい」という意欲・「できた」という達成感にもつながった。巧技台の種類が限られているため工夫が必要である。順番を座って待つ持続性にもつながった。 ➡次年度は、火曜日の運動活動と活動項目を一本化し、曜日ごとに内容に変化をつけていきたい。水曜日の運動は、バランス感覚・集中力・注意力を養えるように、巧技台などをつかった内容にしていきたい。ルール（順番・押さない等）を守る大切さも身につけれるようにしていきたい。	水曜日	のんたん 4F	田村 住友
集団あそび 5領域	利用児の興味をもっていそうなキャラクターや物を準備し、少しでも参加できるように環境設定をした。集団行動が苦手な利用児には、役割（タイマー係・音楽係・点数係・審判などの個々に合ったもの）を与えると、積極的に集団活動に参加することができ、「できた」という自信・達成感・協調性につながった。不安な利用児には、見学だけでも大丈夫な事を伝え、不安が軽減できるようにした。また、支援者がわざとダメな行動をして見本を見せ、どうしてダメなのかを、利用児に聞き考える時間を取り入れた。 ➡次年度は、まずは活動に参加し、話を聞くことから始め、「楽し	月曜日 木曜日	のんたん 2F・4F	寺尾

【認知・行動】 【言語･コミュニケーション】 【人間関係・社会性】	そう・やってみたい」と思える活動内容に工夫していきたい。 簡単なルールから取り入れ、お友達とコミュニケーションを養っていきたい。参加したくない利用児には、何がしたいのかを聞き、可能であれば役割を与え自信をつけていきたい。			
造形活動 5 領域 【運動・感覚】 【認知・行動】 【言語･コミュニケーション】	土曜日の実施のため、時間にゆとりを持って、子どもたちが満足できるまで取り組むことができた。子どもたちが興味をもつような季節に応じた色々な素材・教材を用いた。色々な素材に触れる事・作品を持って帰れる「うれしさ・満足・楽しさ」を経験できた。装飾などは、支援者が見守り、利用児の創造力･発想力を重視したため、個々の創造力が豊かになった。グループ分けをし、気の合う利用児を集めたため、会話を楽しむこともできた。 ➡次年度は、平日の創作活動中で実施していきたい。長期休暇期間に、持ち帰りの出来る作品の造形プログラムを取り入れたい。	第 2 土曜日	のんたん 2F	田口
戸外遊び 5 領域 【認知・行動】 【人間関係・社会性】	プロジェクターを使い、横断歩道･信号の渡り方の動画を見てから、近隣の散歩・公園・スーパーへ行った。支援者が話をするよりか、分かりやすく真剣に見ている利用児が多かった。道路の端を歩かない利用児には、その都度、個別に声をかけ、危険なことに気付くように行った。また、個々のおこづかいで、欲しいものを選ぶ・レジで精算という経験を積み重ねた。店内でのマナー・自動精算機の使い方など何度も経験することで、自信を持って買い物出来る利用児が増えた。電車を利用し、切符の買い方・電車でのマナーも実践したが、カードが普及しているせいか、切符の買い方がわからない・初めてという利用児が多かった。 ➡次年度は、歩く時のルール･店内でのマナー･電車内でのマナー･切符の買い方を取り入れていきたい。経験を積み重ね、マナーなどみ身につけていきたい。長期休暇期間を通して、経験を積み重ねていきたい。	第 1 土曜日		田村 住友
クッキング 5 領域 【健康・生活】 【認知・行動】	コロナ感染症も落ち着いたため、対策をしながら、今年度は実施した。手洗い・消毒・マスクの着用を徹底した。 子どもたちが好む簡単な、家でも作れるような内容を取り入れた。切る･混ぜる･ホットプレートの扱い方などの簡単な作業の経験を積み重ねた。その為、後半は包丁の扱い方が上手になっていた。少人数のグループ分けをし、全員が全ての工程をできるように順番･交代に配慮したので、満足感・達成感につながった。 ➡次年度は、月に 2 回クッキングを実施予定している。引き続き、簡単な工程から取り入れていき、基本的な作業を身につけていきたい。少人数のグループ分けをし、全員が一通りの工程をできるように配慮していきたい。	第 3 土曜日	のんたん 2F	田口

対象 ： 全 体

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	担当
絵本広場	昨年度に引き続き、コロナ感染症対策（アルコール消毒の活用・換気）に十分気を付けながら実施した。 絵本広場では、個々に気に入った本を手に取り、楽しむことができた。様々な種類の本に触れることができた。	絵本 7/31	のんたん 4F	加藤先生
学習支援	(低学年) (高学年) 学習に意欲を持つ子、新しい環境になり学習に対して拒否を示す子など様々だったが、その子に応じた指導を行った。	通年 1 回/週	のんたん 3F	ポケットスタッフ
言語療法	(低学年) (高学年)	通年 土曜	のんたん 3F	住村先生 松江先生
長期休暇プログラム	夏休み：子どもたちが普段できない活動を取り入れた。内容によっては募集人数が多かったため、別日を設け、希望者全員が参加できるように配慮した。 (低学年)　缶バッチ作り・うちわ作り・駄菓子屋さんごっこ・お弁当買い物・山城町森林公園・流しそうめん（野外活動センター）・西部プール・九条プール・クッキング（ピザ・おにぎり・パフェ）・のんたんカラオケ＆映画鑑賞 (高学年)	7/20 ～ 8/26		担当スタッフ
	冬休み：クリスマス会は、はっぴースマイルデーに開催した。 年明けには、御嶽山大和本宮へ行き、お詣り・おみくじ・散策をし、初詣の経験ができた。	1/6		担当スタッフ
	春休み：子どもたちが普段できない活動を取り入れた。内容によっては募集人数が多かったため、別日を設け、希望者全員が参加できるように配慮した。 （低学年）貯金箱作り・ビンゴ大会・のどか村・いちご狩り・福祉センター体育館・お弁当買い物・クッキング（焼きそば・パフェ） （高学年）	3/22 ～ 4/6		担当スタッフ
イベント	今年度もコロナ感染症の影響で、外部の方の出入りはせず、飲食は感染症対策をした上で提供し、事業所のみで 2 日間にわけ、はっぴースマイルデーを実施した。4 階ステージ・1 階ワークショップ・2 階ゲームコーナーにし、スタンプラリー・景品をもらい楽しむ姿	12/23 12/24	のんたん	担当スタッフ

	が見られた。帰りには、抽選会も行った。			
職員研修	内部研修・外部研修	随時	のんたん 外部	放デイスタッフ
家族支援	個別支援計画書の見直し・モニタリング （2 回/年） 必要に応じて、都度対応	随時	のんたん	放デイスタッフ 保護者
関係機関の 連携	相談支援センター・こども園・幼稚園・保育園・学校 奈良市健康増進課との連携・担当者会議への参加	随時	関係機関	大東 玉置 放デイスタッフ

＜利用者状況＞

小学１年から３年

利用月	利用人数	利用月	利用人数
令和５年４月	265 人	10 月	287 人
5 月	289 人	11 月	301 人
6 月	284 人	12 月	298 人
7 月	311 人	令和６年　1 月	281 人
8 月	304 人	2 月	294 人
9 月	285 人	3 月	290 人

利用月	利用日数	一日平均	利用月	利用日数	一日平均
令和５年４月	22	12.05	10 月	24	11.96
5 月	23	12.57	11 月	23	13.09
6 月	24	11.83	12 月	24	12.42
7 月	24	12.96	令和６年１月	22	12.77
8 月	23	13.22	2 月	22	13.36
9 月	24	11.88	3 月	24	12.08

年間平均人数一日 12.51 人

＜利用者状況＞

小学４年から６年

利用月	利用人数	利用月	利用人数
令和５年４月	195 人	10 月	192 人
5 月	215 人	11 月	198 人
6 月	210 人	12 月	202 人
7 月	243 人	令和６年　1 月	181 人
8 月	223 人	2 月	177 人
9 月	198 人	3 月	187 人

利用月	利用日数	一日平均	利用月	利用日数	一日平均
令和５年４月	22	8.86 人	10 月	24	8.00 人
5 月	23	9.35 人	11 月	23	8.61 人
6 月	24	8.75 人	12 月	24	8.42 人
7 月	24	10.13 人	令和５年１月	22	8.23 人
8 月	23	9.70 人	2 月	22	8.05 人
9 月	24	8.25 人	3 月	24	7.79 人

年間平均人数一日 8.67 人

＜利用者状況＞

中学・高校生

利用月	利用人数	利用月	利用人数
令和５年４月	121 人	10 月	118 人
5 月	111 人	11 月	115 人
6 月	124 人	12 月	128 人
7 月	116 人	令和６年　1 月	112 人
8 月	116 人	2 月	116 人
9 月	126 人	3 月	126 人

利用月	利用日数	一日平均	利用月	利用日数	一日平均
令和５年４月	19	6.37 人	10 月	20	5.9 人
5 月	18	6.17 人	11 月	20	5.75 人
6 月	20	6.2 人	12 月	21	6.1 人
7 月	20	5.8 人	令和５年１月	19	5.89 人
8 月	19	6.11 人	2 月	18	6.44 人
9 月	20	6.3 人	3 月	20	6.3 人

年間平均人数一日 6.78 人

令和５(2023)年度　　放課後等デイサービス 小学１～3年生　活動報告

活 動	ね ら い			
期 間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
<創 作>　豊永 月曜日	・想像力や豊かな感性、集中力や動作（はさみで切る、ちぎる、握る、紙を折る、紐を通す）が身につく。 ・作品を通して、季節の移り変わりがわかる。　・みんなとともに作ることでコミュニケーション能力を養う。			
	・線の上をはさみで切る ・のりの扱い方を知る　　・絵の具、筆の使い方を知る		・好きな形を自由に描いて、はさみで切る ・紐を通す、巻く　　・絵の具、筆の使い方を知る	
（活動内容）	４月 こいのぼり ５月 新緑と虫、鳥 ６月 雨・レインコートの子・虹	７月 七夕飾り アイスクリーム ８月 夏休みプログラム ９月 ススキ・とんぼ・団子	１０月 ハロウィン（おばけ・かぼちゃ・ペロペロキャンディー） １１月 はっぴースマイルデー飾り（切り絵） １２月 クリスマス（リース・サンタ・雪だるま）	１月 書道、絵馬、節分（鬼） ２月 冬の温泉 ３月 桜と春の虫

活 動	ね ら い			
期 間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
<運 動>　濵田・田村 火曜日	・運動活動の楽しさを知る。興味を持つ。 ・運動活動を通してコミュニケーション能力を高める。　・体幹・筋力を鍛える　・体の使い方を知る。			
	・簡単な運動活動 ・コミュニケーションを取る		・運動活動に触れる・知る。	
（活動内容）	４月　鬼ごっこ（通常・代わり鬼） ５月　ドッヂボール ６月　ボール鬼	７月　ドッヂボール・鬼ごっこ ８月　夏休みプログラム ９月　ドッヂボール・鬼ごっこ	１０月　ドッヂボール・鬼ごっこ １１月　跳び箱 １２月　跳び箱 ドッヂボール・鬼ごっこ	１月　縄跳び・大縄 ２月　縄跳び・大縄 ３月　縄跳び・大縄

活 動	ね ら い			
期 間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
<大型遊具>　田村 水曜日　　（住友）	・手足を使い、自分の身体を使いこなすコントロール性を養う。 ・バランス感覚やジャンプする力を養う。　・ルール（順番・押さないなど）を守る大切さを身につける。			

	・身体をまっすぐに保とうとする平衡感覚・集中力・注意力を養う		・姿勢を保ちバランス感覚を養う　　・集中力・注意力を養う	
（活動内容）	4 月 平均台（かに歩き） はしご 5 月 ２本平均台（直線歩き） すべり台・はしご 6 月 平均台（直線歩き） すべり台・はしご	7 月 はしご渡り・平均台・すべり台 8 月 はしご渡り・平均台・すべり台 9 月 はしご渡り・平均台・すべり台	10 月 平均台・はしご渡り・すべり台 鉄棒 11 月 平均台・はしご渡り・すべり台 鉄棒 12 月 平均台・はしご渡り・すべり台 輪っか・片足立ち	1 月 平均台・はしご渡り 輪っか（ケン・パー、片足立ち） 2 月 平均台・はしご渡り 輪っか（ケン・パー、片足立ち） 3 月 平均台・はしご渡り 輪っか（ケン・パー、片足立ち）
活 動	**ね ら い**			
期 間	**4月～6月**	**7月～9月**	**10月～12月**	**1月～3月**
<集団あそび>　寺尾 **木・金曜日**	・友だちと遊ぶ楽しさを経験する ・コミュニケーションを養う　　・話を聞いてルールを守る			
	・友達と一緒に楽しむ　・話を聞いてルールを知る		・友達と一緒に楽しむ　・ルールを守る　・気持ちのコントロール	
（活動内容）	4 月 新聞遊び 5 月 風船遊び 6 月 宝探しゲーム	7 月 カプラ・積み木・ボール爆弾ゲーム 8 月 カプラ・積み木・ボール爆弾ゲーム 9 月 オセロ（ひっくり返し競争）	10 月 大玉転がし・ボールよけゲーム お玉リレー 11 月　ストップゲーム はっぴースマイルデー飾り作り 12 月　ドン・ジャンケン	1 月 福笑い・かるた 2 月 宝探しゲーム 3 月　みんなで決めよう 箱の中身は何かな？
活 動	**ね ら い**			
期 間	**4月～6月**	**7月～9月**	**10月～12月**	**1月～3月**
<クッキング>　田口 **土曜日**	・作る事に興味を持ち、楽しく活動に参加をする ・調理器具の正しい使い方を知り、基本的な作業（切る・混ぜるなど）出来るようになる			
	・作る事に興味を持つ　　・作る楽しさを経験する		・調理器具・用具の扱い方を知り、慣れる	
（活動内容）	4 月 オープン・サンド 5 月 きな粉マカロニ	7 月 コロッケパン 8 月 おにぎり・ピザ	10 月 ホットケーキ 11 月 ナポリタン・スパゲッティ	1 月 フレンチトースト 2 月 バナナホットケーキ

	6 月 ポップコーン	パフェ・かき氷 9 月 みたらし団子	12 月 チョコバナナサンド	3 月 ホットドッグ・焼きそば
活 動	**ね ら い**			
期 間	**4月～6月**	**7月～9月**	**10月～12月**	**1月～3月**
<造 形> 田口 土曜日	・作る事の面白さや喜びを感じ、楽しく活動に参加する。 ・季節に応じた製作をすることで、想像力や季節感を養う。 ※エデュース			
	・お友だちと楽しく活動に参加する。		・想像力や季節感を養う。	
（活動内容）	4 月 なし 5 月 缶バッヂ 6 月 プラバン	7 月 うちわ 8 月 うちわ・缶バッヂ 9 月 アクアビーズ	10 月 ハロウィン小物入れ 11 月 はっぴースマイルデー飾り （折り紙・ガーランド） 12 月 クリスマスリース（ステンドグラス風）	1 月 絵馬 2 月 宝箱作り 3 月 えんぴつ立て

活 動	**ね ら い**			
期 間	**4月～6月**	**7月～9月**	**10月～12月**	**1月～3月**
<お出かけ> 田村 土曜日 （住友）	・交通ルールやマナーを守り、集団行動ができるようになる。			
	交通ルールを知り、守ることができる。		マナーを知り、守ることができる。	
（活動内容）	4 月 春休みプログラム 5 月 道路の歩き方 あやめ池神社 6 月 道路の歩き方 近隣の公園	7 月 横断歩道の渡り方（信号） いろどりの森公園 8 月 夏休みプログラム 9 月 買い物 ミスタードーナツ・マクドナルド	10 月 のどか村（芋ほり） 11 月 お店での正しいマナーを知る ミ・ナーラ 12 月 お店での正しいマナーを知る パラディー学園前	1 月 お詣りのマナーを知る 初もうで（御嶽山大和神社） 2 月 公共機関のマナーを知る 電車（学園前駅でお買い物） 3 月 公共機関のマナーを知る

				電車（大和西大寺駅でお買い物）

2023 年度　事業報告書

特定非営利活動法人　ザ・ホープフル

全体事業内容

放課後等デイサービス　のんたん

○総括

今年度より、４～６年生で過ごすことになり、部屋の構造、来所時の導線、個別スケジュール、目標でのトークンの導入が大きな変更点として取り入れている。目標、狙いに対する評価の基準を明確にした。
部屋のスペースも、運動、玩具、宿題、PC、クールダウン部屋と小分けにした。

○主要な結果

個別スケジュールにより、自分で今日の一日の流れを書き出すことで見通しを持つ、時間に対する意識を持つ事ができる様になった子が多い。
目標に対しても最初は選択制、後半は自分で考えてみることによって自分のできる事、苦手な事をそれぞれ気付くきっかけを作ることができ、できる様になるためにはどうするのか考えることもできた。トークンを用いることで目標に対して前向きに取り組もうとする子も多い。トークンがある為に最後の振り返りまでしっかり取り組むことができ、振り返りの中で自分でできたことを考えてみる、支援者から伝えることで今日一日頑張った事、できたことが明確になり自信に繋がっている子も増えた。
部屋を小分けにすることでここは何をするところか考えて遊んでいる子も少しいた。分かれる事で子どもが分散して遊ぶことができ、室内を幅広く使う事もにも繋がっていた。また、同じ遊びをする子が分かりやすいこともあり、同じ興味を持っている子と一緒に遊ぶ、誘うきっかけにもなり子どもの交友関係を広げる事にも繋がっていた。

○学び・反省

スケジュールに対しての書き方を子どもそれぞれに合った書き方を取り入れていたが、支援者の中でそれぞれの書き方やここまでするなどのラインの共有が完璧にできていないこともあり、対応するスタッフによって個別スケジュールの書き方がバラバラになってしまっていると感じることがあった。
目標に対しては子どもの意見を尊重するために選んだ、決めたものを取り入れていたが、ずっと同じ内容の子もいたので、もう少しこちらからの促しもあればよかったと感じる子もいた。
目標の振り返りに関しては最後の帰りの会でしかできないこともあったので深くまで振り返りができず、ざっくりとした振り返りで終わってしまう子もいた。
部屋の使い方でそれぞれのルールを取り入れているが、支援者によってルールの差が少しあり、子どもの中で戸惑いになる部分もあった。部屋の物について子どもが使っている、興味を持っているのか再度考える機会が少なく、子ども達が望んでいる環境になっていないかもと感じる場面があった。

○次年度への課題

支援者同士の情報の共有、ルールについての対応の仕方など共有が足りていない。子どもの「○○していい？したい！」ことでの対応が違うこと多いので、そこについてその都度振り返りで対応を考える。個別スケジュールに対

しても同じように対応をする。目標については子どもの目標について記録をして、同じものが続いている、達成出来ていると感じる子については達成を褒めて変更を促す声かけをする。振り返りの時間が短いので、利用の人数が多い日などは様子を見て帰りの会の少し前に先に振り返りを何人かするなどタイミングを速めることで対応する。その都度という決め方でなく、月に１度（２．３か月）など予め決めて置いて普段の子どもの様子から玩具の変更や追加を検討する。子どもの要望については可能な限り聞き入れて（なんでも聞いてもらえるかわからないことは予め伝えておく）新しい物などが入った時には使い方だけでなく、使う際の注意点ルールも明確に伝える。

対象：低学年（小学４年生～小学６年生）

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	担当
日常生活	・全体的に自分で自主的にできる子も多くなってきているが、気が付くような声かけや見守り・指示が必要な子どももいる ・思春期の恥じらいや意味を理解していなかったり忘れてしまうためにできないこともある ・思いや要求を否定するのではなく受け止め認めることでこどもとの信頼関係ができる ・興味のあるなしで取り組み方に差がある ・身の周りの事を家庭では親御さんがやっているようで、啓発が難しい（情報共有） ・棚を自分の好きな場所に入れているが、整理に対する意識が低く、散乱している、他の子の荷物と混ざるが多い。 ・手伝ってみたい気持ちを持っている子が増えて、お手伝いをする機会が多く取れた。	随時	のんたん 内・外	全員
SST		毎週木曜日	のんたん 3F	松江
テーブルゲーム	・コミュニケーションが取りにくい子もいるが、同じチームの子を応援するなどができるようになってきた ・ルールが難しく、わかりにくいこともあったが、回数を重ねていくと理解し楽しむことが出来るようになってきた ・子どもの能力を把握できていない ・時間や場所を考慮したが、子どもが納得できずに、不満を持って参加する時があった。 ・個々の理解度やできることに差がありグループを分けることで個々の目標を設定できた	毎週水曜	のんたん 3F	濵田

	・興味を持ってくれる子が多く、活動でない子も自発的に参加することが多かった			
運　動	・興味を持って参加してくれていた ・スパンが長いとできる子は飽きてしまう ・昨年に比べて全体的に運動能力が低い子が多く活動の内容のレベルが高く感じることが多い。 ・個々の能力が把握できていないこともあった（参加が不規則な子） ・挑戦しようと前向きに取り組める子がいた。 ・同じ活動をするにあたって、アレンジができていない（同じ流れを好む子もいるが飽きるのが早い子もいる） ・個々のやり方を設定、相談して決めることでそれぞれに合った目標設定、達成感を感じ取れる	毎週火金曜日 第２土曜日	のんたん 4F	濵田
創作活動	・内容を見て、分かりやすい物や手順だと興味を持つ為、子供によって興味のある物・工程を提供する。 ・活動時間が長いと集中力が切れる子がいる為、簡潔な内容にする。（工程を細かく分ける） ・様々な技法と道具を使うことで取り組んでいる子＋周りの子の興味を引いて取り組む子が増える。 ・説明する時に道具を先渡ししてしまうと道具に興味がいき話が入らない為、説明後に渡す。 ・人数とメンバーによって活動の場所を考慮する。	毎週月曜日	のんたん 3F	松本
外出活動	・比較的下校時間が早い水曜に実施したが、地域の小学校の子たちの下校時間が遅く、遠くに出かけられない/時間配分が難しい ・コロナの影響で公共交通機関が使えず、車か徒歩での移動となり、行く場所が限られた ・同じ場所の方がやり易い、イメージしやすいことで気にいている子が多い。（新しい場所で喜ぶ、興味を持つ子少ない） ・一人一人の買い物スキルレベルに合わせた支援が難しい（個別対応ができない） ・おつかい（家の物）を買う事に対する抵抗はなく喜んでいる子が多く、メモの使い方、商品の探し方を経験しやすかった	第１土曜日	屋外	濵田
クッキング	・事前準備ができていないことがあった ・材料の種類が多く、別の味や調理法を楽しんでいる子もいたが、時間が足りない事あった ・工程表がなく、伝わり切らないこともあった。 ・量自体で季節な事が多く、「足りない」と不満になる子はいなかった。 ・	第３土曜日 第５土曜日	鎌垣 （濵田）	

令和５年度（2023 年度）　放課後等デイサービス　小学 4～6 年生　　活動　年間事業報告

活　動	ね　ら　い			
期　間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
＜創　作＞ 松本 月曜日	表現力（自分らしさ）、集中力（椅子に座る、話を聞く）、手先の器用さ（切る、折る）が身につく。 作品を通して、季節の移り変わりがわかる。 みんな（1 年生～6年生）と協力して作ることで、好きな事、できる事を見つけていく。			
	はさみで切る 絵の具、筆の使い方を知る 折り紙を折る		好きな形を自由に描いて、はさみで切る 絵の具、筆の使い方を知る 折り紙を折る	
（活動内容）	4 月 こいのぼり 5 月 新緑と虫、鳥 6 月 紫陽花リース、カタツムリ、傘	7 月 七夕飾り、短冊（染める） 夏祭り（花火、ヨーヨー） 8 月 お月見、うさぎ 9 月 紅葉とミノムシ、きのこ	10 月 ハロウィン 11 月 落ち葉など自然素材を使ったアート 12 月 クリスマス お正月	1 月 雪 節分 2 月 バレンタイン ひな祭り 3 月 桜と春の虫 イースターエッグ

活　動	ね　ら　い			
期　間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
＜運　動＞ 濵田・（松本） 火・金曜日	運動活動に触れて、運動活動に興味を持つ。 筋力・体幹を鍛えつつ、体の使い方も学んでいく。 集団での運動活動を取り入れることで社会性・コミュニケーション能力を身につける。 成功体験をするために自分で目標を立てる。また、成功体験をすることで、自己肯定感を高め自信を持つ。			

	集団活動の楽しさを知る。 ルールを知り、守る力を付ける。	伝承遊びを知る。 体幹を鍛える。 成功体験をする。	成功体験をする。 両足跳びをしてみる。 跳び箱に触れてみる。 相談して内容を決める。 好きな物を選択して決める。 目標を決めて取り組む。 外遊びの楽しさを知る。	季節に合った遊びを知る、経験する 公共の場でのルールを知る。 縄跳びに触れる。 目標を決めて取り組む。 鉄棒に触れる。 やり方を知り、挑戦してみる。
（活動内容）	4 月 5 月 6 月 ドッヂボール （通常・アメリカ・王様等） 鬼ごっこ （氷鬼・色鬼・代わり鬼等）	7 月 竹馬　（ドッチボール） 8 月 夏休みプログラム 9 月 竹馬		

活　動	ね　ら　い			
期　間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
＜SST（個別）＞ 松江 木曜	コミュニケーションの基礎ができ、自身の有効なスキルを身につける。 社会生活を送るのに必要なスキルを知る。 自身の感情がわかり、対処法や伝え方を知る。			
	自己認知	対人基礎	自己認知・自己抑制	
（活動内容）	4 月 あいさつ （1.3 週）ワークシート＋ロールプレイ、（2.4 週）挨拶じゃんけん へんなのどっち 5 月　自己紹介 （1.3 週）ワークシート＋ロールプ	7 月　顔の表情 （1.3 週）ワークシート＋ロールプレイ、（2.4 週）いまどんなきもち？当てゲーム、変顔マッチ等 8 月　振り返り （1.3 週）ワークシート＋ロールプレ	10 月　気持ちを考える（自分） （1.3 週）ワークシート＋ロールプレイ、（2.4 週）五色のソーシャルかるた 11 月　気持ちを考える（相手） （1.3 週）ワークシート＋ロールプレイ、（2.4 週）いまどんなきもち？他	1 月　言葉、表現 （1.3 週）ワークシート＋ロールプレイ、（2.4 週）友達、目下に対して 2 月我慢の仕方 （1.3 週）ワークシート＋ロールプレイ、（2.4 週）かるた、ドッチボール

	レイ、(2.4 週)名前リレー、私は誰でしょう 6 月 自己認知 (1.3週)ワークシート＋ロールプレイ、(2.4 週)すきなのどっち、トーキングゲーム、自己紹介スタンプラリー	イ、(2.4 週)4－7月のゲームから選択 9 月　体調管理 (1.3 週)ワークシート＋ロールプレイ、(2.4 週)人にやさしくなるゲーム等	12 月　言葉、表現 (1.3 週)ワークシート＋ロールプレイ、(2.4 週)先生、目上に対して 注文の多すぎるバーガー他	3 月我慢の仕方 (1.3 週)ワークシート＋ロールプレイ、(2.4 週)勝敗のあるゲーム

活　動	ね　ら　い			
期　間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
＜おでかけ＞ 濵田・(松本) 第 1 土曜日	外出時のルールやマナーを知り、外出の経験を積んでいく お金の使い方、買い物の仕方を知り、一人で買えるようになる			
	公共の場でのマナーやルールを知り、守る 買い物の仕方を知る 好きな物を選んで購入する。		公共交通機関を使って色んな経験を積む 頼まれたものを探して購入 メモの使い方を知り、買い物をする。 季節に合った活動をしり、経験する。 お参りの仕方を学ぶ。	

活　動	ね　ら　い			
期　間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
＜クッキング＞ 田口 第 3 土曜日	・作る事に興味を持ち、楽しく活動に参加をする ・調理器具の正しい使い方を知り、基本的な作業(切る・混ぜるなど)出来るようになる			

	作る事に興味を持つ　　作る楽しさを経験する		調理器具・用具の扱い方を知り、慣れる	
（活動内容）	4 月 オープン・サンド 5 月 ポップコーン 6 月 コロッケぱん（昼食）	7 月 わらび餅 8 月 焼きそば・ホットドッグ（昼食） かき氷 9 月 きなこ団子	10 月 ホットケーキ 11 月 スパゲッティ（昼食） 12 月 カステラフルーツサンド	1 月 バナナホットケーキ 2 月 フレンチトースト 3 月 一口お好み焼き

活　動	ね　ら　い			
期　間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
＜テーブルゲーム＞ 濵田 水曜	・テーブルゲームを通して小集団での活動に参加する。 ・社会で必要なスキル・知識を身に付ける。 ・興味の幅を広げる。			
	ルールを知る・守る	ルールを知る・守る 集中力を高める	ルールを知る・守る　　順番を守る　　感情のコントロール	
（活動内容）	4 月・5 月・6 月 ジェンガ オセロ ウォーリーを探せ	7 月　8 月　9 月 すごろく カルタ	10 月　11 月　12 月 UNO 将棋 トランプ	1 月　2 月 3 月 人生ゲーム トランプ ウボンゴ

2023 年度　事業報告書

特定非営利活動法人　ザ・ホープフル

全体事業内容

放課後等デイサービス　のんたん　分室（中学・高校生）

○総括

放課後等デイサービスでは、子どもたちの個々の特性を理解し、「自分のことは自分でできるようになる」「自己肯定感を持ち、高めることができる」「場面にあった適切な行動ができる」「社会のルールを知って守ることができる」ということを全体目標とし、小学生低学年、中学年、中学高校生と三つに分け各階ごとに繋がっていく目標を設定し支援した。分室での目標は、社会に出ていく為の前段階の時期でもあり、「自己選択・自己決定・自己責任」「自己有能感を感じられる」「自分で感情のコントロールと適切な行動ができる」「一般的な社会のルールが分かって守れる」とし、共有した支援の在り方を考えた。事例検討会の研修を行う中で、個々の特性を把握し、問題を解決する為に支援者同士の意見の場を設け、共通した支援ができるように取り組みをした。

　自己有能感（自分で自分に私はできる、すごいと思うこと）を感じてもらえるよう、ハードルは下げるが楽しめる活動内容を行い、成功体験を増やしていった。余暇を大事にし、思春期で何かとストレスが溜まる成長段階でもあるため「休息も大事」な事を伝えていった。運動や創作、読書や何もしない時間、会話などを通して、個々のリフレッシュ方法を見つけていけるように楽しめる内容を考えた。

　年に 2 回、保護者の方とモニタリングを行い、個々のニーズに合った療育をおこなった。

○主要な結果

新しい環境（場所・支援者）のスタートだった為、夏休み頃までは、信頼関係作りの強化に重きを置いた。また支援者同士で利用者さんの観察や情報を共有し、支援の方向を確認するよう努めた。

事例検討会の研修等を通して、対策と振り返りを支援者同士共有し、支援の大切さと信頼関係の強化に努めた結果、自分の気持ち言葉にするのが難しい利用者さんが少しずつ対支援者には心を開いて話しや気持ちを伝えてくれる場面が増えた。また、利用者さん同士や支援者を含めての談話をする場面も増えた。クッキング時には、お友だち同士協力しあい「ボウルを支える・材料等を渡す」などが見られるようになり、その都度気持ち良い行動

である事を伝え続けた。
また、子ども同士で「電車中は静かにね」などの柔らかい注意喚起の言葉も出る場面も見られるようになった。
思春期に入り、親子会話が減る時期もあるので、事業所で「話す」「過ごす」ことで家とは違う居場所の一つとして、安心して楽しく余暇を過ごせる環境づくりが必要である事も強く感じた。また、活動や余暇を通して社会性や会話、日常生活のスキルも増えるように努めた。

○次年度への課題

自己選択・自己決定・自己責任に重きを置き、今後も本人の意思の尊重を優先し、自己決定した自分を肯定する心が育つような言葉がけや環境作りを支援者同士の共通項とし、
その子その子の自己有能感を育てたうえで社会性のスキルアップの方法を伝え、自己選択の幅が広がるよう努めていきたい。
一人一人の興味の幅が広げられるよう様々なツールや遊びを提案しながら、余暇の楽しみ方も自分で選択して決定していける環境作りの必要性がある。
余暇の過ごし方については集団で楽しむ事だけでなく、一人で過ごす時間も大事であることも伝え、一人でいる事に罪悪を感じることなく自分を肯定的に受け止めていけるよう伝えていきたい。
放課後デイサービスを卒業した後のその子その子に必要な課題を小刻みに設定し、支援者同士で話し合い共有しながら支援に活かしていく。

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	担当
運動活動	友だちと一緒に活動することで社会性・コミュニケーション能力を身に付ける・体を動かす楽しさを知り、成功体験を増やしていくことを目標に、月毎に種目を変えながら利用者が興味を持ち参加できるよう配慮して行った。 縄跳びやボッチャなど慣れた運動は参加者が多い傾向にありスムーズな活動参加が行えたが、活動の時間が学習支援と重なることや通所時間が遅いことから活動に参加できない利用者もいた。 →次年度は活動の日を固定化させないことで今年度、活動に参加できなかった利用者も参加できるように配慮して目標に近づけるよう取り組んでいく。	木曜日	のんたん４F	倉田
おでかけ	前半は近隣のお店（スーパー等）へ翌日の朝食やおやつを買いに行った。（自分で選んで決める） 後半は車、電車を使いお小遣いを使いすぎないよう買い物をする事や、図書館で本を借りにいく、足湯に行くお店でご飯を食べるなど生活に密着した内容のおでかけを行った。 平日のお出かけは帰宅時間が遅い事から、いく事ができる場所が限定される、通所時に学校や日々の疲れで参加しない利用者もいた。 土曜日のお出かけは利用者が固定されているが、内容によっては大幅に利用者が増加することもあった。 →次年度は、お金について学び、お金の大事さ、使い道（誰のために使うか)、未来のために貯めるなど、絵本等を使用し、実際に経験を積みながら身に着けていけるようにする	第２・４水曜日 第２土曜	近隣スーパー、パン屋、福祉センター、足湯、図書館等	中嶋 倉田
日常	・挨拶・手洗いは、昨年度に引き続き、自発的に出来るように取り組みを行った。また４か月に一度、チェックシートを活用し、利用児の評価を行った。 スケジュールに関しては、来所してすぐホワイトボードを見る子が多く、スケジュールへの意識は高くなってきている。また、個別に視覚ツールを使用し、時計や活動等の時間へ	毎日	のんたん分室	中嶋 倉田 山岸

	の意識も向くようになってきている。 ＜挨拶＞ほとんどの利用児がドアを開けた時に挨拶ができるようになってきた。行わない利用者もおり、自発的な挨拶が行えるよう支援者が呼びかける場面があった。発語が難しい子どもについては、ハイタッチなど挨拶に代わるコミュニケーションをとっていった。 ＜手洗い＞ルーティン化されほとんどの利用児は行えているが、特性上、手洗いを嫌がる利用者にはアルコール消毒や支援者が付き添いカウントをして行う事に定着してきた。ハンカチに関しては、持ってきている子が増えた。持参しない子は決まっていた。 トイレ内に石鹸を置く場所がないことから、トイレを使用したら再度手洗いをしているが、忘れて遊びに戻る子がいた。(声をかけることで洗えている) →次年度は、引き続き、支援者が見本となり元気に挨拶をするモデリングを継続し、「手洗いと挨拶」は１００％できるようにしていきたい。 ＜日常＞ ・昨年同様、全体的に自主的に出来る子が多くなってきているが、まだ気づくような声かけや見守り、視覚的な掲示物が必要な子もいる。また、お友達同士で声の掛け合い「〇〇さん片付けの時間だよ」など他者を見る目を持つ子もいた。 ・自己選択自己決定が少しずつできる子が増えてきた（疲れているときは、活動をせず休息してもいいことが分かるようになってきた） ・自分の意見を伝えにくい、コミュニケーションを取る勇気が出ない子どもが、意見を尊重し掘り下げながらコミュニケーションを重ねることで信頼関係へつながり、心を開放しつつある。子どもたちが輪になっておしゃべりをする場面もみられるようになってきた。 ・余暇の一人時間をどう過ごしていいかわからない子どもが多い。 ・パーソナルスペースを作ることで、一人で何かに取り組みたいや、ゆっくり休みたい時に使用できるように環境を整えた。 ・身だしなみを整える（トイレ後）のに、支援者の声掛けが必要な利用者がいる。 ・来所持から帰るまでの間で、言葉使い（SST)、生活スキル（LST）を、個々にその都度支援していった。 →次年度は、引き続き利用児一人ひとりの気持ちを受け止め、信頼関係を築いていく。			

	余暇の過ごし方（暇を持て余すのではなく、一人時間も楽しめるように）自分の好きなことややりたい事に出会える環境作りを提供していく。又みんなで何かに取り組む企画を作り、人との関わり方や楽しみ方も経験できるようにしていく。 その子の中に元々持っているものを認めて伸ばしていく。			
創作 （陶芸）	・普段触れることが少ない粘土を利用して、自分なりの形づくりができるようお皿や器づくりを行った。 　慣れていないこともあるが、試行錯誤をしながら創作に取り組む姿が見受けられた。 →次年度も継続して活動に組み込み経験を重ねることで自分が考える形を作れることを目標に行う予定	第５水曜	のんたん分室	倉田
創作 その他	・歯ブラシやスポンジ、ビー玉などを使用し、形にとらわれない、アート作りを行い自己表現（オリジナルな作品が出来上がった。歯ブラシアートのひまわりは作品展にも出展し、いろんな人にも見てもらう事ができ自己肯定感アップにもつながった。長期休みを通して、普段作らない物（ハーバリウムやクリップ）や、講師の先生のもと、サンドアートを作った。材料選びについては、多く →次年度は、エンジョイプログラムの一つとして、色んな作品を作る中で、コミュニケーション能力や自己表現力を養っていけるような内容にしていく。	第５水曜	のんたん分室	中嶋
エンジョイプログラム	・遊びを通しながら、季節に応じた作品つくり（シャボン玉アートやはっぴぃスマイルデーの飾りつくり）やイベント（ハロウィンパーティ）をおこなった。子ども達の意見も実現させ、ハロウィンイベントでは、ハンバーガーを作って食べ、仮装やメイクをし、ゲーム等をみんなで楽しんだ。 ・卒業生へのプレゼント作りやメッセージカードなどの作成をした。利用児から、企画の提案もあったりもし、対象者の方に喜ばれた。 →次年度は、エンジョイプログラムの曜日の固定化をせず、ランダムにすることで、曜日固定で利用している子が色んな経験や体験ができるようにしていく。利用児からの提案や	金曜日（月２回）	のんたん分室	中嶋 倉田 山岸
ライフスキルトレーニング （LST）	身辺自立に向けた内容（身だしなみ、マナーや社会、自分と他者について）を中心に行った。 利用児の困っている事をピックアップし、個別に対応して取り入れた（ゴミの分別、掃除	金曜日（月２回）	のんたん分室	中嶋

	機の使い方、大掃除、規則正しい生活とは、病院で自分症状の伝え方など） ・季節の変わり目では、季節に応じた服装の選び方を学んだ。 ・朝天気予報を見て、雨が降りそう、寒い場合は何がいるか？等を学んだ。 ・日常生活の中で繰り返しトレーニングすることで、身についていく事が分かった。 →次年度は、引き続き、身辺自立や社会に向けた活動を中心に行い、少しでも一人でできること（その子にあった内容で行う）を増やし、社会に出た時に少しでも困らないような内容を取り組んでいく。（身だしなみ、健康管理、住まい、金銭感覚、進路選択、対人関係、余暇等）			
ソーシャルスキルトレーニング（SST）	・日常過ごしている中で、その都度、「こんな時どうする」を問いかけ、考えてもらい、教えていった。 ・支援者がやってみせ（モデリング）、言って聞かせて、させてみて、褒めていき、それを繰り返していく事を定着させていった。 ・ワークシートを使用し、目上の人との正しい話し方を再確認する、自分について知っていく（自己理解）について学んでいった。（長所と短所を知る）１ｄｘ →次年度は引き続き、日常の中でその都度問いかけ、自分で考えて身に着けていく。また、専門の方に担当をしてもらい、強化していく。	月曜日	のんたん分室	中嶋
クッキング	・平日の午後という事もあり、お菓子をメインにしていたが、子ども達のリクエストに応じてメニューを決める事が多くなっていった。自分たちが作って食べてみたいメニューを組み込むことで、取り組み方への向上につながった。 ・こちら側が「できるだろう」と思っていた事（例えば生クリームを絞る等）が全くできない子が多くいることが分かった。「卵を割る」も経験した事がない子が多い。生活力につながる一つ一つのことの経験値が向上できるよう、些細な事と支援者側が決める事、思い込む事なく着実な力になる様、経験を積んで自信につなげていきたい。 ・失敗することを心配してしまう子もいた。失敗してもやり直せばいいことを伝えながら、失敗からできたにつながる経験、言葉かけを今後もしていきたい。 ・調理器具の使い方は回数を重ねるごとに向上してきた。 ・支援者が見本を見せて伝える事も継続するが、見守りのスタンスはとりつつ進めていく	第３土曜日、 第２・４水曜日	のんたん分室	山岸

	ことで、子ども同士で助け合う場面が増えてきた。 ・片付けまでがクッキングであることを今後も継続していく。 ・平日は疲れて来る子が多いこと、夕食への影響を心配する子もいる為、シンプルな工程で作れるお菓子作りを中心に内容を考えていく。長期休みや土曜日では軽食作りをしていく。みんなで作った料理をみんなで話しながら、楽しく食べる事を大事にしていきたい。			
ヨガ	秋以降、ヨガ講師、宮本先生に毎月土曜日１４時からレッスンを行った。 ・事前に参加者の特性を先生にお伝えし、特性等を考慮したうえで、先生がレッスンの流れを汲んでくれたが、その日の子どもの参加様子を見て臨機応変に内容を変更してくださった。身体を上手に動かせない子が多い事を知り、ハンディキャップヨガの講習も受講され、子どもたちの身体的特性を考慮した、指先や足先の神経を鍛える動きも取り入れていった。ハードな動きを求める子に対しては、タオルを使ったりし興味を惹くメニューを組み入れてくれた。 ・最初は見るだけの子も回を重ねる毎に参加する頻度が高くなり、最初から最後までヨガマットの上でできる子もいた。 →次年度は、引き続き同じ内容を重ねていき、自分の身体を知る、身体を休ませる（気持ちよい感覚）等を感じてもらいながら、体感を鍛えていく。身体がうまく動かせない子に対しては、無理のない範囲で支援者がサポートをし、できたという達成感を味わってもらう事を継続していきたい。	第１土曜日	のんたん分室、本館４階	山岸

令和５年度事業報告書

特定非営利活動法人ザ・ホープフル
ぱれっと

全体報告内容

本年度は、新型コロナウイルスも５類に変更なったことで以前の様に外での活動が出来るように少しはなりました。最初の取り組んだのが、昨年にアートを少し始めた事もあり、本格的に企業連携型アートに取り組みました。初めての事もあり、利用者のみんなもどのようにしたらいいのか分からない状態でスタートし、アートの時間を作り、班ごとに思い思いの絵を描いてもらいました。今まで見た事のないセンスや能力が発揮されるかたがおられ、新しい一面の発見につながりました。色の使い方、絵のタッチ、想像力の豊かさなどそれぞれの個性が表現される事で、内面が少し理解できた感じがありました。色んな作品から３作品選び、選考に出しましたが残念ながら企業さんの目に留まることがなく、商品としては叶いませんでした。しかし、この取り組みのおかげで今までとは違たった個性に気づくことができました。いい経験になりましたが、今後はこの連携がどのようになるのか相手先が計画自体を一旦白紙に戻したのでそのまま企画自体ストップしている状態です。

作業の方は新しくペットの犬・猫の餌を取り扱う企業と連携をとる事になりました。工賃を倍増することも目的とありましたので、単価の良い作業を開拓できで良かったです。作業自体は初めての事が多かったので、慣れるまでは苦労しましたが、出来る作業から少しずつ、覚えていくのですが、納期などでゆっくり教える時間が無く、納期に追われる日々が続きました。少しずつ、利用者にも出来るようにジグなどを一緒に作り、時間がある時に覚えてもらい、少しずつではありますが出来るようになってきました。また、企業の方がぱれっとにも来てくれて、利用者の方とコミュニケーションをとってくれた事で、難しい作業に対しても積極的に作業に取り組もうとする姿勢があらわれました。今後、新しい商品も開発してらしく、一層仕事を増やせるように意見交換などして出来る作業はやっていきたいと思います。

体験実習では高校生の方がぱれっとに来てくれる事で、先輩としての自覚を持ち、仕事内容を伝える事の難しさや、やりがいを体験してもらうことが出来ました。今までは教えてもらう事の方が多かったが、教える立場になると自然と言葉遣いも気を付ける事が出来ていました。外部の方が入る事で仕事に対しての意識付けもできるので、すごくいい実習になりました。引き続き、来年度も実習や体験が来られる際には先輩として教える立場の経験をもっと多く経験させていきたいと思います。

土曜日イベントプログラムは、外での活動も少しずつ増え、気分転換になりました。が、以前できていたアスレチックなどはできなくなったりと、体重の増加にともない出来ないことも増えてしまっている一面もありました。運動の時間は楽しく続けられて、筋肉をつけ、汗をかけるような工夫をし、ダンスや室内で動く上下運動なども取り入れました。が、年齢とともに年々体重の増加は止める事が難しく、現在も困難事例になっております。

勉強に関しては、お金をメインにすることから社会的に身につけるスキルと範囲を広め、楽しく学ぶ事を重視するようなプログラムに変更しました。担当のスタッフが利用者に何を学んでもらい、何を身につけたいのかを考えて勉強内容を組み立てくれました。その結果、スタッフによって内容が違う勉強は１か月ごとに内容が変わるので、楽しく学ぶ事が出来、また、次回自分たちがする内容の見通しがつくことで安心感をもって取り組むことができていました。他の見学者や支援者からも勉強の時間の内容はいつも好評なコメントをもらっています。

スタッフのスキル向上を目指し、パソコンを使っての勉強を引き続きやり、振り返りを全スタッフですることで、視点の違いをそれぞれ気づくことができました。また、基礎的な事から振り返りができるので、現場のみでの知識がしっかり座学を学ぶ事で、リアルと勉強が一致することが多く、障がいに対しての理解度がＵＰしました。引き続きスキルを磨いていきたいとおもいます。

今年度は少しずつコロナ前の動きがとれるようななった１年だったので、少しずつ、外の活動も取り入れていきたいと思っております。

・見学者・体験者　15 組
・定着支援　毎月 1 回、企業へ連絡（訪問はなし、本人との連絡）
・医療連携　4 月から継続　（ジョイ訪問看護ステーション堺）
・土曜日プログラム
4 月 1 日　桜！お花見！大阪城公園！ポカポカ陽気に包まれて(^^♪
5 月 13 日　大人気企画 BBQ
7 月 1 日　大阪市立科学館へプラネタリウム
7 月 15 日　竹で流す！なんでも麺流し
8 月 5 日　夏だ！縁日だ！お祭りだ！
9 月 2 日　9 月は防災！大阪市立阿倍野防災センターへ！
10 月 7 日　秋だ！体を動かすぞ！運動会！
11 月 18 日　秋の食材焼きます！恒例 BBQ！
12 月 2 日　カラオケで歌って踊って気分上々♪
1 月 6 日　初詣！御幸森！コリアタウン散歩！
2 月 3 日　節分！手巻き寿司！鬼も福も内に
2 月 17 日　寒い日には鍋を囲もう
3 月 2 日　自分好みにひな寿司を作ろう(^^♪

・大阪府立生野支援学校　実習生受け入れ　8 月 22 日～23 日　1 名（3 年生）
10 月 16 日～20 日　1 名（3 年生）
1 月 22 日～24 日　3 名（1 年生）
1 月 29 日～31 日　3 名（1 年生）
体験実習　10 月 17 日・19 日　ぱれっと内（2 年生）
合同説明会　7 月 31 日　学校内
・四恩学園合同説明会　9 月 16 日
・東朋高等専修高等学校　実習生受け入れ　8 月 29 日　1 名
・のんたん　7 月 31 日　8 月 21 日　6 名ほど
・大阪市東部地域就労移行支援事業所連絡会 E-Cheers
マナー講座　（生野支援学校　7 月 10.11 日　10 月 12.13 日　2 月 20.28 日）
※他事業所への体験見学同行
東朋高等専修学校合同説明会　6 月 17 日
大教大付属高校合同体験会　10 月 13 日
・地域共生ケア生野推進委員会（毎月 1 回）
・生野区 NPO 連絡会（毎月 1 回）
・生野区花と緑のまちづくり推進　緑化友の会　（4 月、10 月種まき・水やり・寄せ植え講座・花らんまん）
・SFK　中央区フィランソロピー懇談会　毎月 1 回（イベント参加・勉強会）ZOOM 参加
・介護予防ポイント事業委託（NPO 法人フェリスモンテ）毎月 4 回とプラスα（家の掃除など）
・インクルージョン実行委員会アート展　企業連携型アート　4 月スタート
・Lean on ME スペシャルラーニング　職員研修継続
・新規企業連携

令和６年度事業計画書

特定非営利活動法人ザ・ホープフル
ぱれっと

全体の事業計画

今年度は昨年計画していた、外での活動を増やす事をしていきたいと考える。地域企業との委託事業として廃坑になった学校の共有スペースの掃除を取り入れていきたいと思っています。地域との連携を増やし、もっと障がい者施設の事を知ってもらう機会を増やしていきたいと思います。
また、企業連携をする事で工賃ＵＰも計画し、少しずつ全国平均まで工賃を引き上げれるようにしていきたいと思う。そのため、新しい企業開拓も必要になってくるので、営業にも力を入れていくが、出来るなら地域企業との連携を強くしていくようにします。また作業に対しての単価をしっかり見直しをして、企業との交渉にも力を入れていきたいと考える。すべてにおいて、値段が上がっているに対して、障がい者がする作業の単価はほとんど上がる事がないので、障がいに理解のある、企業を開拓ししっかりこちらの出来る事と企業が求めている事がマッチングできるようお互いに WINWIN になる関係を作れるようにしていきたいと考える。また、作業自体を自社でできるものも考えていく。内職だけに留まらず、生産品分野にも目を向けて自社製品のカテゴリーにも挑戦をしたいと思う。

勉強については引き続き行い、チーム編成を考えながら、コミュニケーション力を UP させるように色んな方と関われる仕組みを作る。普段は仲のいい者同士で集まってしまい、普段関わらない年齢差のある方との接点も増やしていく。また、先輩・後輩として、仲間同士で教えられる関係性を構築していく。スタッフには色んなジャンルでの情報を伝えるように遊びを取り入れた勉強を提供する。

スタッフ勉強に関しては引き続き、オンライン動画を見ながら勉強し、全員で振り返りをする。また、一人ひとりではなく全員で一緒に動画視聴し、すぐに現場とのすり合わせで意見交換を出来るように現場ライブを遂行していく。

運動に関しては体重増加が気になるので、自分自身で現在の体重などを意識してもらうように月１回の体重測定から月２回に変更し、グラフを付けるようにし、自分で見て分かるようにする。意識をもってもらう事で自分の今の姿、もしくわなりたい自分を目指すようにしてもらう。運動に関しては、月曜日と水曜日に行い、気候のいい季節は外へ散歩に行き、日々動かさない足を 30 分ほど歩いて刺激と血流効果を促進させる。暑い季節や寒い季節、また雨などの外に出にくい時期は施設内でできる運動を取り入れていく。出来る限り、体全体を使う運動を取り入れる。似た動きでもまずはしっかり体を動かす事をメインとする。
その他は去年から続けている活動を主に続けていく。

・お出かけ＆施設内行事プログラム　月１回もしくは２回
・大阪府立生野支援学校　実習受け入れ（6 月、10 月）3 年生　（1 月）1 年生
・その他支援学校からの実習受け入れ（8 月、12 月、3 月）
・大阪市東部地域就労移行支援事業所連絡会 E-Cheers
　合同相談会（6 月東朋高等専修学校説明会）
　マナー講座（6 月 10 月 1 月　生野支援学校）
　　（その他支援学校へ開拓）

・地域共生ケア生野推進委員会（毎月１回）役員
・生野区 NPO 連絡会（毎月１回　役員）
・関西中小工業協議会（企業開拓、勉強会）

・生野区花と緑のまちづくり推進　種花 4 月 9 月　花らんまん 11 月
・他団体との交流・勉強会
・Lean on ME スペシャルラーニング　職員研修
・インクルージョン実行委員会　アート部門企業連携（保留）
・多文化ふらっと連携委託事業トイレ掃除・園芸ボランティア
・介護予防ポイント事業委託継続　※数か所増検討

R5 年度　事業報告書「子育て広場　マザーリーフ」

＜概要＞

　今年度は新型コロナウィルスの影響による広場の予約制が撤廃になり、時間制限のない自由な利用ができるようになった。過去 3 年間予約制で時間制限もあった利用方法からスムーズに移行できるか、利用者にとって不安はないかなど、混乱を招かないよう色々な場面を想定して準備をしていたことと、奈良市との連携により移行期間を設けて利用者 1 人 1 人に説明できていたことで、スムーズに移行できた。

その後自由な利用が地域に浸透していくにつれ利用者数が増加し、年間の利用者数はのべ 10,204 人、その内新規利用者数は 1783 人、昨年度より 3.78 倍（2022 年度新規利用者 472 人）となった。広場定員数をオーバーする来所もあったため、交代での利用を周知し、順番待ちや講座時の定員減を周知するなど、丁寧な対応心がけた。またランチタイムも再開し、「お弁当持ってきて食べてもらえます」とアナウンスを続けることで少しずつ利用が増えた。「周りの人に気兼ねなく食べさせられる」「食べた後も遊べる」と喜ばれている。家で食べるのも良いが、気分を変えて楽しめるとの声もあった。

また今年度から、全拠点で子育てコーディネーターが配置された。マザーリーフとしては初めての活動がとても多く、スタッフ同士、拠点同士、地域で活動している他職種専門職の方々との連携体制を持ちその大切さを感じた一年だった。

　基本事業では、「広場に来る親子を温かく出迎え、交流を楽しみながら子育て親子同士がつながることができる広場」を大切に日々地道にサポートしていくことを心がける中、個別支援にも視線を向け、基本事業従事者と子育てコーディネーターが連携を取りながら相談窓口につないだり情報提供を行ったりした。広場内で行った講座では、「先輩ママに聞いてみよう」という、マザーリーフを利用しているお母さんをボランティア講師として保育園の話や仕事復帰までにしておくといいことなど話してもらう座談会を行った。縦のつながりを形成するきっかけとして、また双方のエンパワメントを高める講座として来年度も継続したい。他には、「年齢で分けた講座があるとうちの子でも参加できると思える」という利用者からの声とアンケートにより、「ベビーのひろば（生後 6 ヶ月までが対象）」の次の段階として 7 ヶ月から 11 ヶ月の赤ちゃんと対象にした「ミニおはなし広場」を毎月開催した。「手遊びやふれあい遊びを知りたい、絵本を読んで聞かせたいが何を読んで良いかわからない」といったニーズに答えた内容であり、親育ちと親子交流促進を目的とした講座として毎月開催した。対象月齢を定めたことで親同士の交流が進み、講座後広場で談笑する親子も多かった。

　利用者支援事業では、子育てスポットやサークルに出向いて、児童委員さんやサークル代表の方々に子育てコーディネーターの役割と意図、連携の意思を伝えることから始め地域連携を図った。初めて地域のお祭りにマザーリーフとして参加し、地域に貢献する第一歩として踏み出せた。１月には～暮らしに芸術の感動を届けるプロジェクト～に参画し、「みんなで楽しむ音楽会」を開催した。子育て家族だけでなく、地域で活動する方々にも声をかけ、地域のつながりを構築するきっかけ作りと身近で楽器演奏に親しむ機会を持った。また、ならファミリーさん近鉄百貨店さんとの連携により奈良医科大学の先生、生徒の皆さんと「プレママプレパパセミナー」を開催、これまでできなかったプレママプレパパをターゲットにした講座に挑戦した。このセミナーをきっかけに広場見学や奈良市の子育て支援拠点の広報にもつながり、大きな成果となった。もう一つ、ヘリコプターの会でのつながりから、マザーリーフのチラシの英語版を利用者ボランティアの協力により作成し、広場での活用と奈良県外国人支援センターのチラシ設置を実現した。

<利用状況>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数（日）	20	21	21	21	20	20	21	20	20	19	18	21	242
利用者数（人）	696	721	777	838	826	872	922	903	902	943	884	920	10,204
一日平均（人）	34.8	34.3	37	40	41.3	43.6	44	45.2	45.1	49.6	49	43.8	42.2

<活動内容>

	講座イベント	**会議研修**
4月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「親子でふれあいリフレッシュ」 ・クラフト＆おしゃべり会「ロゼット作り」	・マザーリーフ会議 ・ヘリコプターの会 ・学びのシェア会 ・法人研修
5月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「ベビーマッサージ」 ・栄養士さんによる個別栄養相談 ・教えて！情報ボード「親子でおでかけスポット」	・マザーリーフ会議 ・ヘリコプターの会 ・ひろば全協利用者支援専門員の広場 ・利用者支援学びのシェア会 ・ひろば全協　初任者研修
6月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「手作りおもちゃ講習会」 ・くりちゃんとあそぼう！「おはなしなあに」 ・七夕工作 ・（出張講座）歯ぴか教室手遊び	・マザーリーフ会議 ・ヘリコプターの会 ・ひろば全協利用者支援専門員の広場 ・ひろば全協　初任者研修 ・M’ｓねっと協議会
7月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「親子でふれあいリフレッシュ」 ・保育コンシェルジュさんのおはなし ・七夕工作 ・先輩ママに聞いてみよう（保育園編）	・マザーリーフ会議 ・利用者支援研修 ・ひろば全協テーマ別交流会 ・ひろば全協利用者支援全問員の広場 ・ケース会議
8月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「ベビーマッサージ」 ・栄養士さんによる個別栄養相談 ・クラフト＆おしゃべり会「ロゼット作り」 ・ファーストブック広場 ・親子でえいごあそび	・マザーリーフ会議 ・ヘリコプターの会 ・ひろば全協テーマ別交流会「拠点におけるファミサポ」
9月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば ・乳幼児向け応急手当講習会 in 平城公民館 ・ならファミリーは子育てファミリーを応援します「おはなしなあに？」「プレママプレパパセミナー」 ・親子でえいごあそび ・ファーストブック広場	・マザーリーフ会議 ・子育てコーディネーター連絡会 ・子育てアドバイザーフォローアップ講座「妊娠～育児の情報　今むかし」
１０月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「ベビーヨガ」 ・ハロウィン工作「スタンプカード」 ・ファミサポ説明会 ・ミニおはなし広場 ・（出張講座）ぱくぱく教室手遊び	・マザーリーフ会議 ・法人研修

１１月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「センサリーバッグ」 ・栄養士さんによる個別栄養相談 ・出張広場（ふしみふれあい祭り） 「おはなしなあに？」「オリジナルエコバッグ作り」「プラレール広場」 ・ミニおはなし広場	・マザーリーフ会議 ・法人研修 ・臨床心理士さんとの合同研修会
１２月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「ベビーマッサージ」 ・ミニクリスマス音楽会 ・ミニおはなし広場 ・教えて！情報ボード 「クリスマスプレゼント何にする？」	・マザーリーフ会議 ・ヘリコプターの会 ・子育て交流会 in 平城公民館 ・子育て広場、子育てスポット交流会
1月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「親子でふれあいリフレッシュ」 ・ミニおはなし広場 ・みんなで楽しむ音楽会 in ふしみ公民館	・マザーリーフ会議 ・ヘリコプターの会 ・法人研修 ・育成課振り返り ・年間計画会議
2月	・おもちゃ病院 ・ベビーのひろば「手作りおもちゃ講習会」 ・ミニおはなし広場 ・親子であそぼう「一歳児さんあつまれ！」 １歳～１歳５ヶ月対象 １歳６ヶ月～１歳１１ヶ月対象	・マザーリーフ会議 ・M's ねっと連絡協議会 ・ひろば全協専門員の広場 ・地域交流会 in にじいろ
3月	・おもちゃ病院・ベビーのひろば ・ベビーのひろば「ベビーマッサージ」 ・ミニおはなし広場 ・スタンプ遊び　２～３歳対象	・マザーリーフ会議 ・産前産後母子支援事業シンポジウム～連鎖を防ぐ繰り返さないためにどうしたらいいか、搬送する福祉と医療の連携のあり方を問う～ ・男性の育児休業がええやん！～笑ろてるパパのすすめ～ ・教育のための TOC　クリティカルシンキング国際カンファレンス 2024 ・子育てコーディネーター連絡会

その他地域連携

・M's ねっと連絡協議会

・子育て広場 PEACE

・子育て広場とみお

・子育てスポット　子育てサロン天使の広場

・子育てスポット　いちご組

・子育てスポット　子育て広場１，２，３

・子育てスポット　ミルクハートミルク

・あやめ池子ども文庫

・奈良市社会福祉協議会

・奈良県立医科大学

・伏見地域ふれあい会館

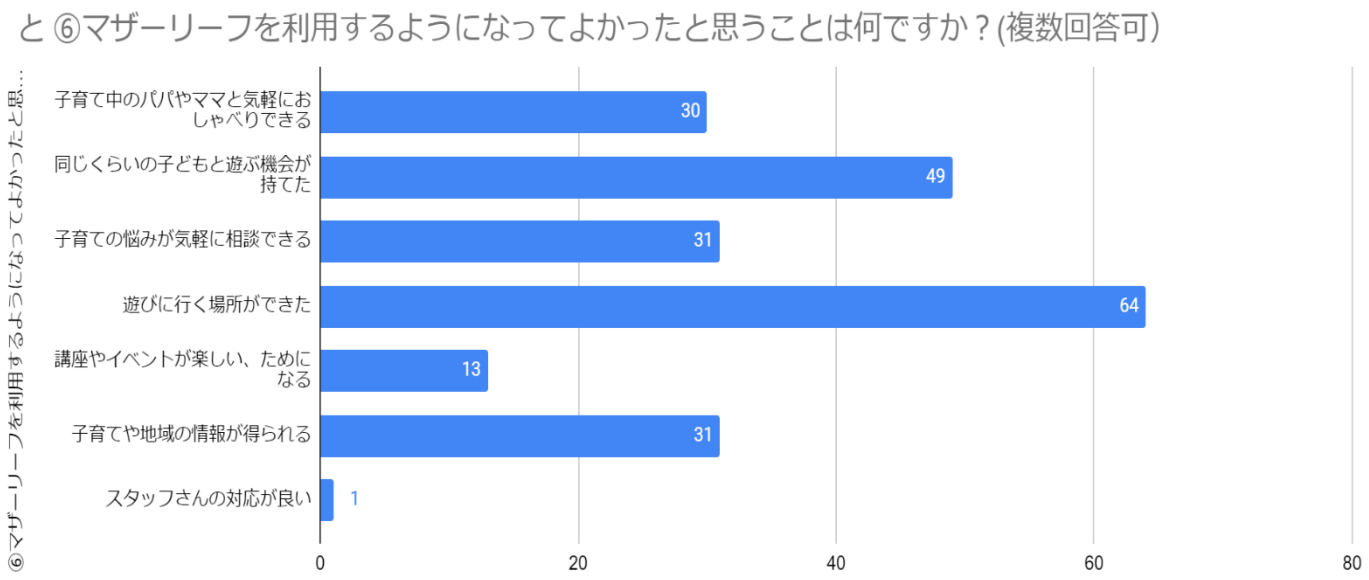
・平城公民館

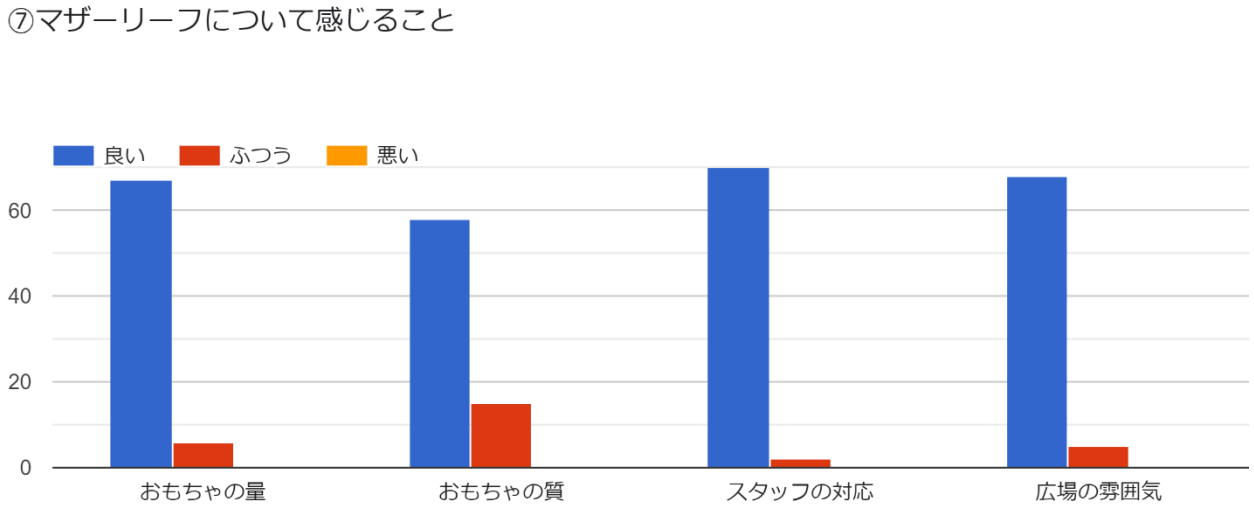
・ふしみ公民館

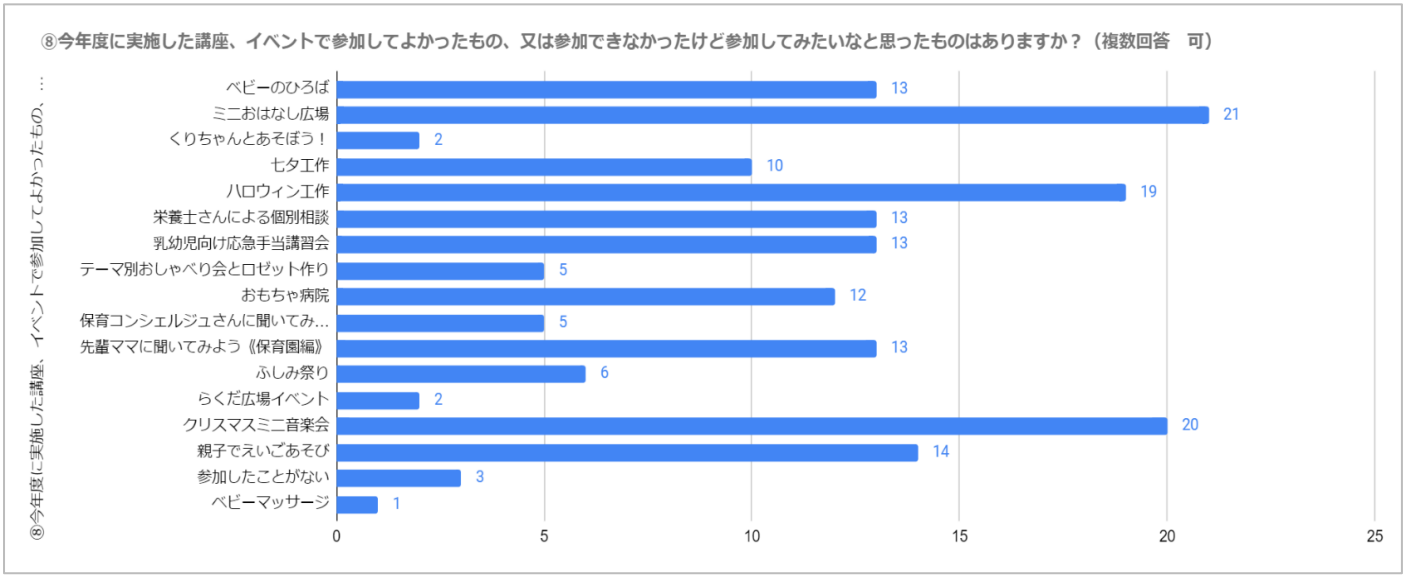
・フードドライブ（第一学院、奈良市フードバンク）

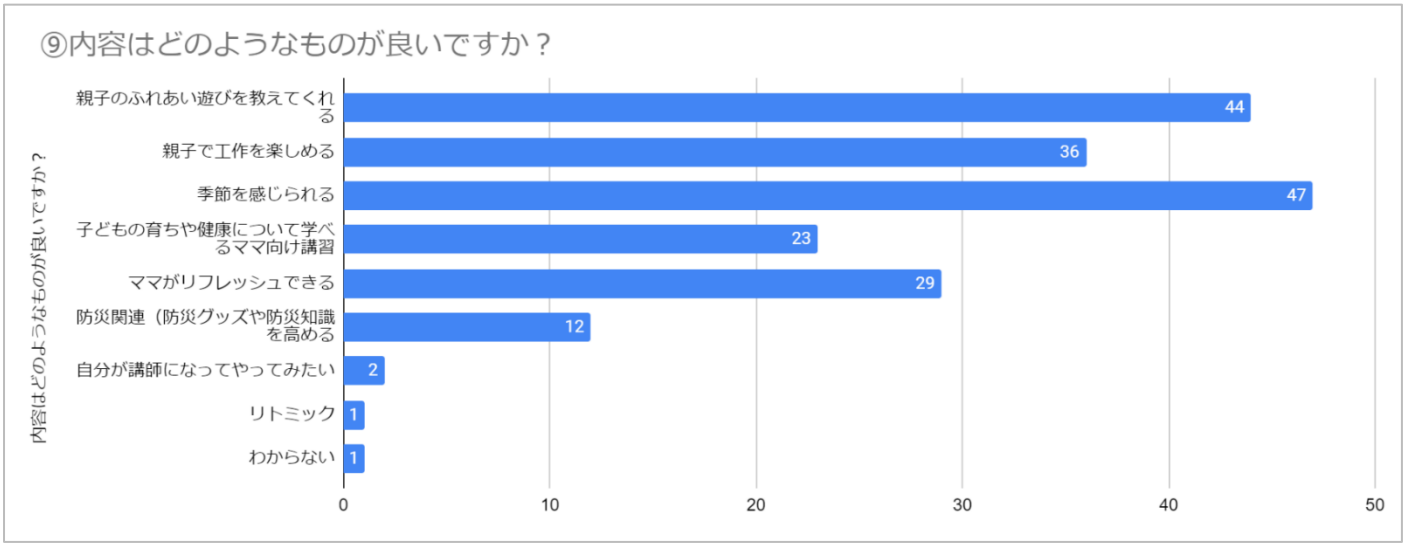
・おもちゃ病院

〈利用者アンケートから〉


と ⑥マザーリーフを利用するようになってよかったと思うことは何ですか？(複数回答可)
⑥マザーリーフを利用するようになってよかったと思…
子育て中のパパやママと気軽におしゃべりできる
30
同じくらいの子どもと遊ぶ機会が持てた
49
子育ての悩みが気軽に相談できる
31
遊びに行く場所ができた
64
講座やイベントが楽しい、ためになる
13
子育てや地域の情報が得られる
31
スタッフさんの対応が良い
1
0
20
40
60
80


⑦マザーリーフについて感じること
良い
ふつう
悪い
60
40
20
0
おもちゃの量
おもちゃの質
スタッフの対応
広場の雰囲気


⑧今年度に実施した講座、イベントで参加してよかったもの、又は参加できなかったけど参加してみたいなと思ったものはありますか？（複数回答　可）
⑧今年度に実施した講座、イベントで参加してよかったもの、…
ベビーのひろば
13
ミニおはなし広場
21
くりちゃんとあそぼう！
2
七夕工作
10
ハロウィン工作
19
栄養士さんによる個別相談
13
乳幼児向け応急手当講習会
13
テーマ別おしゃべり会とロゼット作り
5
おもちゃ病院
12
保育コンシェルジュさんに聞いてみ…
5
先輩ママに聞いてみよう《保育園編》
13
ふしみ祭り
6
らくだ広場イベント
2
クリスマスミニ音楽会
20
親子でえいごあそび
14
参加したことがない
3
ベビーマッサージ
1
0
5
10
15
20
25



アンケート結果から、日常的に広場の楽しい雰囲気や親子が安心して過ごせる場所の提供ができていること、また利用者が気軽に相談できる体制や情報提供も、おおむね整っていることが読み取れた。講座内容に関しては、今年度新しく始めた講座「ミニおはなし会」「クリスマスミニ音楽会」「先輩ママに聞いてみよう」などに興味をもっている親子が多いこともわかった。毎年開催している「ベビーのひろば」「栄養士さんによる個別栄養相談」、季節感のあるイベントもニーズの高い催しであることも確認できたので、来年度の行事の参考にしたい。また、「応急手当講習会」は、毎年実施いている講座であるが、少しずつ防災意識が高まっているのか、受けて良かったとの声もあるので、回数を増やして実施し、1 人でも多くの親子に参加していただきたいと考えている。

以上